

川西市
男女共同参画に関する市民意識調査
結果報告書

平成 29 (2017) 年 3 月

川 西 市

目次

．調査の概要	1
1．調査の目的	1
2．調査の設計	1
3．回収結果	1
4．報告書の見方	3
．調査結果の要約	5
1．回収率及び回答者の属性について	5
2．男女平等について	5
3．性別役割分担意識について	6
4．家庭と仕事について	6
5．性と人権について	6
6．男女共同参画施策の周知について	7
7．女性の活躍推進について	7
．アンケート結果	9
1．回答者の属性	9
(1) 性別	9
(2) 年齢	9
(3) 結婚の有無	10
(4) 家族構成	10
(5) 就労状況	11
仕事の有無	11
仕事の内容	12
仕事をしていない理由	13
(6) 配偶者・パートナーの仕事の有無	15
2．男女共同参画について	17
(1) 男女の地位が平等と思うもの	17
(2) 男女共同参画に関する「ことば」や「ことば」の認知度	18
(3) ジェンダー問題や男女共同参画を学んだことの有無	21
(4) 学んだ機会	23
3．結婚と家庭生活について	24
(1) 結婚・離婚・家庭の考え方	24
(2) 家庭生活の担当	31
4．子育てについて	32
(1) 子育ての考え方	32
5．介護について	40
(1) 家族の介護の経験有無	40
(2) 介護した相手	41

(3) 介護方法	42
6 . 女性と仕事について	43
(1) 女性が仕事をする事についての意見	43
(2) 現在の女性は働きやすい状況にあるか	45
(3) 女性が働きにくいと思う理由	46
(4) 共働き夫婦の育児休業や介護休業の取得に対する意向	47
育児休業の取得意向	47
介護休業の取得意向	49
7 . ワーク・ライフ・バランスについて	51
(1) ワーク・ライフ・バランスの言葉の認知度	51
(2) 現実に最も近い環境	53
(3) 希望に最も近い環境	54
(4) 参加している地域活動	56
(5) 地域活動の状況	57
(6) 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと	60
8 . 性と人権について	62
(1) セクハラやDVは男女互いの性に対する人権侵害と思うか	62
(2) 自分やまわりの方がセクハラの被害にあったこと	63
(3) セクハラの被害にあったときの対応	65
(4) DV防止法の認知度	66
(5) DV被害の経験有無	68
(6) 受けたDVの内容	73
(7) DVを受けたときの相談有無	74
(8) 相談先	74
(9) 相談しなかった理由	75
(10) DV被害の相談先で知っている機関	76
(11) デートDVの認知度	78
(12) デートDVをなくすための対策	80
(13) 性教育に対する考え	81
9 . 市の男女共同参画施策について	82
(1) 川西市男女共同参画センターの利用有無	82
(2) 男女共同参画センターに望むこと	83
(3) 性別に配慮した対応で必要と思う防災・災害対策	84
(4) 女性のリーダーを増やす際に障がいとなるもの	85
(5) 女性のリーダーが増えた際の影響	86
. 自由意見	88
1 . 自由意見・要望（抜粋）	89
. 資料〔調査票〕	97

調査の概要

1. 調査の目的

川西市では、男女が性別に関わらず個性と能力を発揮し、いきいきと暮らすことができる社会の実現に向けて、平成25年3月に策定した第3次川西市男女共同参画プランに基づき、さまざまな取り組みを進めている。一方、国においては、平成27年8月に制定された「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」及びこの法律に基づき、同年9月に策定された「女性の職業生活における活躍の推進に関する基本方針」を踏まえ、地域における女性の職業生活における活躍を進めるための推進計画の策定を求めている。

平成29年度は第3次プランの中間見直しの時期にあたり、女性活躍推進計画の一体的策定を含め、今後の男女共同参画施策推進にあたっての基礎資料を得るため実施した。

2. 調査の設計

- (1) 調査対象 川西市に居住している満16歳以上の市民 2,000人
- (2) 抽出法 住民基本台帳による無作為抽出（平成28年8月1日現在）
- (3) 調査期間 平成28年8月16日～平成28年9月9日
- (4) 調査方法 郵送配布、郵送回収（ハガキによる督促1回）

3. 回収結果

回収状況

	配布数	有効回収数	有効回収率
女性	1,000	514	51.4%
男性	1,000	351	35.1%
合計	2,000	878	43.9%

有効回収数の合計には、「その他」1人、性別不詳12人が含まれている。

表1 回答数の性別・年齢構成

	項目	16	20	30	40	50	60	70	80	無回答	合計
		～19歳	歳代	歳代	歳代	歳代	歳代	歳以上			
全体	回答数	22	50	84	152	124	185	178	73	10	878
	%	2.5	5.7	9.6	17.3	14.1	21.1	20.3	8.3	1.1	100.0
女性	回答数	10	28	63	95	76	112	91	39	-	514
	%	1.9	5.4	12.3	18.5	14.8	21.8	17.7	7.6	-	100.0
男性	回答数	12	22	21	56	47	73	86	34	-	351
	%	3.4	6.3	6.0	16.0	13.4	20.8	24.5	9.7	-	100.0
その他	回答数	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
	%	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0
無回答	回答数	-	-	-	1	-	-	1	-	10	12
	%	-	-	-	8.3	-	-	8.3	-	83.3	100.0

表2 母集団の性別・年齢構成（平成28年7月末現在）

	項目	16 ～ 19 歳	20 歳 代	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	合 計
全体	母集団	6,403	13,298	17,139	25,538	18,284	22,420	21,550	13,062	137,694
	%	4.7	9.7	12.4	18.5	13.3	16.3	15.7	9.5	100.1
女性	母集団	3,096	6,904	8,880	13,098	9,478	12,150	11,613	7,821	73,040
	%	4.2	9.5	12.2	17.9	13.0	16.6	15.9	10.7	100.0
男性	母集団	3,307	6,394	8,259	12,440	8,806	10,270	9,937	5,241	64,654
	%	5.1	9.9	12.8	19.2	13.6	15.9	15.4	8.1	100.0

表3 調査時点の川西市の人口（平成28年7月末現在）

全 体	総人口	159,770人
	(%)	100.0%
女 性	女性	83,828人
	(%)	52.5%
男 性	男性	75,942人
	(%)	47.5%

【標準誤差】

今回の調査は、標本調査であるので、回答者のデータが市民の意識として十分信頼のおけるものであるかどうかをみる。

調査精度として、比率の推定の標準誤差をみるが、信頼度95%レベルにおいた場合、これは統計学理論から次のように与えられる。

$$E = \pm 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P \times (1 - P)}{n}}$$

E：標準誤差

N：母集団の大きさ（川西市民の16歳以上の人口）

n：標本の大きさ（回答者数）

P：あるカテゴリについての、母集団での回答率

この式の意味は、求める母集団におけるあるカテゴリ（注目した特性、多くの場合、調査項目と一致）の比率Pが、標本調査で得られた比率pの前後±Eの範囲に入っていると判断して95%間違いがないということである。

【標準誤差（10歳階級別）】

	p(%) n	5 95	10 90	15 85	20 80	25 75	30 70	35 65	40 60	45 55	50 50
総数	878	±1.4	±1.9	±2.2	±2.5	±2.7	±2.9	±3.0	±3.1	±3.1	±3.1
<性別>											
女性	514	±1.9	±2.6	±3.1	±3.4	±3.7	±3.9	±4.1	±4.2	±4.3	±4.3
男性	351	±2.3	±3.1	±3.7	±4.2	±4.5	±4.8	±5.0	±5.1	±5.2	±5.2
<年齢別>											
女性 16～19歳	10	±13.5	±18.6	±22.1	±24.8	±26.8	±28.4	±29.5	±30.3	±30.8	±30.9
20歳代	28	±8.1	±11.1	±13.2	±14.8	±16.0	±16.9	±17.6	±18.1	±18.4	±18.5
30歳代	63	±5.4	±7.4	±8.8	±9.8	±10.7	±11.3	±11.7	±12.1	±12.2	±12.3
40歳代	95	±4.4	±6.0	±7.2	±8.0	±8.7	±9.2	±9.6	±9.8	±10.0	±10.0
50歳代	76	±4.9	±6.7	±8.0	±9.0	±9.7	±10.3	±10.7	±11.0	±11.1	±11.2
60歳代	112	±4.0	±5.5	±6.6	±7.4	±8.0	±8.4	±8.8	±9.0	±9.2	±9.2
70歳代	91	±4.5	±6.1	±7.3	±8.2	±8.9	±9.4	±9.8	±10.0	±10.2	±10.2
80歳以上	39	±6.8	±9.4	±11.2	±12.5	±13.6	±14.3	±14.9	±15.3	±15.6	±15.7
男性 16～19歳	12	±12.3	±16.9	±20.2	±22.6	±24.5	±25.9	±26.9	±27.7	±28.1	±28.2
20歳代	22	±9.1	±12.5	±14.9	±16.7	±18.1	±19.1	±19.9	±20.4	±20.8	±20.9
30歳代	21	±9.3	±12.8	±15.3	±17.1	±18.5	±19.6	±20.4	±20.9	±21.3	±21.4
40歳代	56	±5.7	±7.8	±9.3	±10.5	±11.3	±12.0	±12.5	±12.8	±13.0	±13.1
50歳代	47	±6.2	±8.6	±10.2	±11.4	±12.3	±13.1	±13.6	±14.0	±14.2	±14.3
60歳代	73	±5.0	±6.9	±8.2	±9.1	±9.9	±10.5	±10.9	±11.2	±11.4	±11.4
70歳代	86	±4.6	±6.3	±7.5	±8.4	±9.1	±9.6	±10.0	±10.3	±10.5	±10.5
80歳以上	34	±7.3	±10.1	±12.0	±13.4	±14.5	±15.4	±16.0	±16.4	±16.7	±16.8

4．報告書の見方

- (1) 図表のN (Number of case) は、設問に対する回答者数のことである。
- (2) 回答比率(%) は回答者数(N) を100%として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して表示した。四捨五入の結果、内訳の合計が計に一致しないことがある。また、一人の対象者に複数の回答を求める設問では、回答比率(%) の計は100.0%を超える。
- (3) 図表中の「MA%」(Multiple Answer の略) や「3LA%」(3 Limited Answer の略) という表示は、複数回答形式の設問(回答選択肢の中から「あてはまるものすべてに」や「あてはまるもの3つまでに」を選択する形式の設問) である。
- (4) 設問によっては長文の項目が含まれるため、30文字以内にまとめて表記した。
- (5) 本文中にある前回調査とは「平成23年度調査」を指しており、平成26年内閣府世論調査は「女性の活躍推進に関する世論調査」、平成28年内閣府世論調査は「男女共同参画に関する世論調査」を指している。

. 調査結果の要約

1. 回収率及び回答者の属性について

平成11(1999)年に「男女共同参画社会法」が制定されてからすでに15年以上が経過しています。川西市においても、平成5年に「川西市女性プラン」が策定されて以来、男女共同参画社会の実現に向けた様々な取り組みが推進されており、引き続きこれらの取り組みを進めるにあたって男女共同参画についての市民の実態や考えを把握するために、市民意識調査を実施しました。

今回調査の回収率は43.9%で、前回調査(平成23年度)より7.5ポイント低くなっています。

標本は、母集団を代表する形で抽出されていますが、回答数は年齢の高い人が多いことから、その点を考慮して調査結果をみていく必要があります。

そのほかの属性について、性別は女性が6割近くに対して男性が4割、男女ともに既婚者が7割程度、家族構成は親と子の2世代世帯、夫婦のみの1世代世帯が全体の8割以上を占めています。

2. 男女平等について

川西市における男女の地位についての平等感(問1)は、多くの項目において女性は男性に比べて低くなっており、「家庭生活」や「地域活動の場」、「社会通念・習慣・しきたり」、「政治・経済活動への参加」では10ポイント前後の差があり、特に「法律や制度上」では18.6ポイント低くなっています。

一方、ジェンダー問題や男女共同参画を学んだり、教えられたりしたこと(問3)について、学んだことが「ある」人は、男女とも前回調査に比べ減少していますが、年代別でみると、16~19歳・20歳代の男女とも学んだことがある人は多くなっており、「新聞やテレビなどマス・メディア」を通じて学ぶ機会が多くなっています。また、「職場」も次いで多くなっていますが、女性に比べ男性のほうが17.3ポイント高くなっています。

子育てにおいては「夫も妻も等分に関わるのがよい」(問7)と肯定する人が男女とも8割台を占めています。また、育児休業の取得について(問14)依然として妻が取るのがよいとの考え方が多くなっていますが、「夫も妻も同じように取るのがよい」と思う人が男女とも4割台を占めており、男性では前回調査より7.5ポイント増加しています。

介護の経験(問8)では、依然として女性の経験者のほうが多く、50歳以降になると4~5割台を占めますが、男性の経験者は前回調査に比べ9.4ポイント増加しており、今回調査では50~70歳代で4割前後となっています。また、男女ともに、介護の相手(問9)は「親」に続いて「配偶者の親」が多くなっています。しかし、介護方法(問10)は、前回調査に比べて、男女ともに「主に自分一人で介護している」が増加し、「主に自分が介護しているが、配偶者、子どもなどの協力がある」は減少しています。

一方、職場が働きにくいと感じる女性(問12)が60.5%を占めており、雇用の創出

や労働条件の改善、保育・介護施設の充実が求められています（問13）。

3．性別役割分担意識について

性別役割分担意識（問5）は、前回調査（平成23年度）と比べて男女とも10ポイント以上の減少ですが、男女差は僅かに増加しています。

子育ての考え方（問7）では、「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい」と思う人は、女性が37.7%に対し、男性は60.4%と多くなっていますが、男性は若い年代で「そう思わない」と考える傾向が多くなっています。

地域活動においても参加する活動に性差がみられ、特に「PTA活動」は女性のほうが9.6ポイント高くなっています（問18）。また、地域活動の状況（問19）として、女性は「お茶入れや食事の準備など」の裏方的な役割を担うなど、性差による役割がみられます。

4．家庭と仕事について

結婚・離婚の考え方について、「結婚しても相手に満足できない場合は離婚すればよい」（問5）と思う人は、女性が56.0%を占めており、男性も45.0%と多く、前回調査に比べ男女とも増加しています。

ワーク・ライフ・バランスの実現について、現実（問16）では、女性は「家庭生活を優先」している人の割合が高く、男性は「仕事を優先」「家庭生活を優先」「仕事と家庭生活をともに優先」している人が同水準となっています。しかし、希望（問17）としては、現実と比較すると、男女とも「仕事を優先」したい割合が低下しており、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」したい割合が高く、ワーク・ライフ・バランスの実現を希望する人が増えています。

女性の働き方（問11）では、前回調査に比べ、男女とも「結婚や出産までは仕事をもつ方がよい」は減少し、女性は「子どもができて育児休業をとる等し仕事はずっと続ける方がよい」、男性は「結婚や出産で退職・一時離職し子育て後に再び仕事をもつ方がよい」の増加が目立っています。

5．性と人権について

自分やまわりの方がセクシュアル・ハラスメントの被害にあった割合（問22）は、女性が27.6%、男性は20.5%となっています。また、セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンス（DV）を男女互いの性に対する人権侵害と思う人（問21）は、男女とも約9割を占めています。

DV被害の経験がある人（問25）は、女性で9.5%となっており、30歳代が17.5%と他の年代に比べ高くなっています。DV被害のある女性のうち、相談をした女性が

34.7%に対し、一方の相談していない女性は63.3%を占めています（問27）。相談しなかった理由（問29）として「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていけると思ったから」が48.4%で最も多くなっています。

性教育の考え（問33）について、男女とも「学校で教師が子どもの成長に応じて必要な事を教えていくのがよい」が最も多く、次いで「家庭で家族が子どもの成長に応じて必要な事を教えていくのがよい」となっていますが、両項目とも女性は6割台に対し、男性は5割台で、女性のほうが高くなっています。

6．男女共同参画施策の周知について

男女共同参画に関する「ことがら」や「ことば」の認知度（問2）は、男女ともに、「マタニティ・ハラスメント」や「セクシュアル・マイノリティ」、「育児・介護休業法」は高くなっているが、「第3次川西市男女共同参画プラン」や「川西市男女共同参画推進条例」、「女性活躍推進法」、「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康の増進と権利の擁護）」の認知度は低くなっています。

川西市男女共同参画センターの利用有無（問34）について、「利用したことがある」人は、女性が6.6%、男性は2.0%となっており、「知らない」が女性で49.4%、男性で67.0%と高くなっています。

また、川西市男女共同参画センターに望むこと（問35）について、女性は「女性の悩みごと相談などの相談事業の充実」と「セクハラ・DV被害者への相談・支援」が4割台で多くなっており、男性では「セクハラ・DV被害者への相談・支援」や「自主的な活動への助成・支援」、「男女共同参画に関する図書や情報の収集・提供」、「就労を支援する講座の充実」が3割台で多くなっています。

7．女性の活躍推進について

女性のリーダーを増やす際に障がいとなるもの（問37）については、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」や「保育・介護・家事等における夫等の家族の支援が十分ではないこと」、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」が男性より女性のほうで10ポイント以上高くなっています。また、「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」では、内閣府世論調査と比較すると、男性は17.5ポイント高くなっています。

女性のリーダーが増えた際の影響（問38）については、男女ともに「男女を問わず優秀な人材が活躍できるようになる」や「多様な視点が加わる事で新たな価値や商品・サービスが創造される」が多くなっています。また、内閣府世論調査と比較すると、男女とも「男女を問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる」が10ポイント程度高くなっており、男性では「男性の家事・育児などへの参加が増える」が11.7ポイント高くなっています。

.アンケート結果

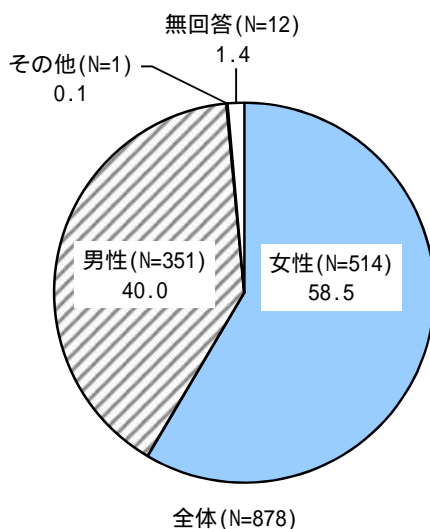
データを解釈するうえでの留意点

本調査の回答者集団は、本市の母集団に比べて、男女ともに50歳以上の年齢層が多く、その結果、全年齢層を合わせた市全体の回答は、男女ともに50歳以上の意識がより多く反映されている。前回調査の結果と比較している設問についても、前回調査に比べてより高い年齢層の意識が多く反映されている。

このことから本調査結果については、以上の点を考慮のうえ、解釈することが必要である。

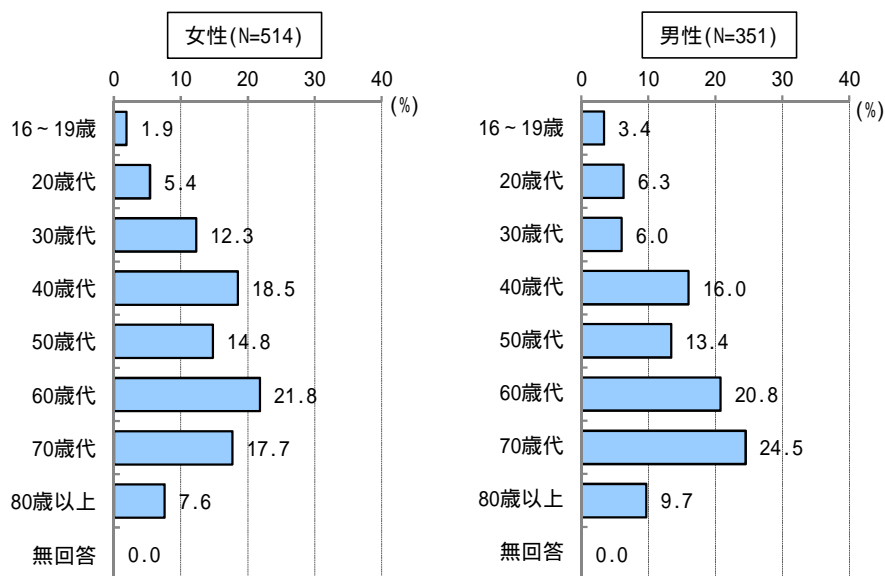
1. 回答者の属性

(1) 性別



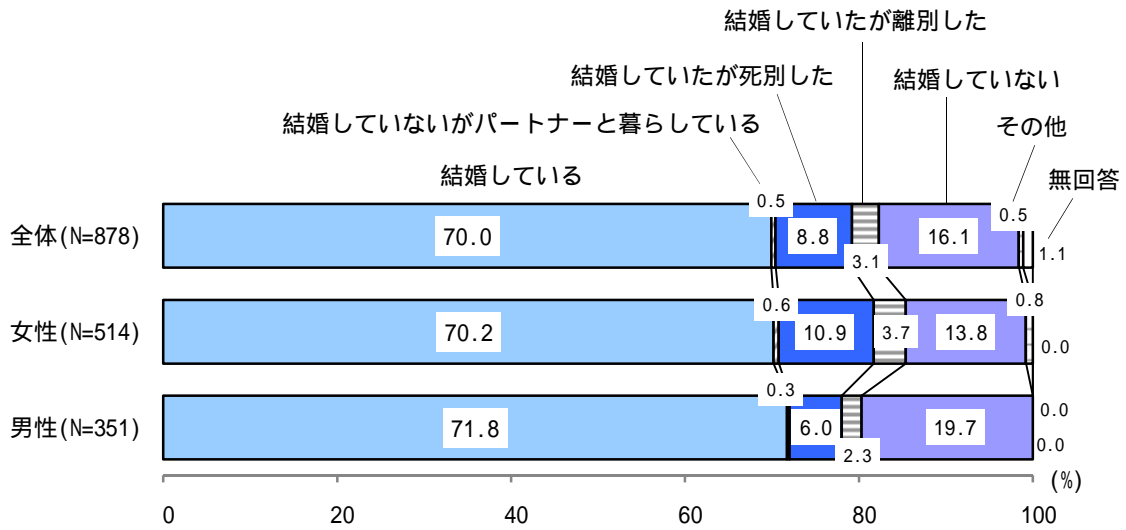
回答者の性別では、「女性」が58.5%、「男性」が40.0%、「その他」は0.1%となっている。

(2) 年齢



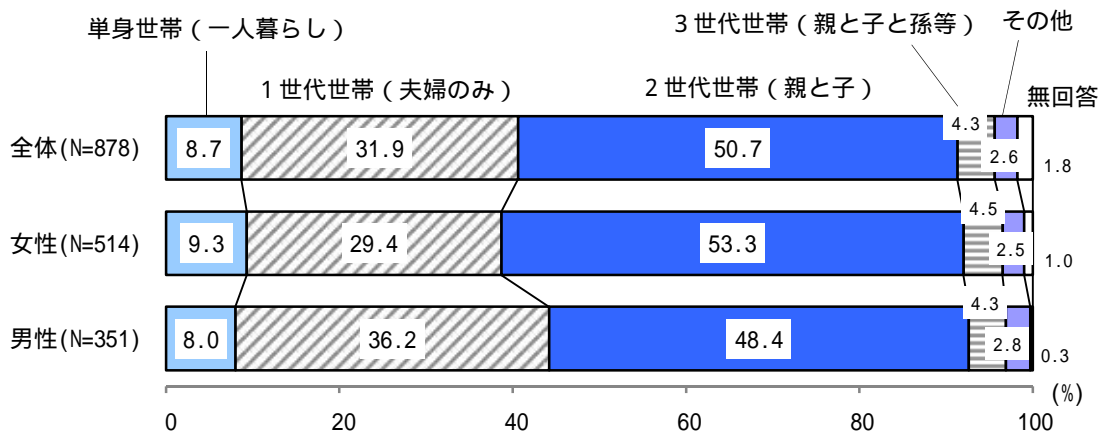
回答者の年齢では、女性は「60歳代」が21.8%で最も多く、次いで「40歳代」が18.5%、「70歳代」が17.7%となっている。一方、男性は「70歳代」が24.5%で最も多く、次いで「60歳代」が20.8%、「40歳代」が16.0%となっている。

(3) 結婚の有無



回答者の結婚の有無について、男女とも「結婚している」が7割台を占めており、「結婚していない」では女性が13.8%、男性は19.7%となっている。

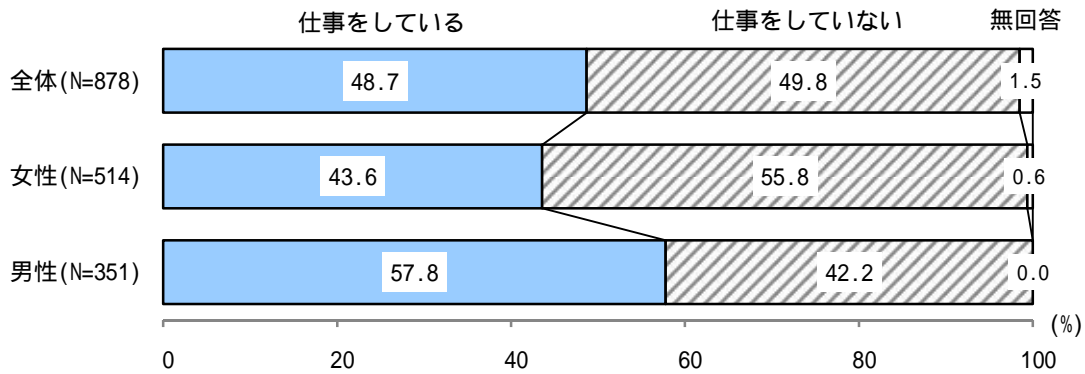
(4) 家族構成



回答者の家族構成では、男女とも「2世代世帯(親と子)」が5割前後を占めて最も多くなっている。これに次いで「1世代世帯(夫婦のみ)」が多く、女性29.4%、男性36.2%で、男性のほうが6.8ポイント高くなっている。「単身世帯(一人暮らし)」では、女性9.3%、男性8.0%で、僅かに女性のほうが高くなっている。

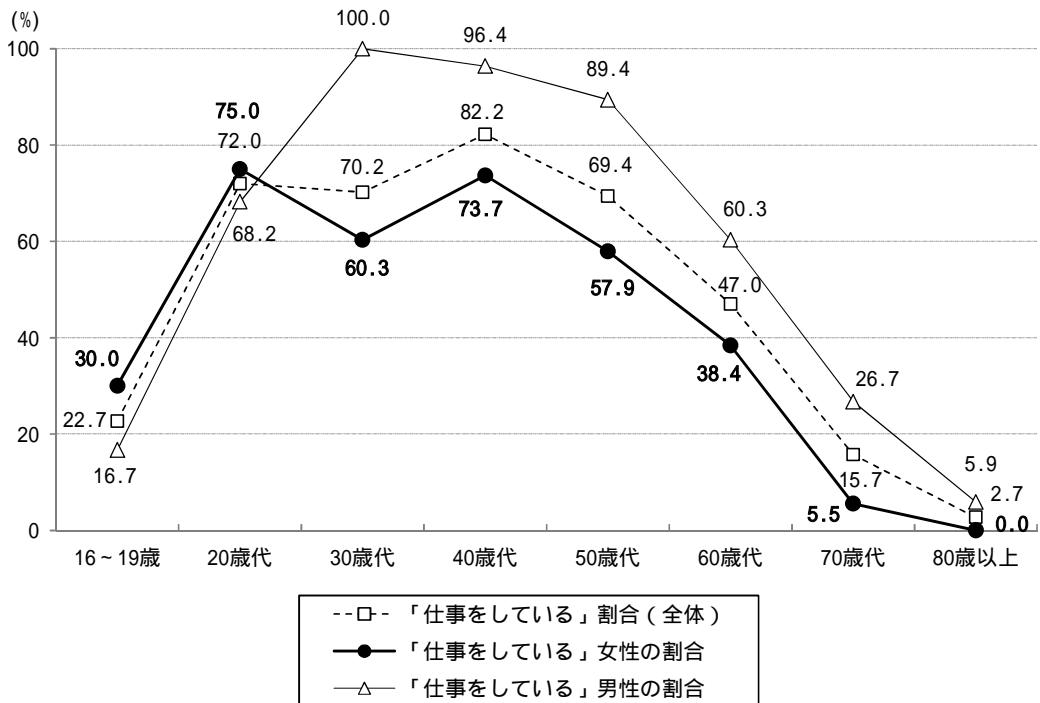
(5) 就労状況

仕事の有無



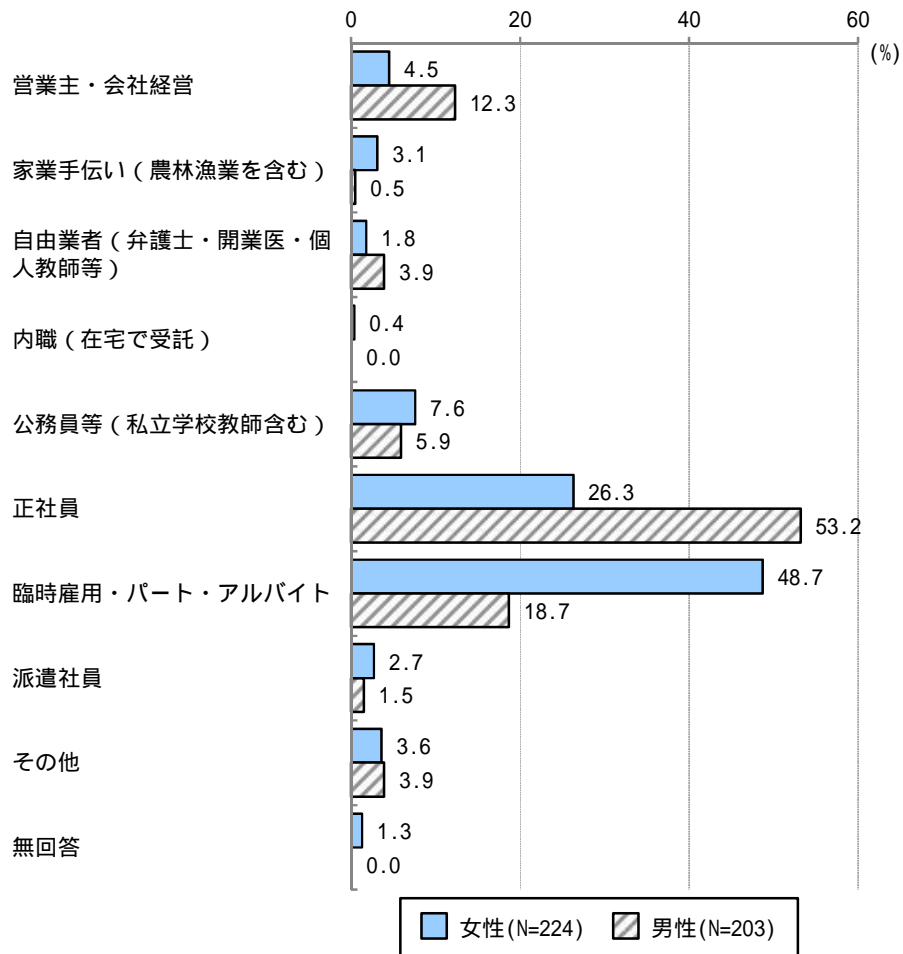
回答者の仕事の有無について、「仕事をしている」人は48.7%で、性別では女性43.6%、男性57.8%となっている。年代別でみると、「仕事をしている」女性は、20歳代が75.0%で最も高く、次いで40歳代で73.7%、30歳代で60.3%となっている。「仕事をしている」男性は、30～50歳代が8割以上を占めており、20歳代が68.2%、60歳代が60.3%となっている。また、20歳代では、男性（68.2%）より女性（75.0%）のほうが高くなっている。

【就労状況】



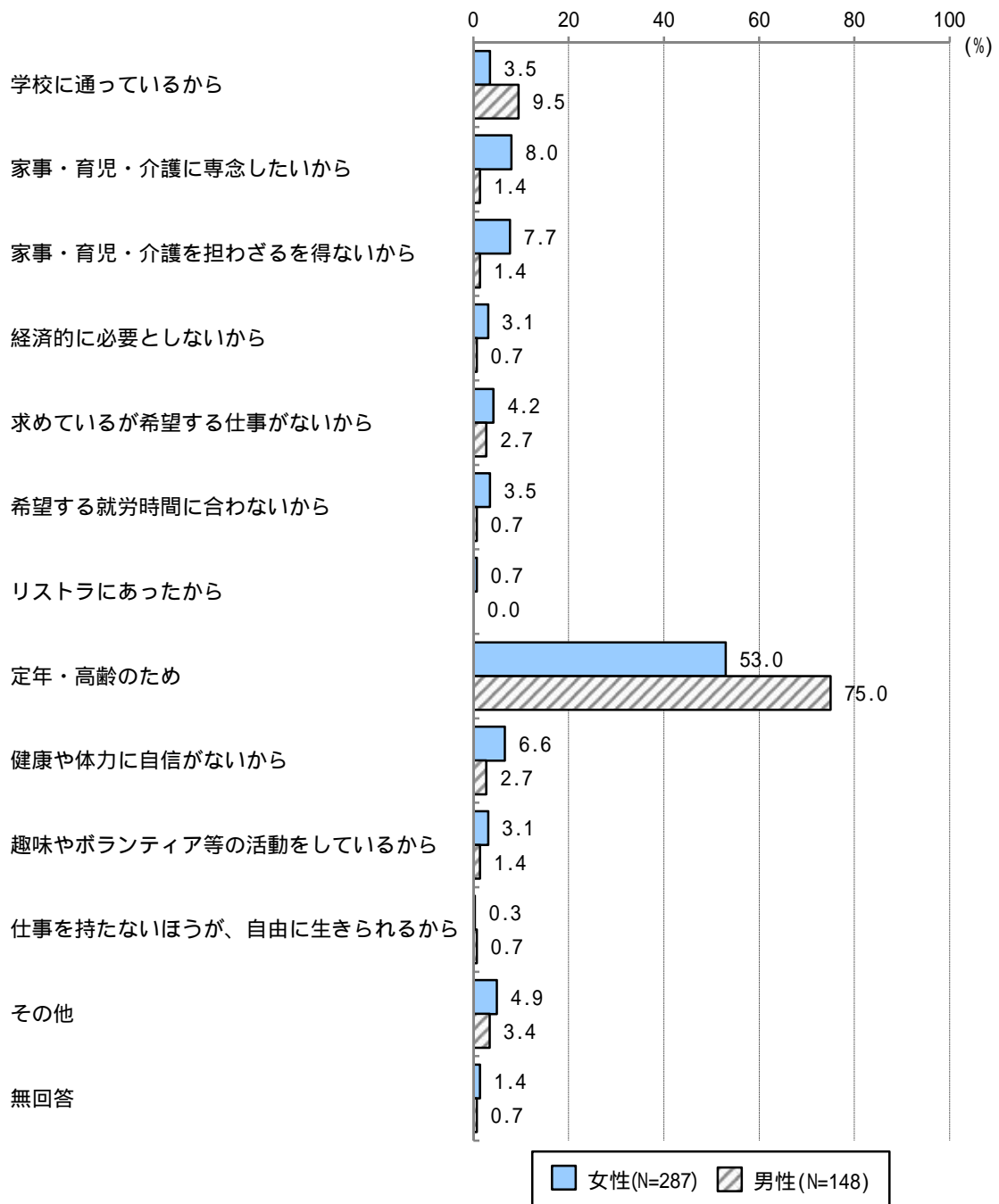
	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
全体 (N=878)	22件	50件	84件	152件	124件	185件	178件	73件
女性 (N=514)	10件	28件	63件	95件	76件	112件	91件	39件
男性 (N=351)	12件	22件	21件	56件	47件	73件	86件	34件

仕事の内容



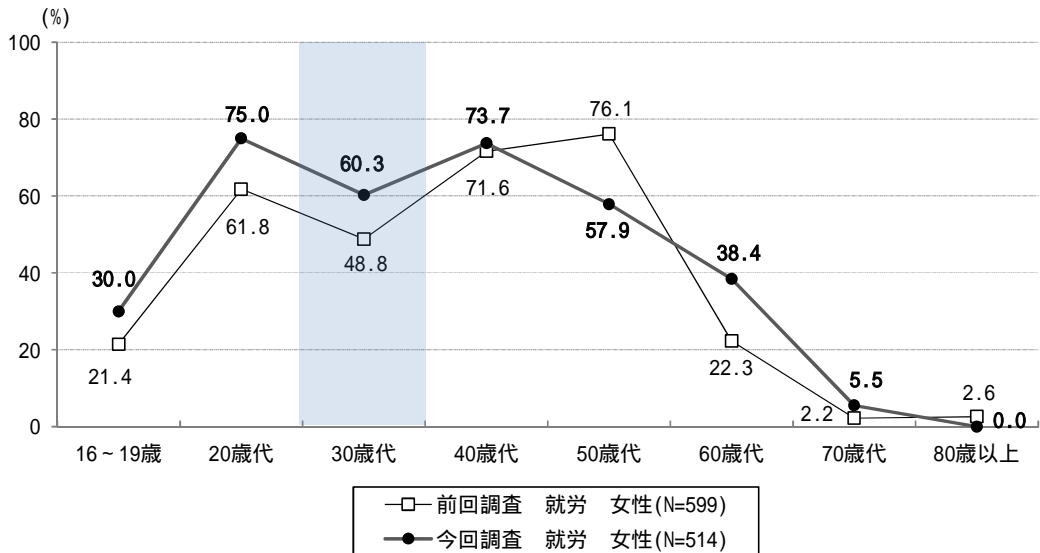
仕事をしている人に、仕事の内容をたずねると、女性は「臨時雇用・パート・アルバイト」が48.7%、男性は「正社員」が53.2%で、それぞれ最も多くなっている。また、女性が男性に比べて多い仕事は「家業手伝い（農林漁業を含む）」や「公務員（私立学校教師含む）」、「臨時雇用・パート・アルバイト」、「派遣社員」となっている。

仕事をしていない理由



仕事をしていないと回答した人に、その理由をたずねると、男女とも「定年・高齢のため」が最も多く、女性53.0%、男性75.0%と、男性のほうが22.0ポイント高い。これに次いで、女性では「家事・育児・介護に専念したいから」が8.0%、「家事・育児・介護を担わざるを得ないから」が7.7%と多くなっている。

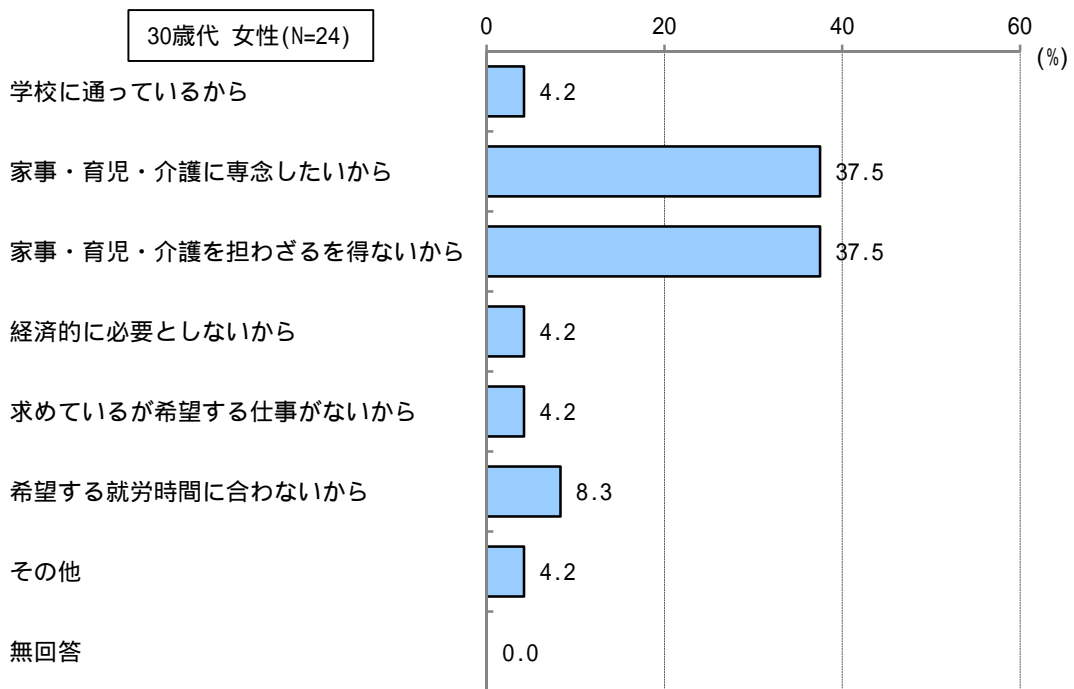
【女性の就労状況（経年比較）】



就労している女性について前回調査と比較すると、20歳代は13.2ポイント、30歳代は11.5ポイント増加しているが、50歳代は18.2ポイント減少している。

結婚や出産、子育て期に就労を中断することにより、30歳代を底とする「M字カーブ」を描く傾向は続いているものの、以前に比べてカーブの形状は緩やかになっている。

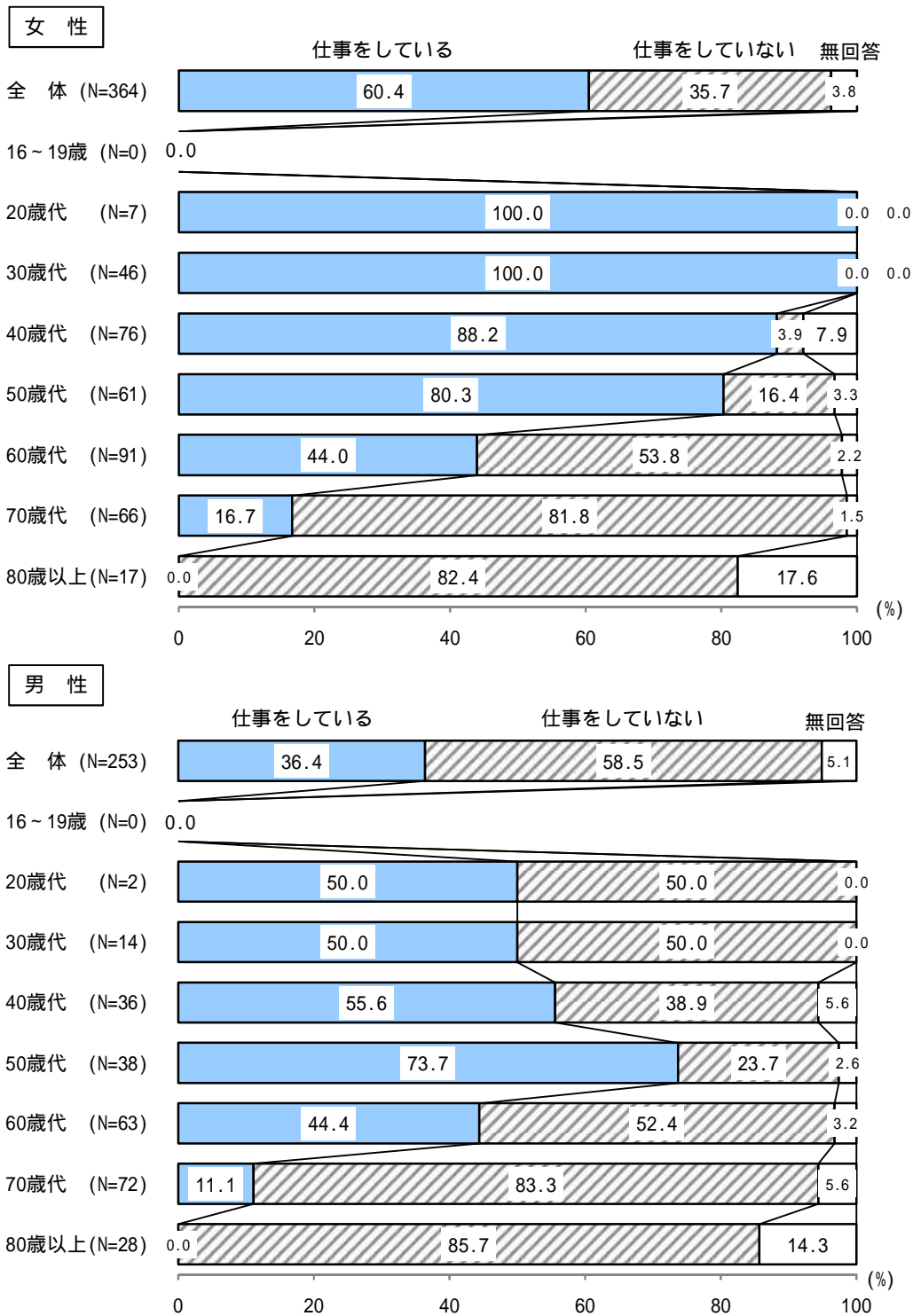
【30歳代 女性の「仕事をしていない」理由（今回調査）】



30歳代 女性の回答項目のみを表示

30歳代の女性で仕事をしていない理由をみると、「家事・育児・介護に専念したいから」と「家事・育児・介護を担わざるを得ないから」がともに37.5%で最も多くなっている。

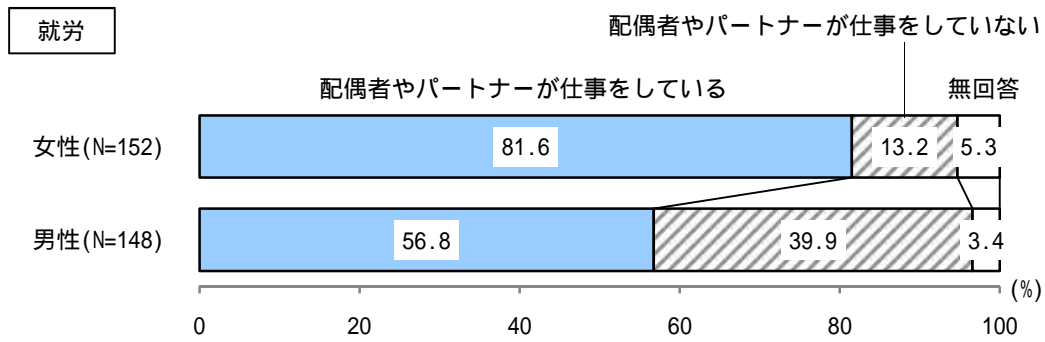
(6) 配偶者・パートナーの仕事の有無



結婚している、またはパートナーと暮らしている人に、配偶者・パートナーの仕事の有無についてたずねると、「仕事をしている」は、女性の配偶者・パートナーが60.4%、男性の配偶者・パートナーは36.4%となっている。

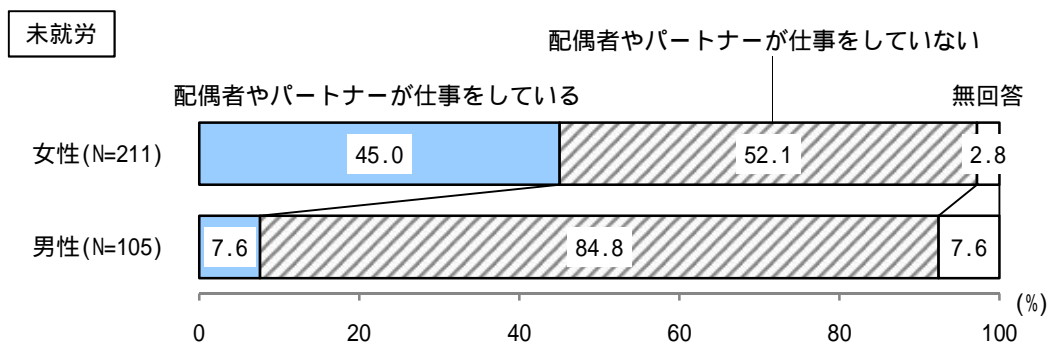
年代別でみると、女性の60歳以降では「仕事をしていない」配偶者・パートナーが5割以上になる。一方、男性の50歳代では「仕事をしている」配偶者・パートナーが73.7%と他の年代に比べ高くなっている。

【本人が就労している男女の配偶者・パートナーの就労状況】



就労している本人に対して、配偶者・パートナーの就労状況を見ると、共働きとなる割合は、女性が81.6%、男性は56.8%となっている。

【本人が就労していない男女の配偶者・パートナーの就労状況】

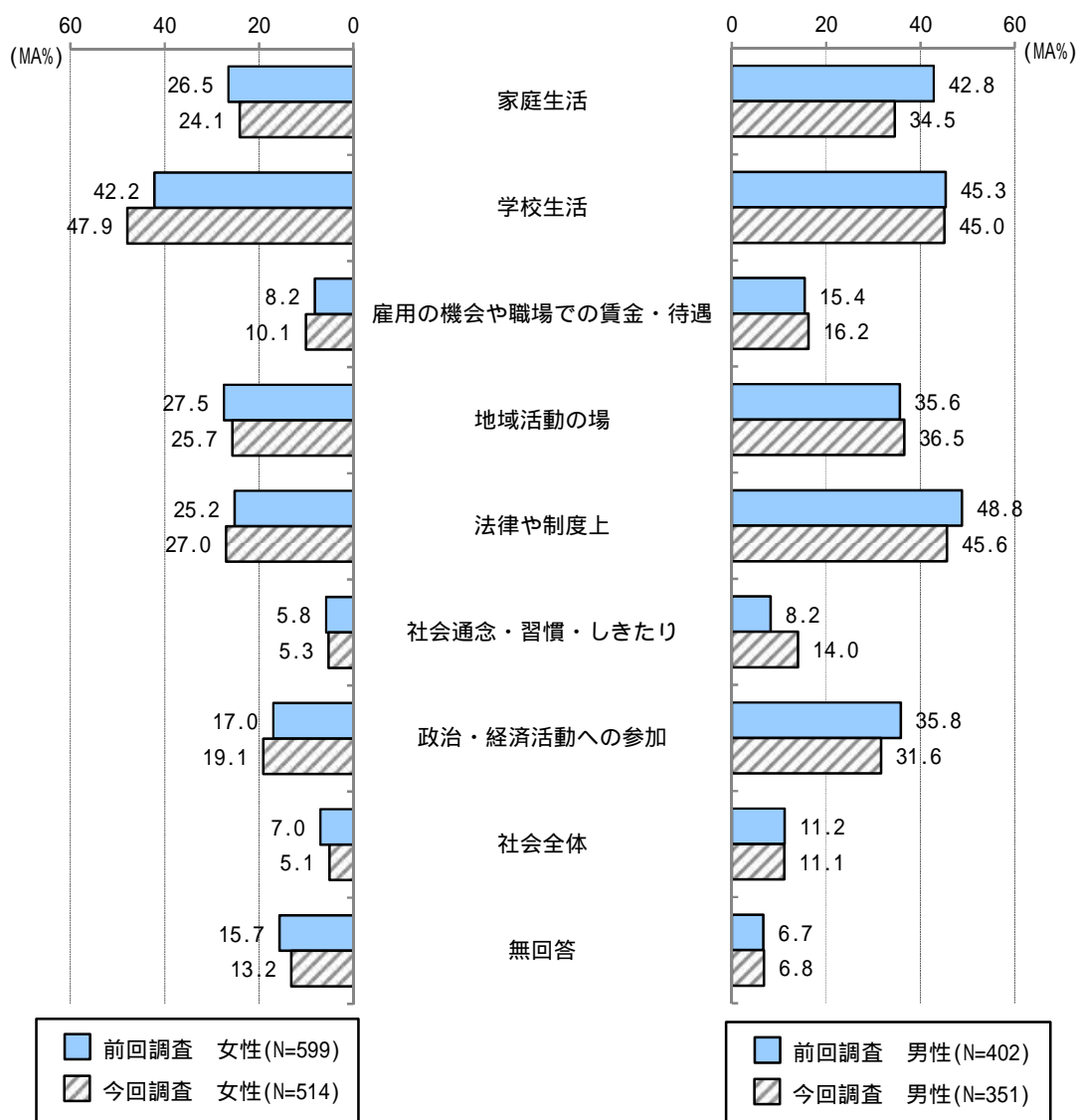


就労していない本人に対して、配偶者・パートナーの就労状況を見ると、「配偶者やパートナーが仕事をしている」割合は、女性が45.0%、男性は7.6%となっている。

2. 男女共同参画について

(1) 男女の地位が平等と思うもの

問1 あなたは、どのようなときに男女の地位が平等になっていると思いますか。
(あてはまるものすべてに)

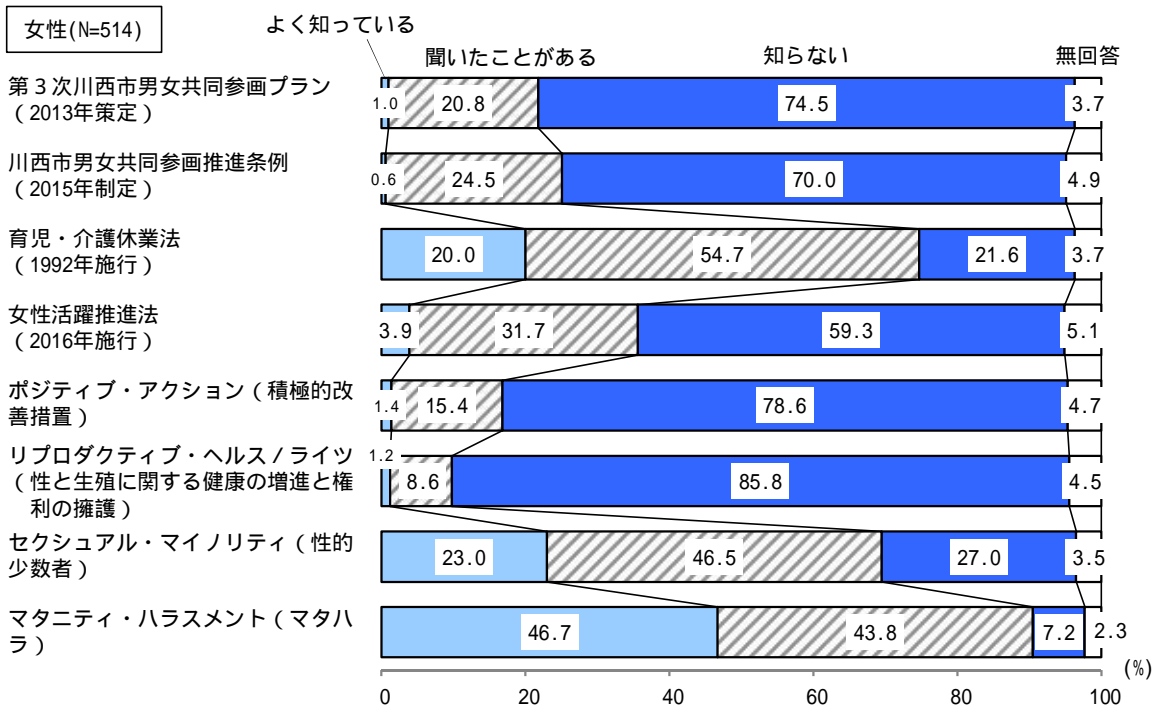
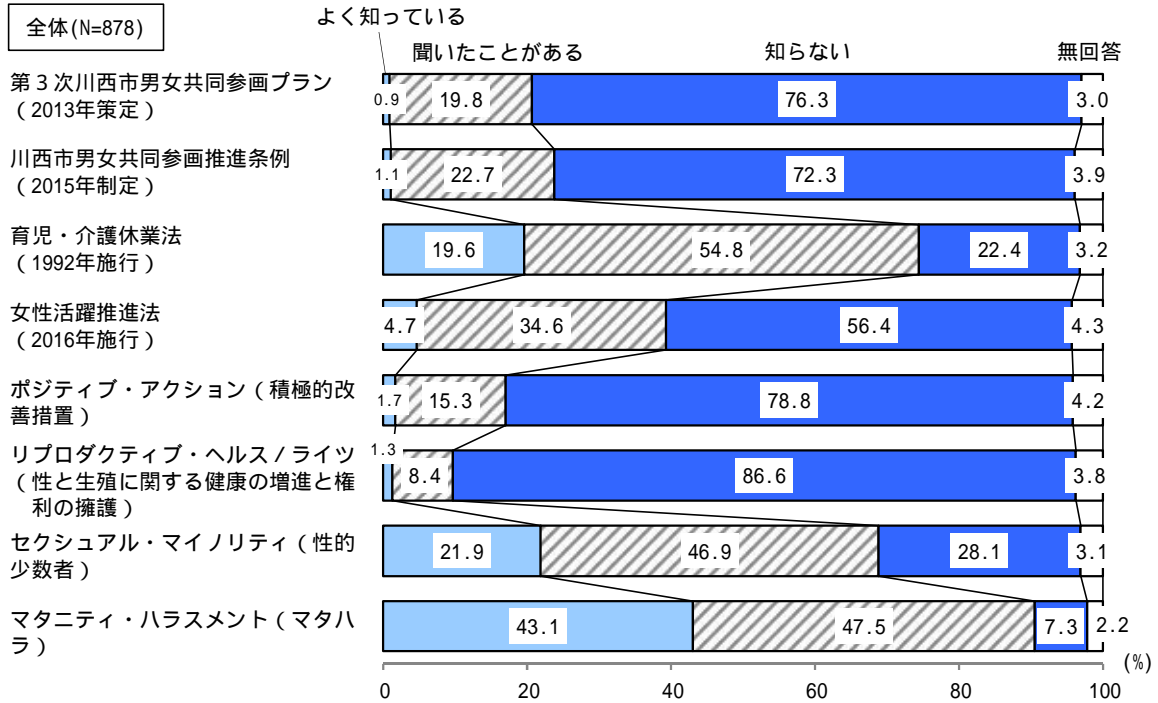


男女の地位が平等と思うものについて、女性は「学校生活」(47.9%)、男性は「法律や制度上」(45.6%)が最も多くなっている。また、女性は男性に比べて「学校生活」以外の項目が低くなっており、なかでも「法律や制度上」は18.6ポイント低い。

前回調査と比較すると、女性は「学校生活」で5.7ポイント、男性は「社会通念・習慣・しきたり」で5.8ポイント増加している。しかし、男性では「家庭生活」で8.3ポイント減少している。

(2) 男女共同参画に関する「ことがら」や「ことば」の認知度

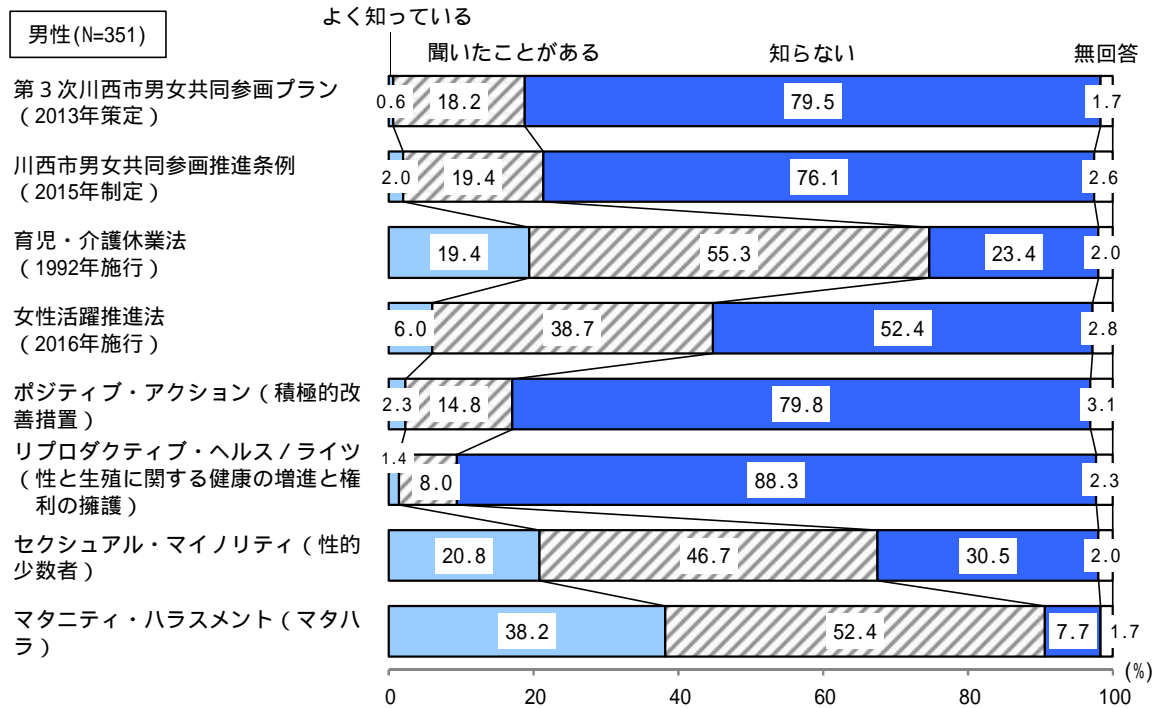
問2 次の「ことがら」や「ことば」を見たり聞いたりしたことがありますか。
 (~ のそれぞれについて、1~3の中であてはまるもの1つに)



男女共同参画に関する「ことがら」や「ことば」についての認知度は、「よく知っている」が、『マタニティ・ハラスメント』で43.1%と最も高く、次いで『セクシュアル・マイノリティ』で21.9%、『育児・介護休業法』で19.6%となっている。

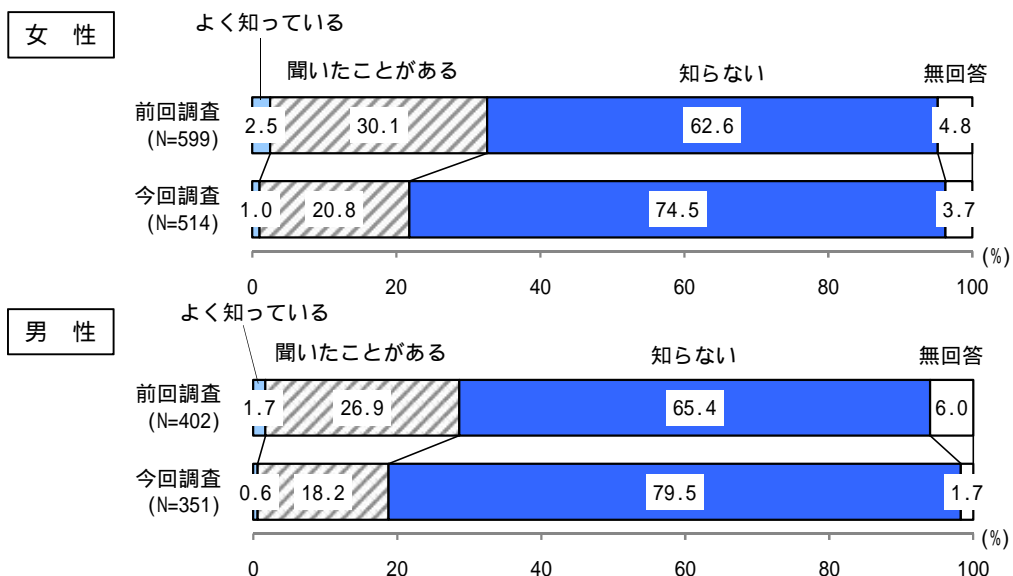
女性の認知度は、「よく知っている」が、『マタニティ・ハラスメント』で46.7%と最も高く、次いで『セクシュアル・マイノリティ』で23.0%、『育児・介護休

業法』で20.0%となっている。しかし、これら以外の項目では「知らない」が過半数を占めている。



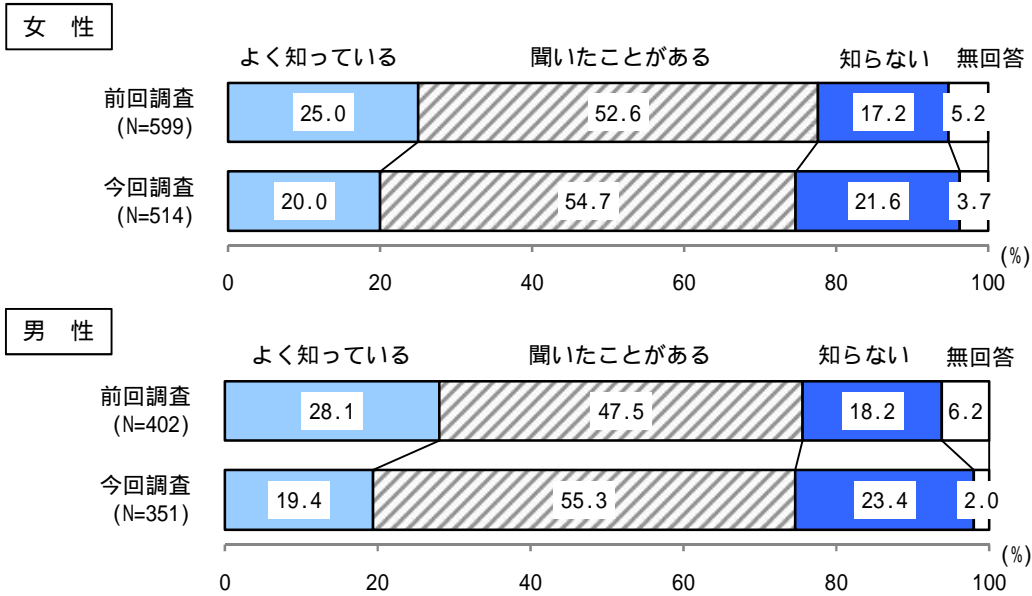
男女共同参画に関する「ことがら」や「ことば」について、男性の認知度は、「よく知っている」が、『マタニティ・ハラスメント』で38.2%と最も高く、次いで『セクシュアル・マイノリティ』で20.8%、『育児・介護休業法』で19.4%となっている。しかし、これら以外の項目では、女性と同様に「知らない」が過半数を占めている。

【 第3次川西市男女共同参画プランの認知度 (経年比較) 】



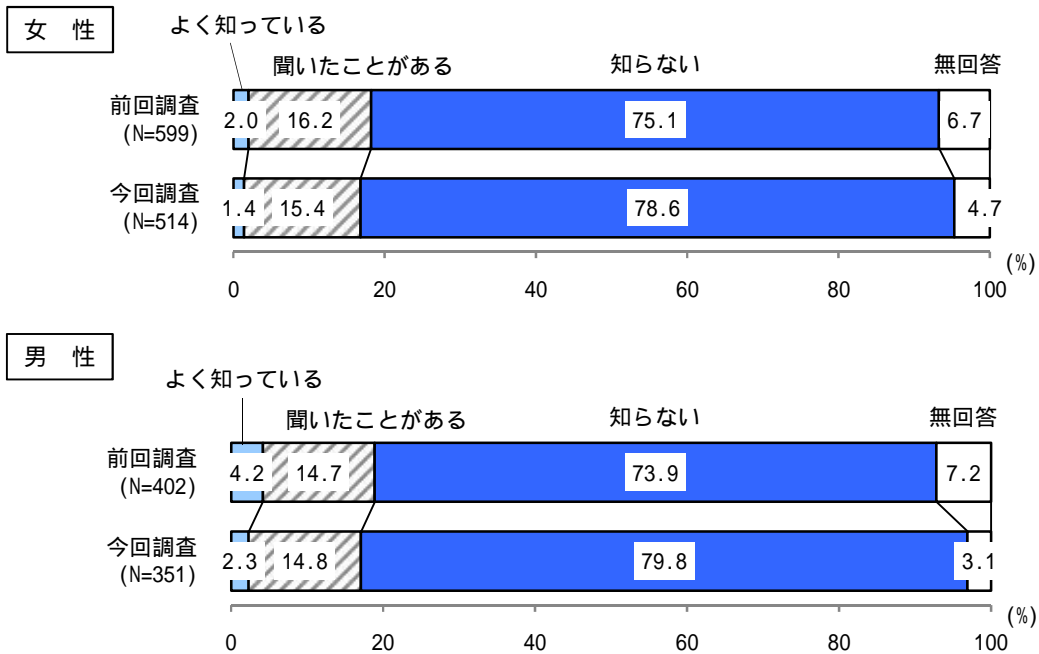
『第3次川西市男女共同参画プラン』の認知度について、前回調査と比較すると、男女とも「よく知っている」は1ポイント程度、「聞いたことがある」は9ポイント前後減少しており、認知度の低下がうかがえる。

【 育児・介護休業法の認知度（経年比較）】



『 育児・介護休業法』の認知度について、前回調査と比較すると、男女とも「聞いたことがある」は増加しているが、「よく知っている」は女性で5.0ポイント、男性で8.7ポイント減少している。

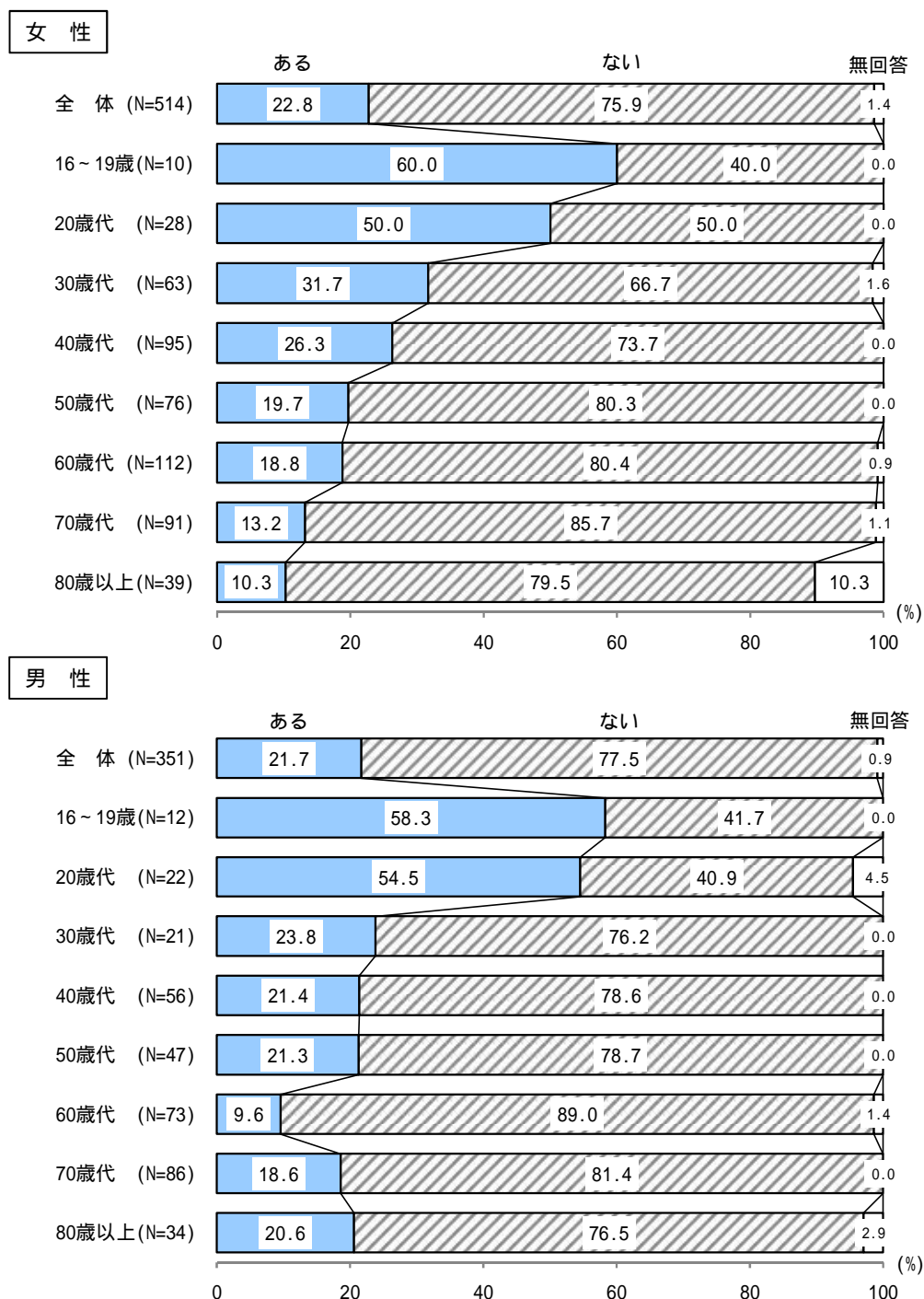
【 ポジティブ・アクション（積極的改善措置）の認知度（経年比較）】



『 ポジティブ・アクション（積極的改善措置）』の認知度について、前回調査と比較すると、男女ともに大きな増減はみられず、前回調査と同様「知らない」は7割台を占めている。

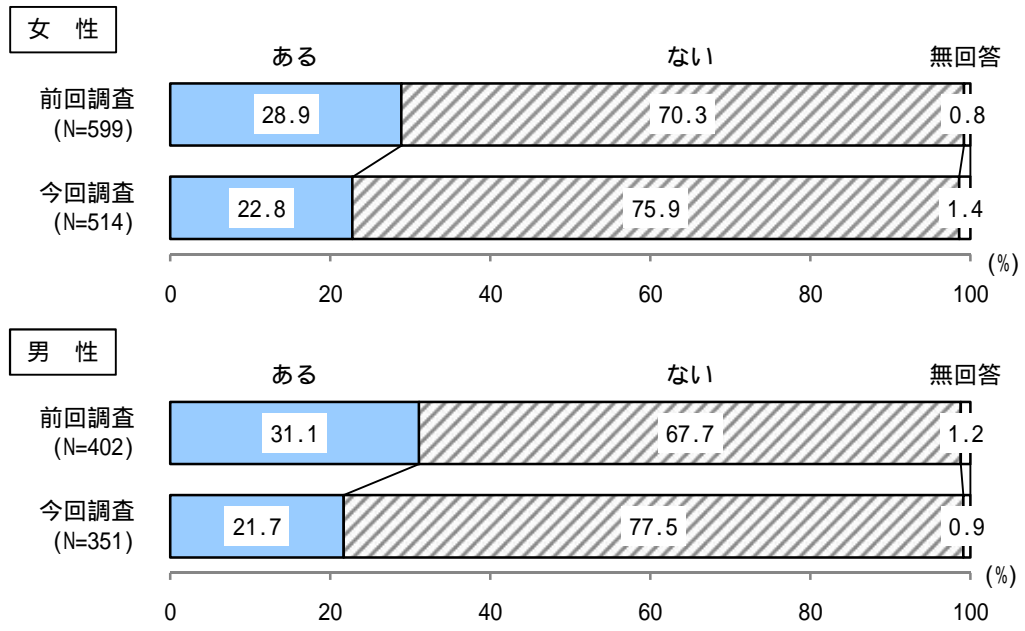
(3) ジェンダー問題や男女共同参画を学んだことの有無

問3 あなたは、ジェンダー問題や男女共同参画がどういうものなのかを学んだり、教えられたりしたことがありますか。(どちらか1つに)



ジェンダー問題や男女共同参画を学んだことがある人について、女性22.8%、男性21.7%となっている。年代別でみると、学んだことがある人は、男女とも16～19歳及び20歳代が高くなっているが、女性は年代が上がるほど低下傾向にあり、男性の30歳以降は2割前後を占めるが、60歳代男性は9.6%と他の年代に比べ低くなっている。

【経年比較】

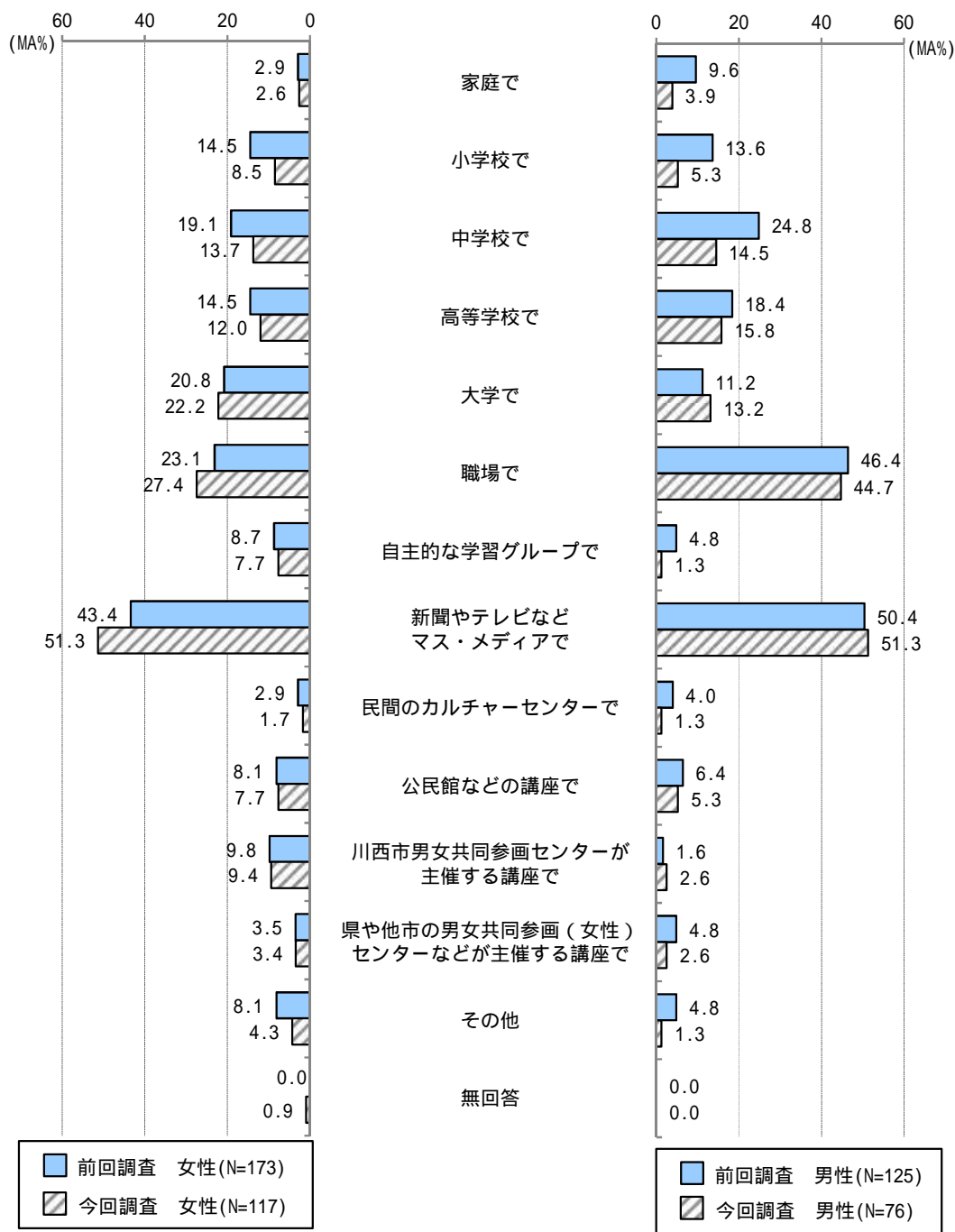


前回調査と比較すると、学んだことがある人は、女性で6.1ポイント、男性で9.4ポイント減少している。

(4) 学んだ機会

〔問3で「1.ある」と答えた方におたずねします。〕

問4 それはどこですか。(あてはまるものすべてに)



ジェンダー問題や男女共同参画を学んだことがある人に、その機会をたずねると、男女とも「新聞やテレビなどマス・メディアで」が5割台で最も多く、これに次いで「職場で」が多くなっているが、女性27.4%に対し、男性44.7%で、男性のほうが17.3ポイント高くなっている。

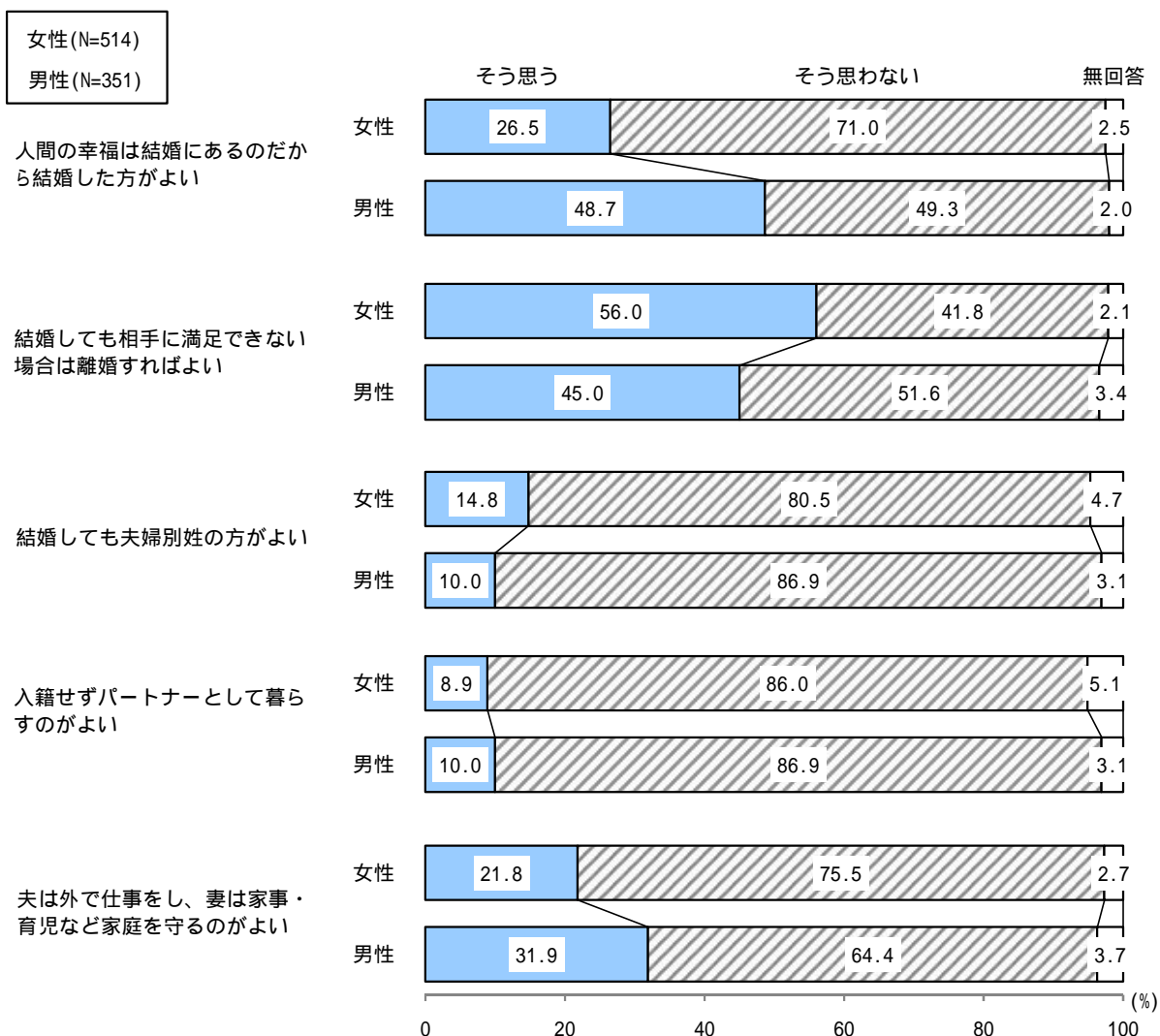
前回調査と比較すると、男女ともに「小学校で」と「中学校で」が減少しており、女性は6ポイント程度、男性は10ポイント前後下がっている。

3. 結婚と家庭生活について

(1) 結婚・離婚・家庭の考え方

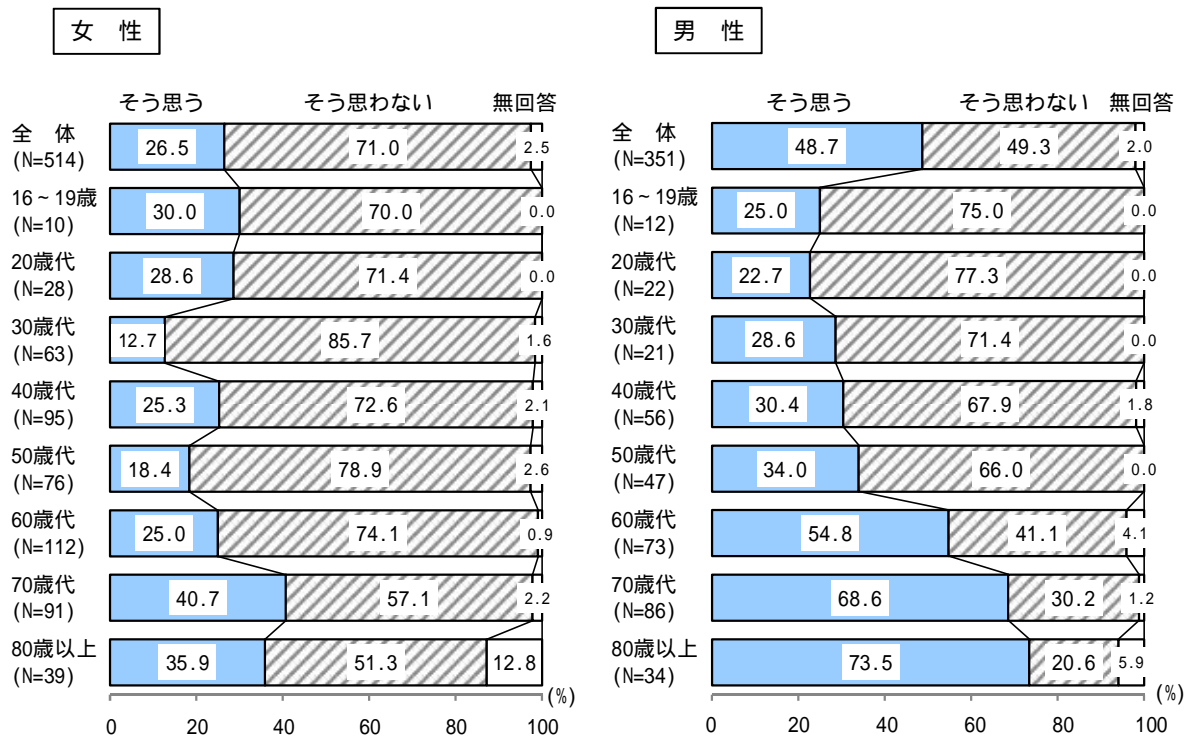
問5 あなたは結婚・離婚・家庭についてどう思いますか。

(~ のそれぞれについて、1か2に)



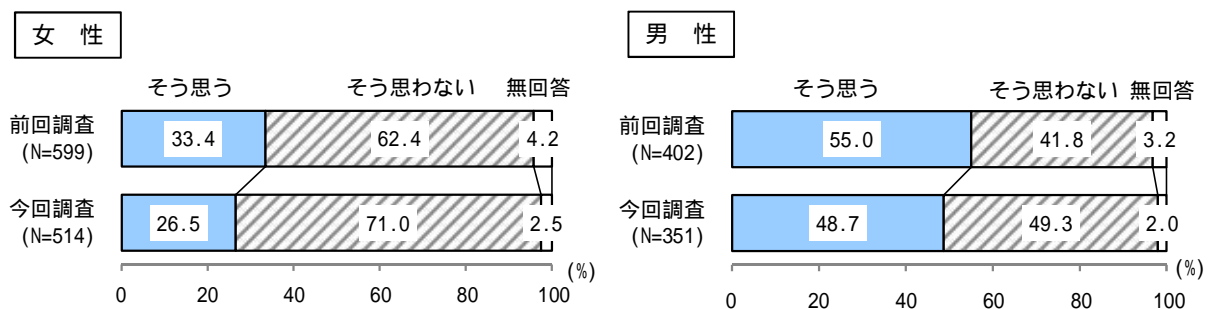
結婚・離婚・家庭の考え方について、「そう思う」を性別でみると、『人間の幸福は結婚にあるのだから結婚した方がよい』は女性が26.5%に対し、男性は48.7%で、女性のほうが22.2ポイント低い。『結婚しても相手に満足できない場合は離婚すればよい』は女性56.0%、男性45.0%を占め、女性のほうが11.0ポイント高い。『結婚しても夫婦別姓の方がよい』は女性が14.8%、男性は10.0%で、女性のほうが4.8ポイント高い。『入籍せずパートナーとして暮らすのがよい』は男女とも1割前後で大きな差はみられない。『夫は外で仕事をし、妻は家事・育児など家庭を守るのがよい』では女性は21.8%だが、男性は31.9%で女性より10.1ポイント高くなっている。

【 人間の幸福は結婚にあるのだから結婚した方がよい (今回調査)】



『人間の幸福は結婚にあるのだから結婚した方がよい』について「そう思う」人は、女性では70歳代が40.7%で最も高く、次いで80歳以上が35.9%となっているが、30歳代は12.7%と他の年代に比べ低くなっている。一方、男性では年代が上がるほど上昇傾向にあり、30~50歳代は3割前後、60歳以降になると5割以上を占める。また、結婚した方がよいと思う人は、16~19歳及び20歳代では男性より女性のほうが高くなっているが、30歳以降になると男性のほうが高い傾向にある。

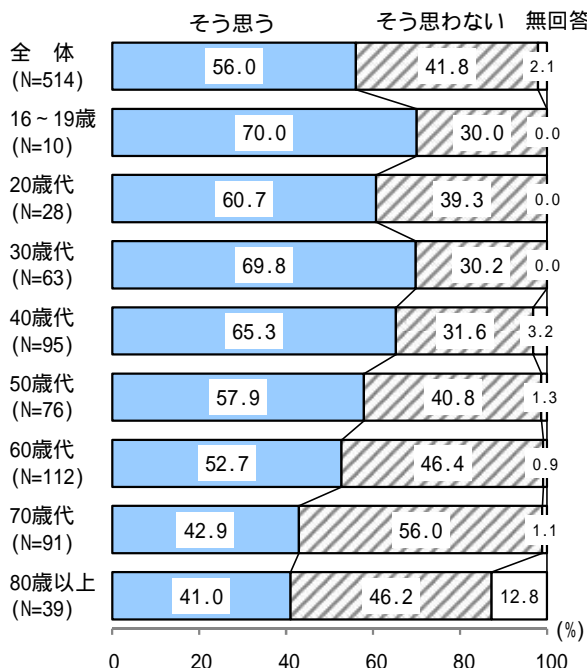
【 人間の幸福は結婚にあるのだから結婚した方がよい (経年比較)】



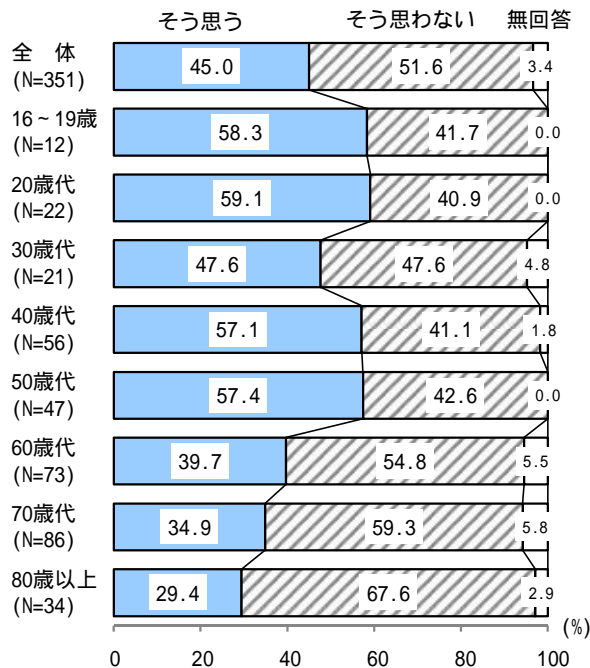
『人間の幸福は結婚にあるのだから結婚した方がよい』について、前回調査と比較すると、「そう思う」人は、男女ともに6ポイント減少している。

【 結婚しても相手に満足できない場合は離婚すればよい (今回調査)】

女性



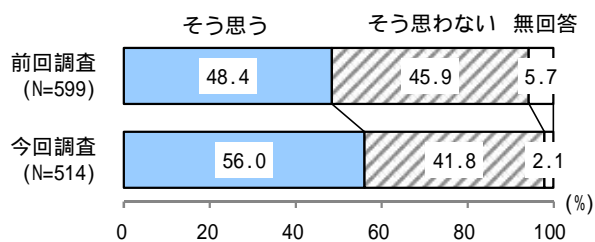
男性



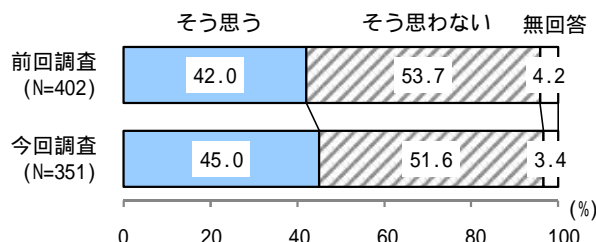
『結婚しても相手に満足できない場合は離婚すればよい』について「そう思う」人は、女性では60歳代までは過半数を占めており、70歳以降になると4割台に低下している。一方、男性の「そう思う」人は、16~19歳及び20歳代・40~50歳代で約6割を占めるが、30歳代は「そう思う」と「そう思わない」がともに47.6%と同率となっており、60歳以降になると4割以下に低下している。

【 結婚しても相手に満足できない場合は離婚すればよい (経年比較)】

女性



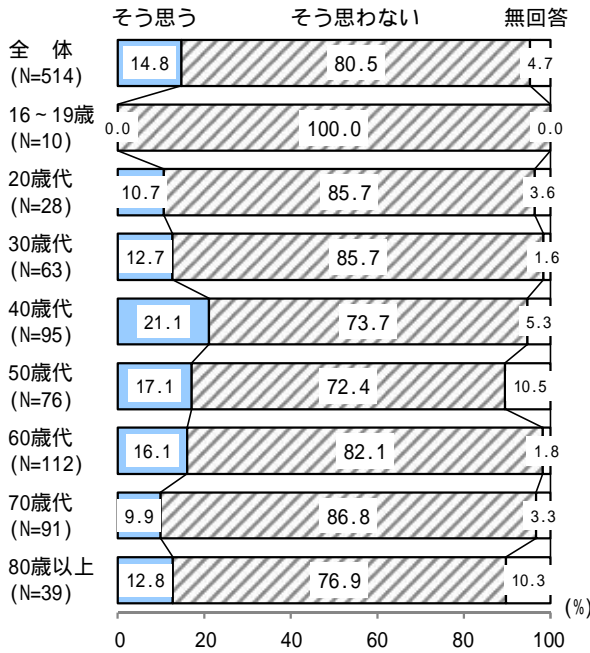
男性



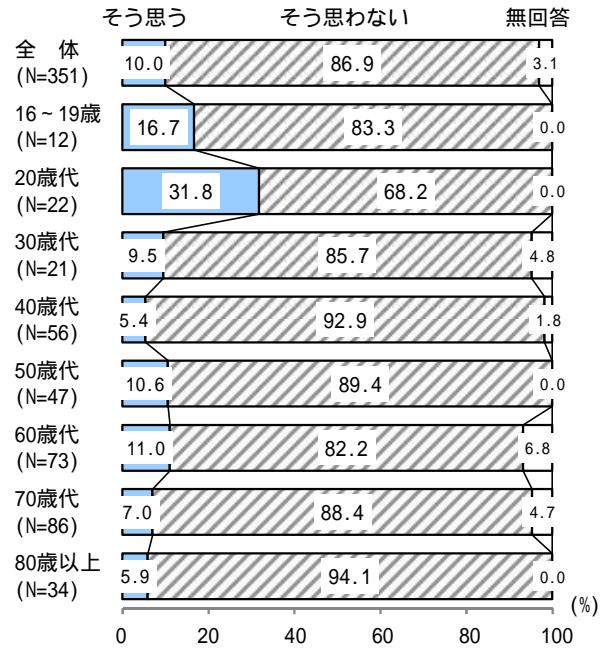
『結婚しても相手に満足できない場合は離婚すればよい』について、前回調査と比較すると、「そう思う」人は、女性で7.6ポイント、男性で3.0ポイント増加している。

【 結婚しても夫婦別姓の方がよい (今回調査) 】

女性



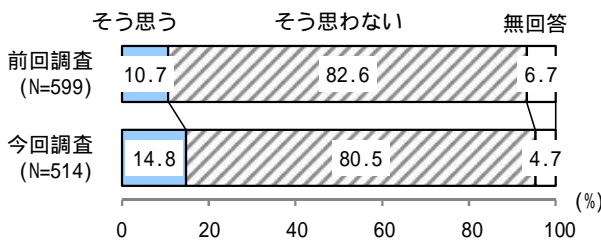
男性



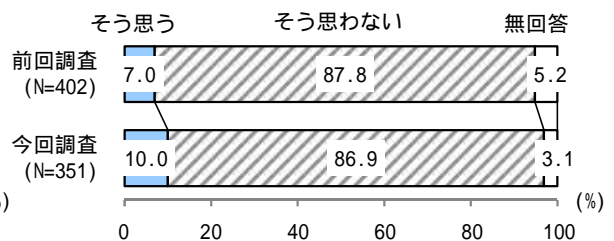
『結婚しても夫婦別姓の方がよい』について「そう思う」人は、女性では40歳代が21.1%で最も高く、次いで50歳代が17.1%、60歳代が16.1%となっている。一方、男性は20歳代が31.8%と高く、次いで16~19歳が16.7%、60歳代が11.0%となっている。また、夫婦別姓の方がよいと思う人は、16~19歳及び20歳代は男性のほうが高くなっているが、30歳以降になると女性のほうが高い傾向にある。

【 結婚しても夫婦別姓の方がよい (経年比較) 】

女性



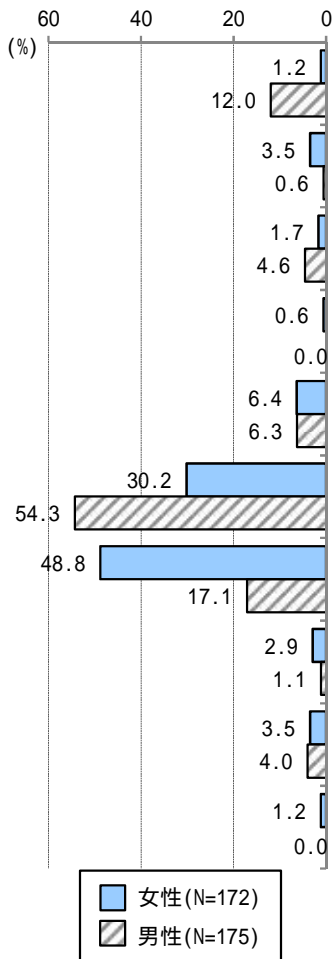
男性



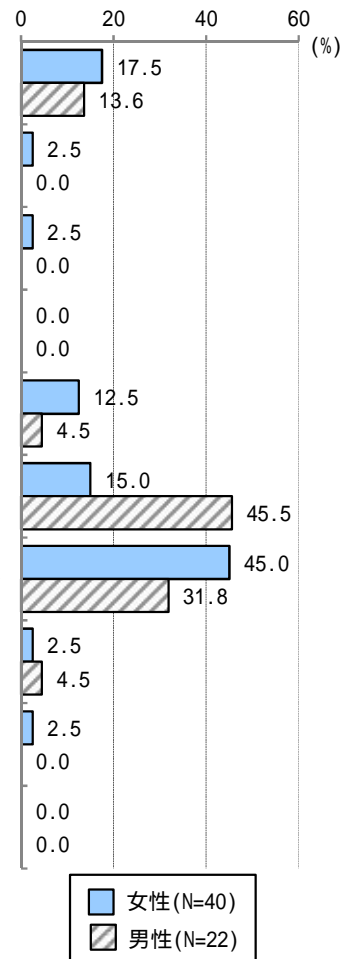
『結婚しても夫婦別姓の方がよい』について、前回調査と比較すると、「そう思う」人は、女性で4.1ポイント、男性で3.0%ポイント増加している。

【 結婚しても夫婦別姓の方がよい「そう思う」「そう思わない」(仕事の内容別)】

<結婚しても夫婦別姓の方がよいと思わない>



<結婚しても夫婦別姓の方がよいと思う>

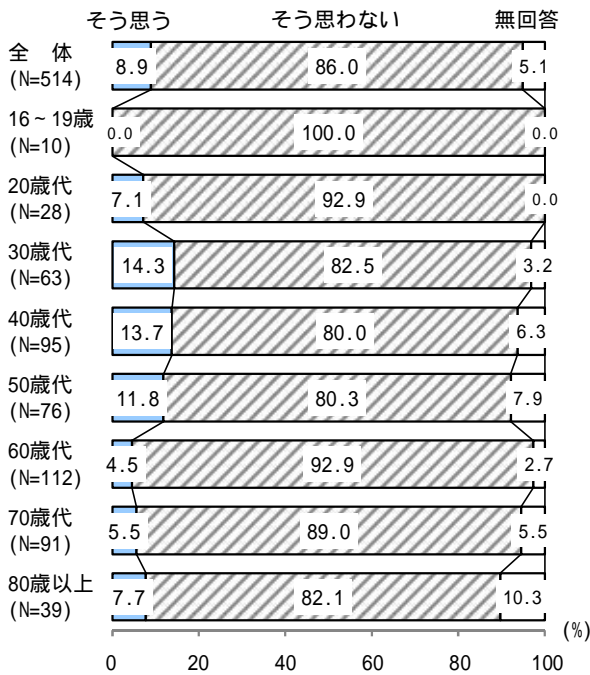


『結婚しても夫婦別姓の方がよい』について、仕事の内容別にみると、「そう思わない」人では、女性は「臨時雇用・パート・アルバイト」(48.8%)、男性は「正社員」(54.3%)が最も多くなっており、「営業主・会社経営」では女性1.2%に対し、男性12.0%で、男性のほうが10.8ポイント高くなっている。

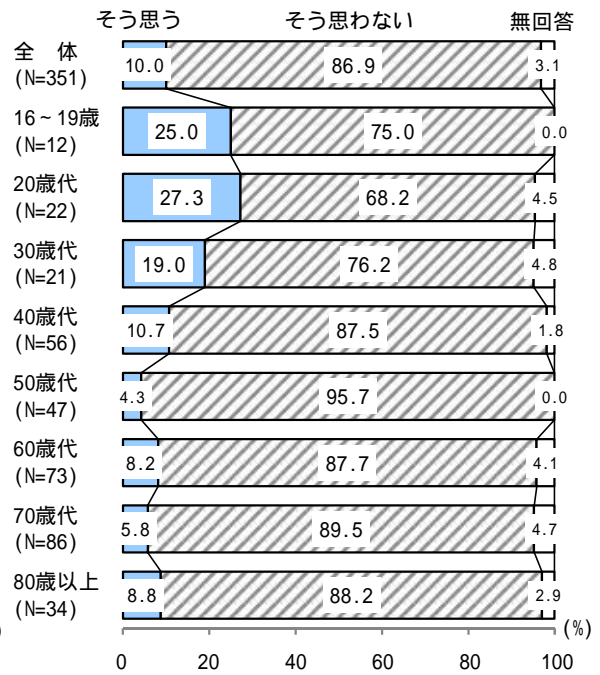
一方の「そう思う」人でも、女性は「臨時雇用・パート・アルバイト」(45.0%)、男性は「正社員」(45.5%)が最も多くなっている。これに次いで女性は「営業主・会社経営」(17.5%)、「公務員等(私立学校教師含む)」(12.5%)と続いており、「公務員等(私立学校教師含む)」では男性(4.5%)に比べ8.0ポイント高くなっている。

【 入籍せずパートナーとして暮らすのがよい (今回調査)】

女性



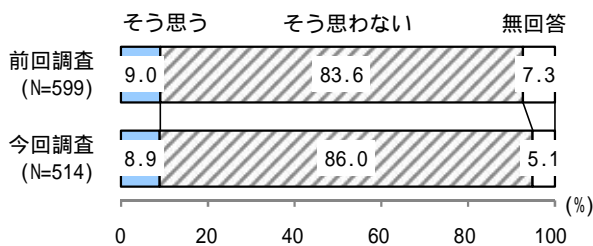
男性



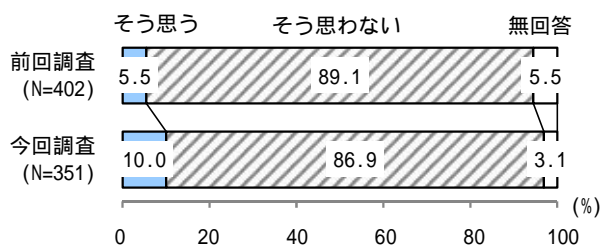
『 入籍せずパートナーとして暮らすのがよい』について「そう思う」人は、女性では30歳代が14.3%で最も高く、次いで40歳代が13.7%、50歳代が11.8%となっており、30~50歳代で多くなっている。一方、男性は16~19歳及び20歳代が2割台、30歳代が19.0%となっており、30歳代までで多くなっている。

【 入籍せずパートナーとして暮らすのがよい (経年比較)】

女性

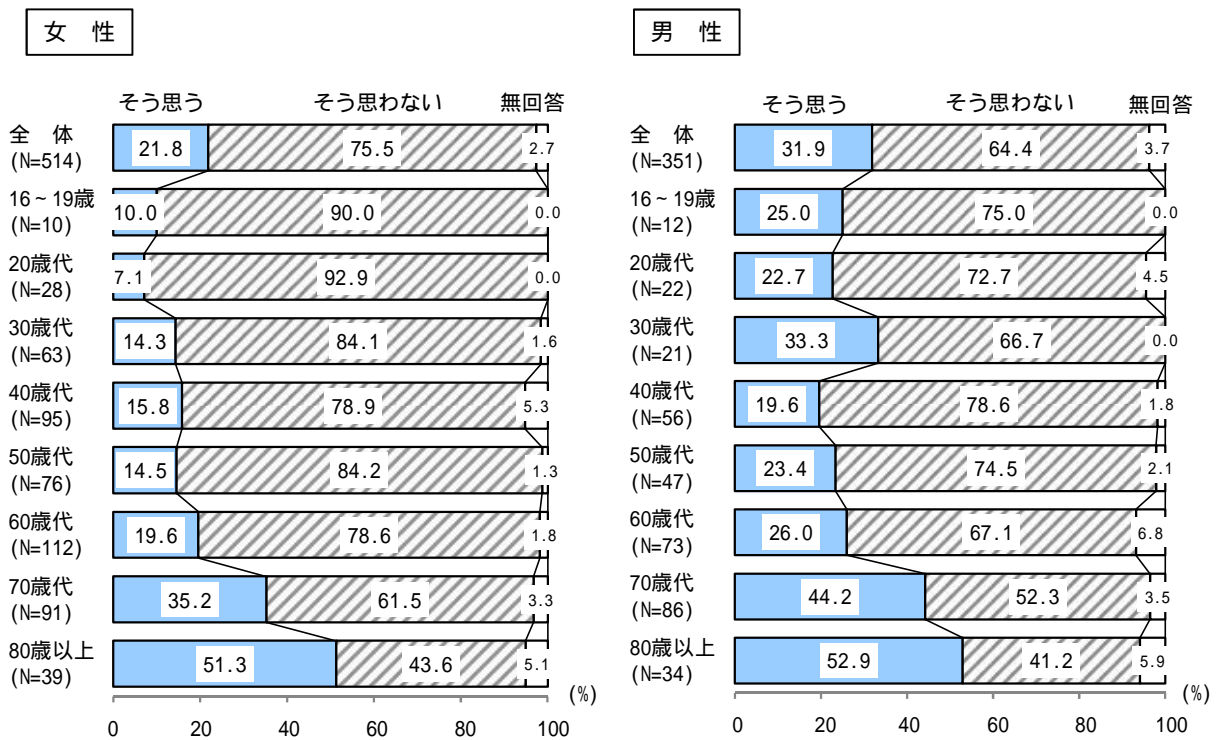


男性



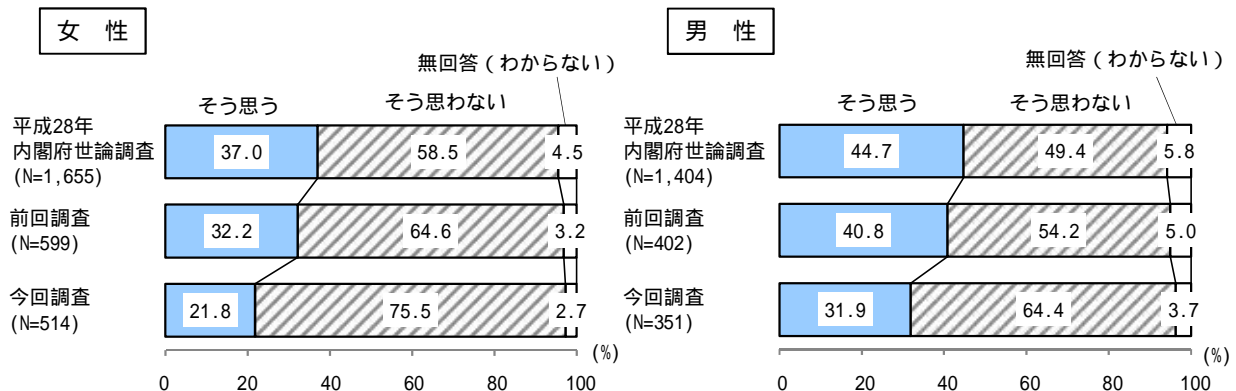
『 入籍せずパートナーとして暮らすのがよい』について、前回調査と比較すると、女性に大きな差はみられないが、男性の「そう思う」人は4.5ポイント増加している。

【 夫は外で仕事をし、妻は家事・育児など家庭を守るのがよい(今回調査)】



『 夫は外で仕事をし、妻は家事・育児など家庭を守るのがよい』について「そう思う」人は、女性の60歳代までは2割未満となっているが、70歳代は35.2%、80歳以上は51.3%と高くなっている。男性では70歳代が44.2%、80歳以上が52.9%と高く、男女ともに70歳以降で、夫は仕事、妻は家庭と思う人が多い傾向にある。

【 夫は外で仕事をし、妻は家事・育児など家庭を守るのがよい(内閣府世論調査比較、経年比較)】



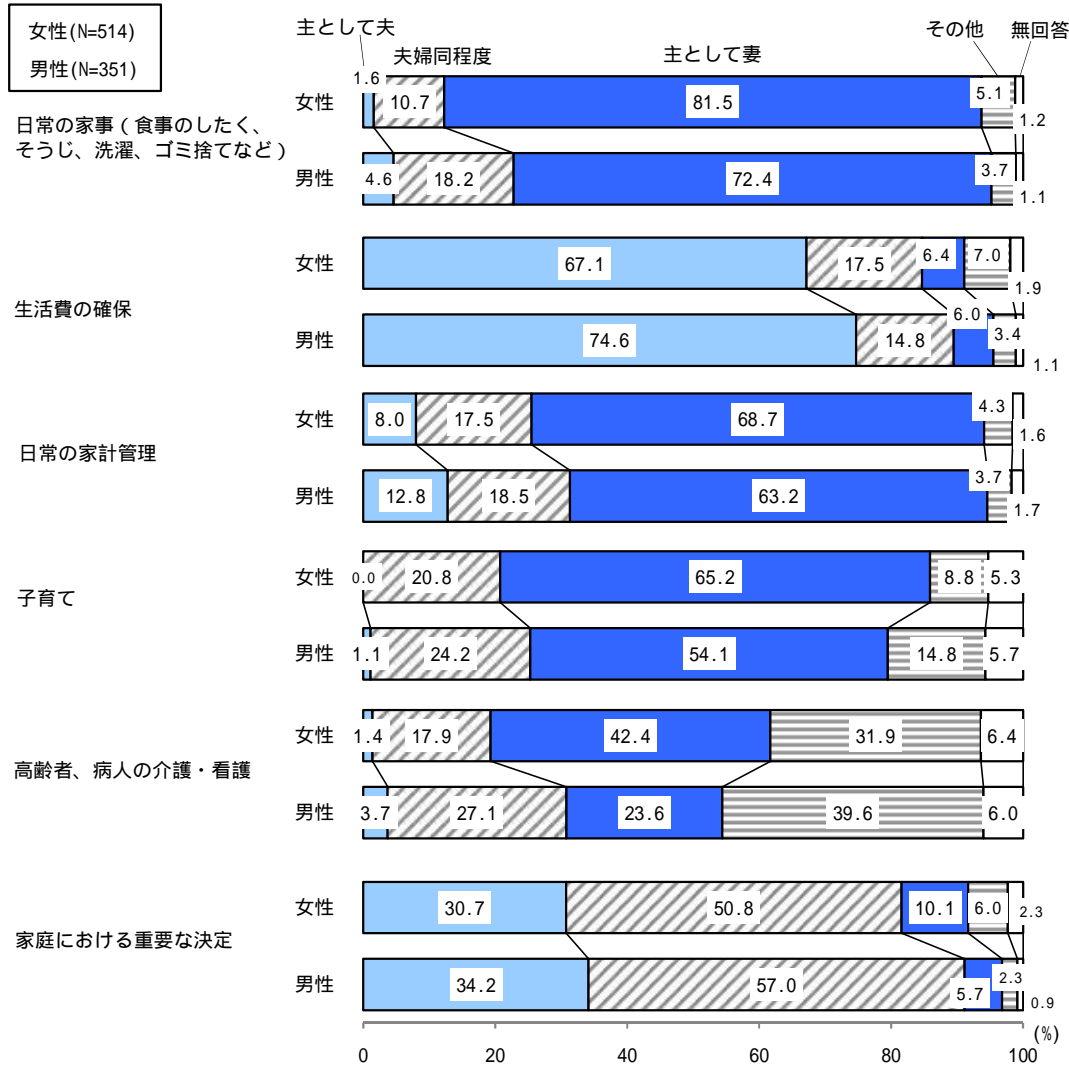
『 夫は外で仕事をし、妻は家事・育児など家庭を守るのがよい』について、内閣府世論調査と比較すると、「そう思う」人は、女性で15.2ポイント、男性で12.8ポイント低くなっている。

前回調査と比較すると、「そう思う」人は、女性で10.4ポイント、男性で8.9ポイント減少している。

(2) 家庭生活の担当

問6 あなたの家庭では、次のようなことを主に誰が担っていますか（未婚の方は親の場合で考えてください）

（～のそれぞれについて、1～4の中であてはまるもの1つに）

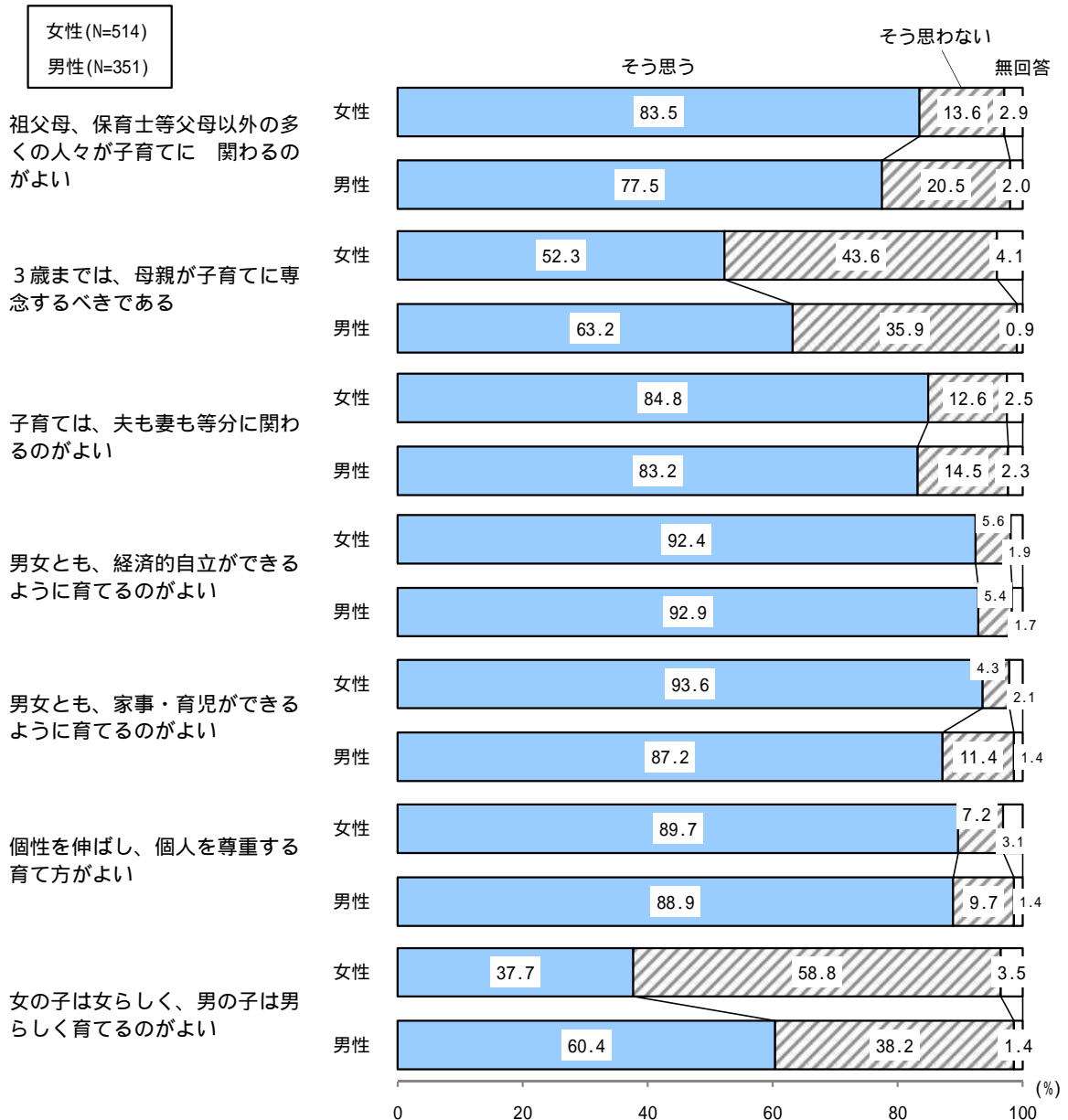


家庭生活の担当を性別で見ると、『日常の家事』は男女とも「主として妻」が最も多く、女性（81.5%）は男性（72.4%）より9.1ポイント高くなっており、「夫婦同程度」は男性（18.2%）が女性（10.7%）より7.5ポイント高くなっている。『生活費の確保』は男女とも「主として夫」が過半数を占め、「夫婦同程度」は女性17.5%、男性14.8%となっている。『日常の家計管理』は男女とも「主として妻」が6割台となっている。『子育て』では男女とも「主として妻」が最も多く、女性が65.2%に対し、男性は54.1%で、女性のほうが11.1ポイント高くなっている。『高齢者、病人の介護・看護』では女性は「主として妻」（42.4%）、男性は「その他」（39.6%）が最も多くなっており、「夫婦同程度」では女性が17.9%に対し、男性は27.1%で、男性のほうが9.2ポイント高くなっている。『家庭における重要な決定』では男女とも「夫婦同程度」が5割台で最も多く、次いで「主として夫」が3割台となっている。

4. 子育てについて

(1) 子育ての考え方

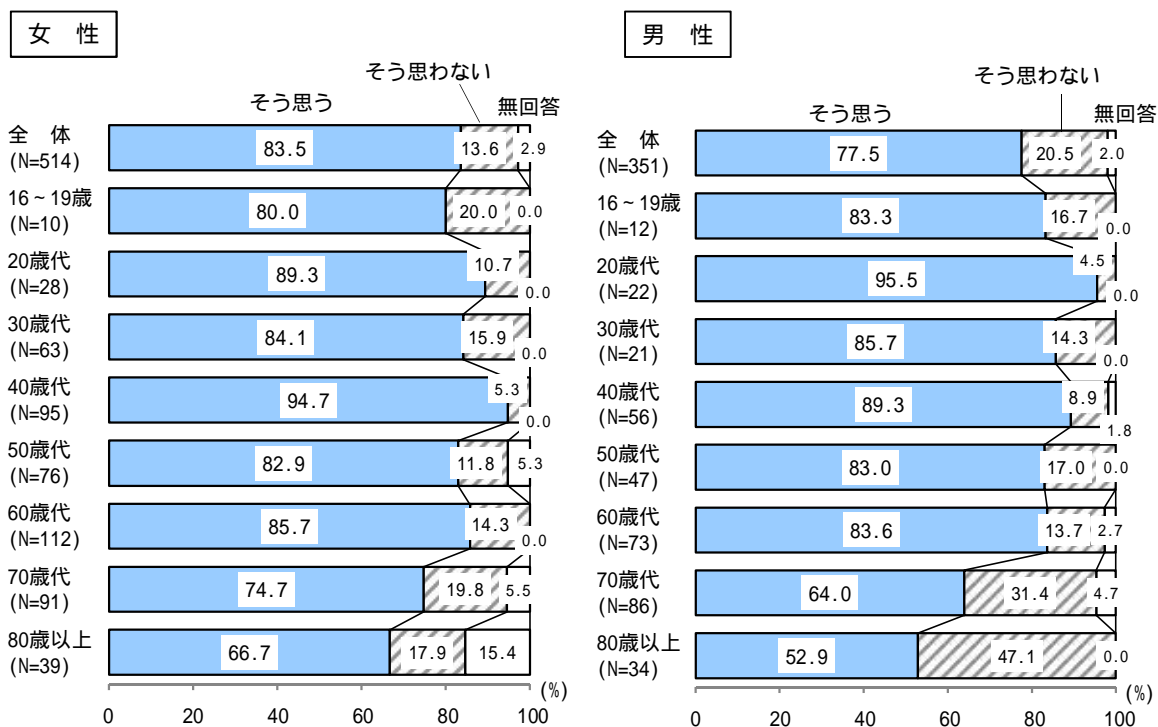
問7 子育てについてあなたはどのように思いますか。(~ のそれぞれについて、1か2に)



子育ての考え方について、性別でみると、『祖父母、保育士等父母以外の多くの人々が子育てに関わるのがよい』は男女とも「そう思う」が8割前後を占めているが、「そう思わない」人では女性が13.6%に対し、男性は20.5%と、男性のほうが6.9ポイント高くなっている。『3歳までは、母親が子育てに専念すべきである』では男女とも「そう思う」人が多くなっているが、女性は52.3%に対し、男性は63.2%で、女性のほうが10.9ポイント低くなっている。『子育ては、夫も妻も等分に関わるのがよい』や『男女とも、経済的自立ができるように育てるのがよい』、『男女とも、家事・育児ができるように育てるのがよい』、『個性を伸ばし、個人を尊重する育て方がよい』では、「そう思う」人が男女とも8~9割台と高くなっているが、『男女とも、家事・育児ができるように育てるのがよい』の「そう思わない」人は、男性が

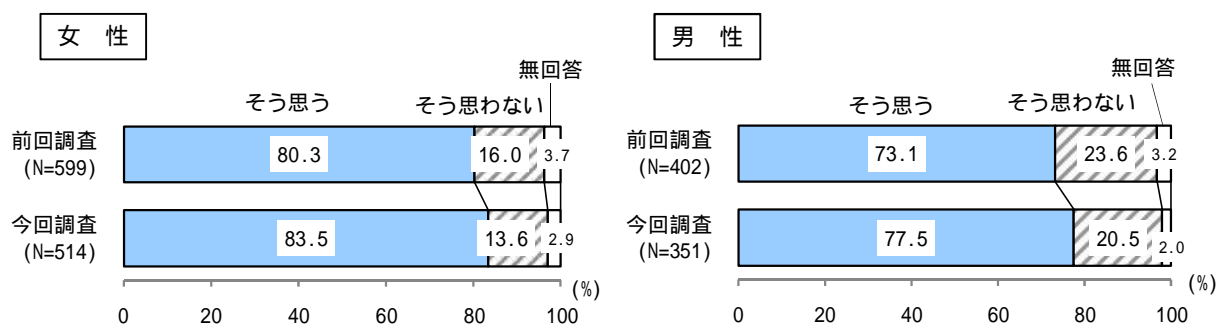
11.4%と女性（4.3%）より7.1ポイント高くなっている。『女の子は女らしく、男の子は男らしく、育てるのがよい』では、女性は「そう思わない」が58.8%を占めるが、男性は「そう思う」が60.4%となっており、男女間の考え方に大きな相違がうかがえる。

【 祖父母、保育士等父母以外の多くの人々が子育てに関わるのがよい（今回調査）】



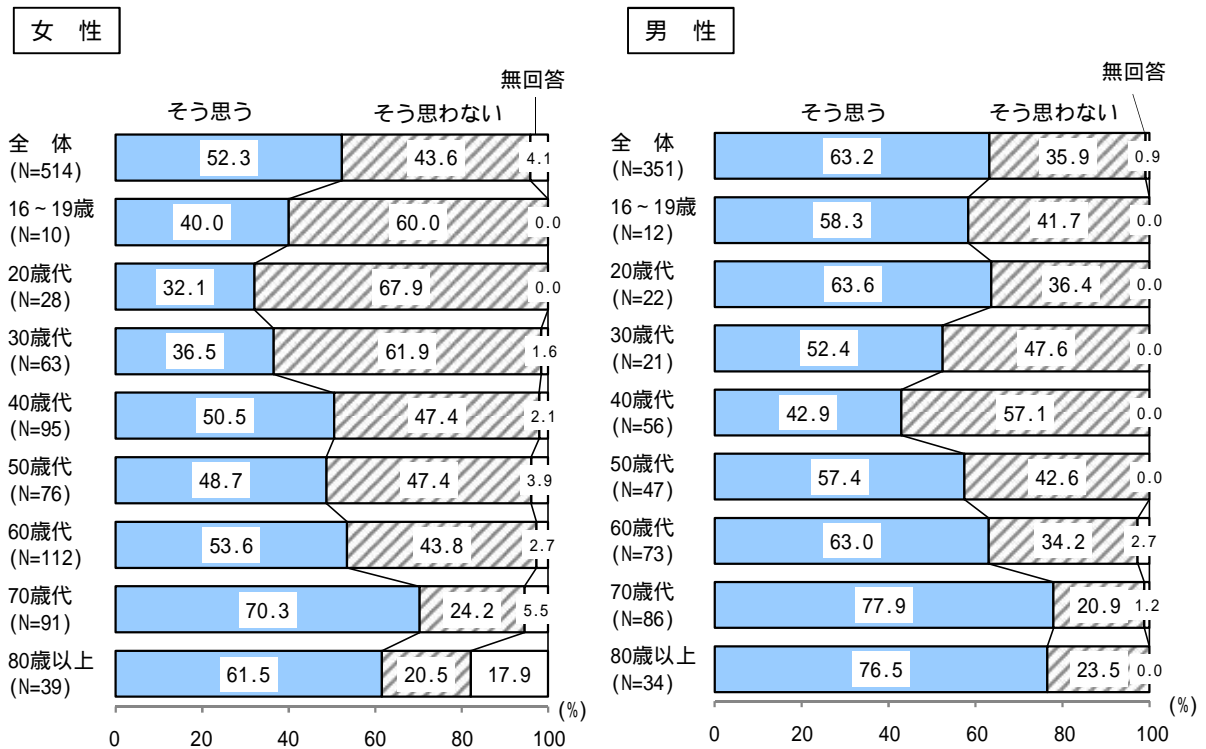
『祖父母、保育士等父母以外の多くの人々が子育てに関わるのがよい』については、男女ともに「そう思う」人は、60歳代までは8～9割台を占めているが、70歳以降になると低下傾向にある。なお、男性の「そう思わない」人では、70歳代が31.4%、80歳以上が47.1%と高くなっている。

【 祖父母、保育士等父母以外の多くの人々が子育てに関わるのがよい（経年比較）】



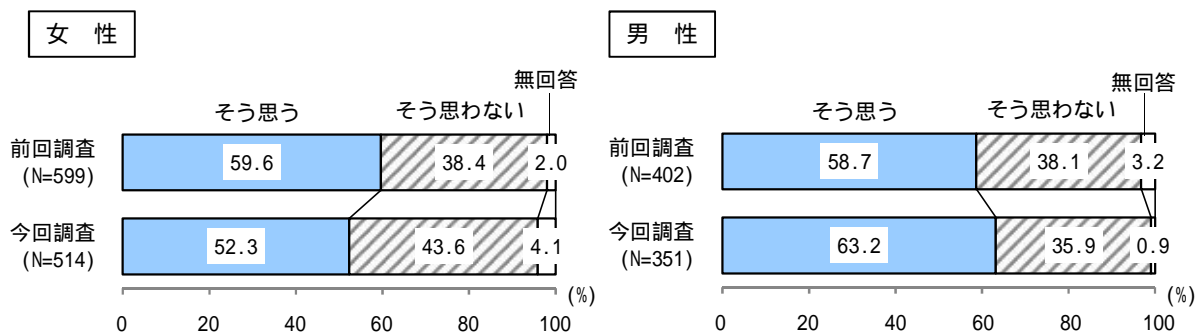
『祖父母、保育士等父母以外の多くの人々が子育てに関わるのがよい』について、前回調査と比較すると、「そう思う」人は、女性が3.2ポイント、男性が4.4ポイント増加している。

【 3歳までは、母親が子育てに専念すべきである（今回調査）】



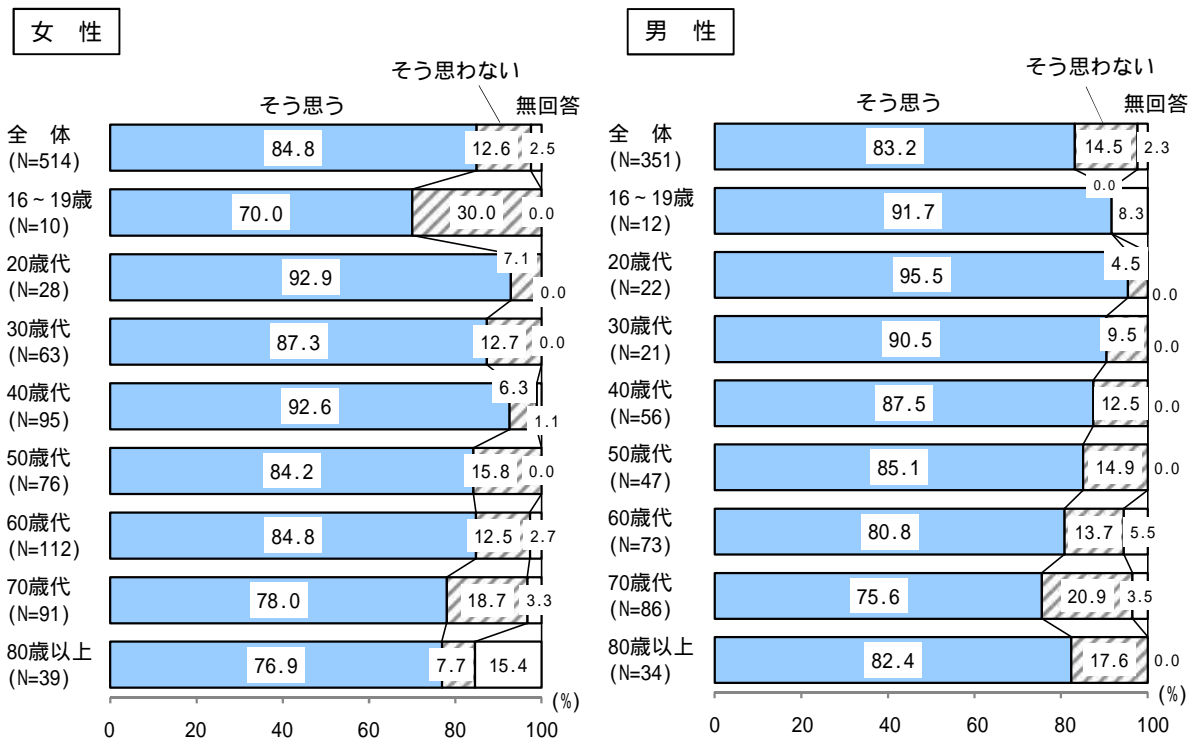
『 3歳までは、母親が子育てに専念すべきである』について、女性は、30歳代までは「そう思わない」人が6割台を占めているが、40歳以降になると「そう思う」人のほうが多くなり、特に70歳以降は6～7割台と高くなっている。一方、男性では、40歳代の「そう思わない」人が57.1%を占めているが、それ以外の年代では「そう思う」人が過半数を占めている。

【 3歳までは、母親が子育てに専念すべきである（経年比較）】



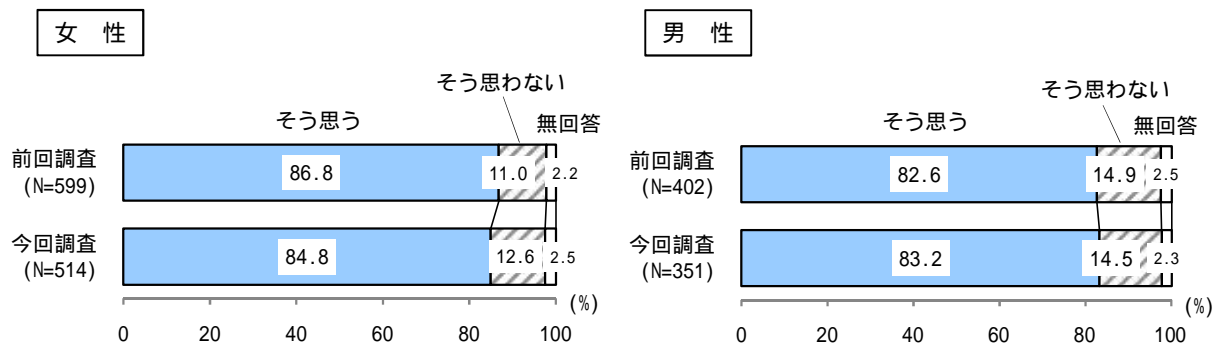
『 3歳までは、母親が子育てに専念すべきである』について、前回調査と比較すると、「そう思う」人では、女性は7.3ポイント減少しているが、男性は4.5ポイント増加している。

【 子育ては、夫も妻も等分に関わるのがよい (今回調査)】



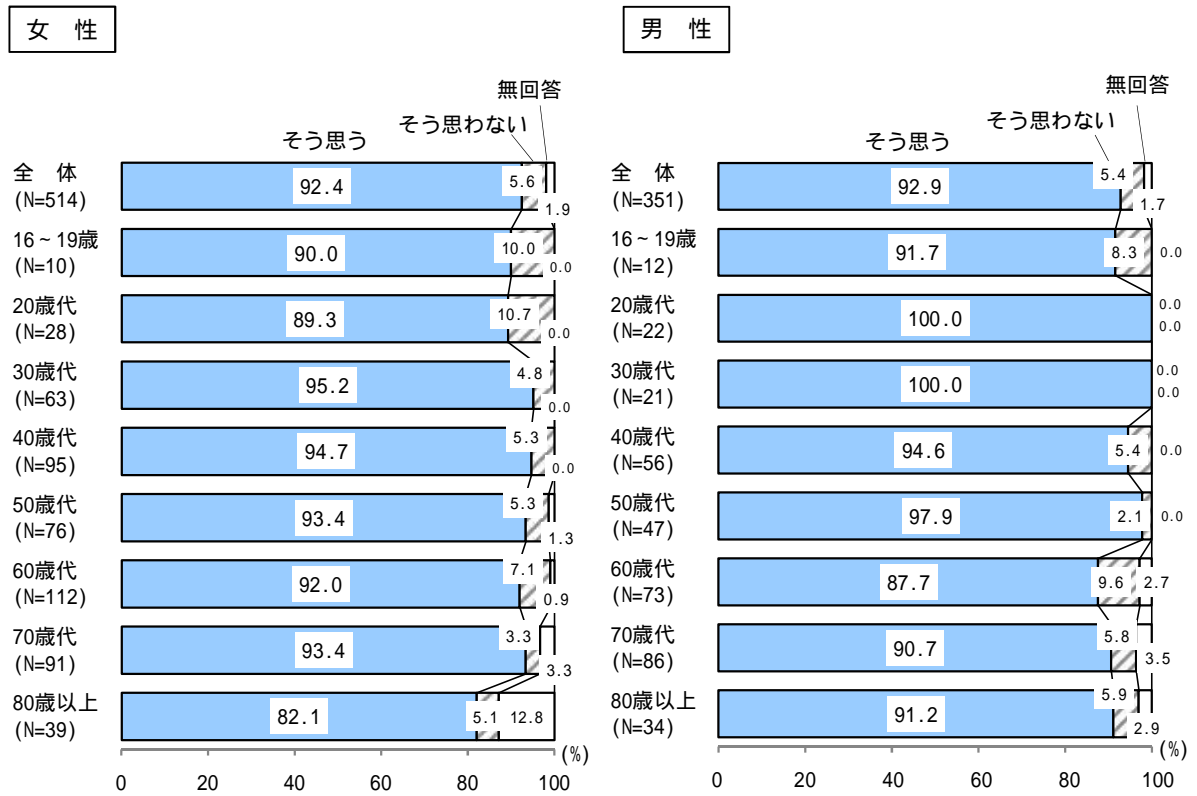
『 子育ては、夫も妻も等分に関わるのがよい』について、「そう思う」人が、男女ともいずれの年代も7割以上と高くなっている。しかし、男性の年代が上がるほど「そう思わない」人の割合が上昇傾向にある。

【 子育ては、夫も妻も等分に関わるのがよい (経年比較)】



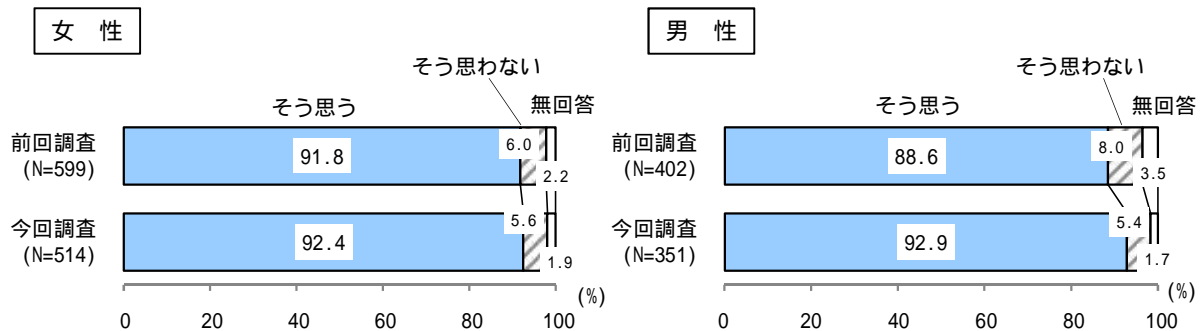
『 子育ては、夫も妻も等分に関わるのがよい』について、前回調査と比較すると、男女とも大きな変化はみられない。

【 男女とも、経済的自立ができるように育てるのがよい（今回調査）】



『 男女とも、経済的自立ができるように育てるのがよい』について、「そう思う」人は、男女ともいずれの年代も8割以上と高くなっている。

【 男女とも、経済的自立ができるように育てるのがよい（経年比較）】

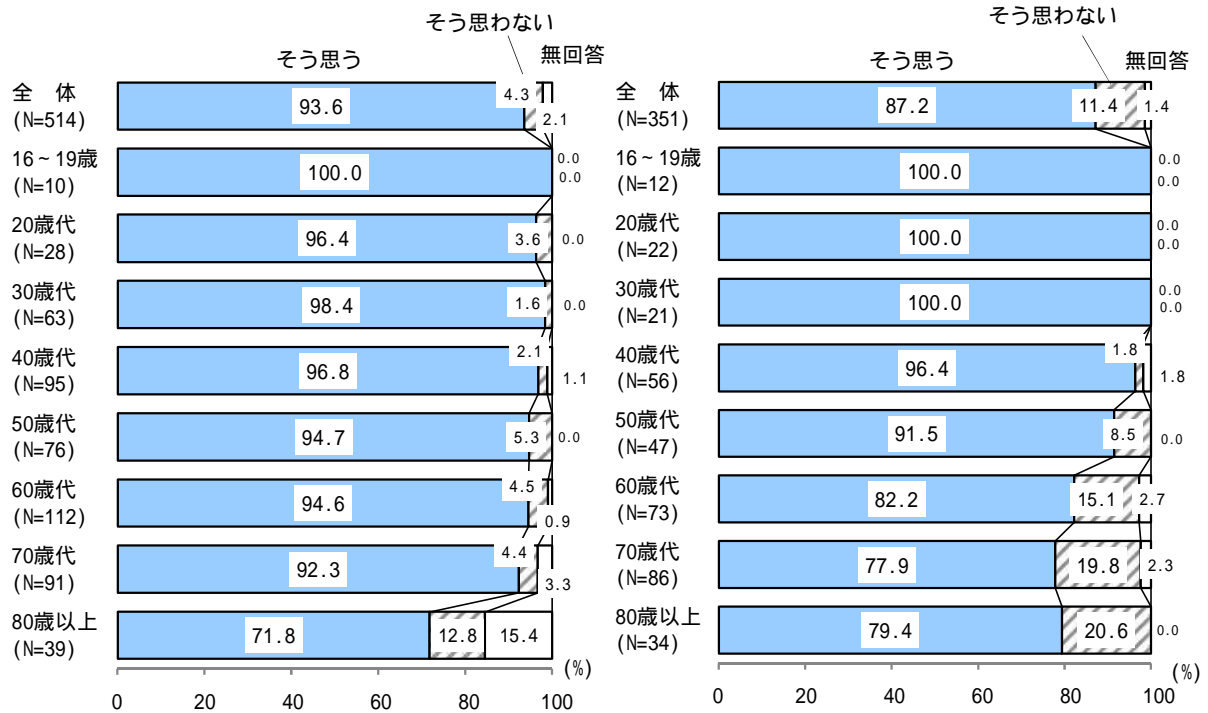


『 男女とも、経済的自立ができるように育てるのがよい』について、前回調査と比較すると、女性に大きな変化はみられないが、男性の「そう思う」人が4.3ポイント増加している。

【 男女とも、家事・育児ができるように育てるのがよい (今回調査)】

女性

男性

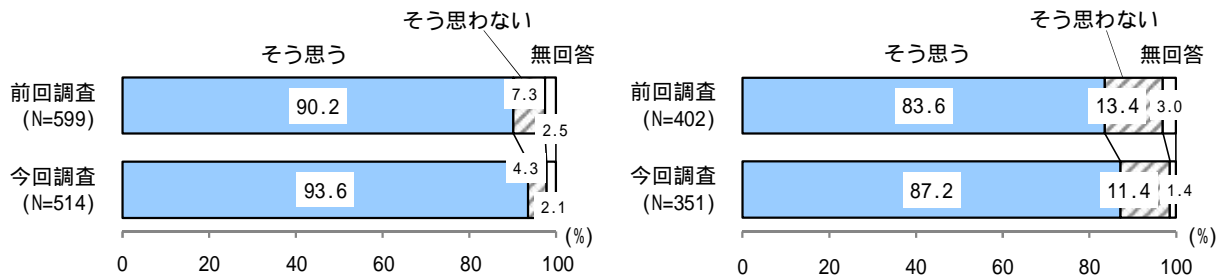


『 男女とも、家事・育児ができるように育てるのがよい』について、「そう思う」女性は、70歳代までが9割以上、80歳以上で71.8%となっている。一方の「そう思う」男性は、50歳代までが9割以上、60歳以降で8割前後を占めている。

【 男女とも、家事・育児ができるように育てるのがよい (経年比較)】

女性

男性

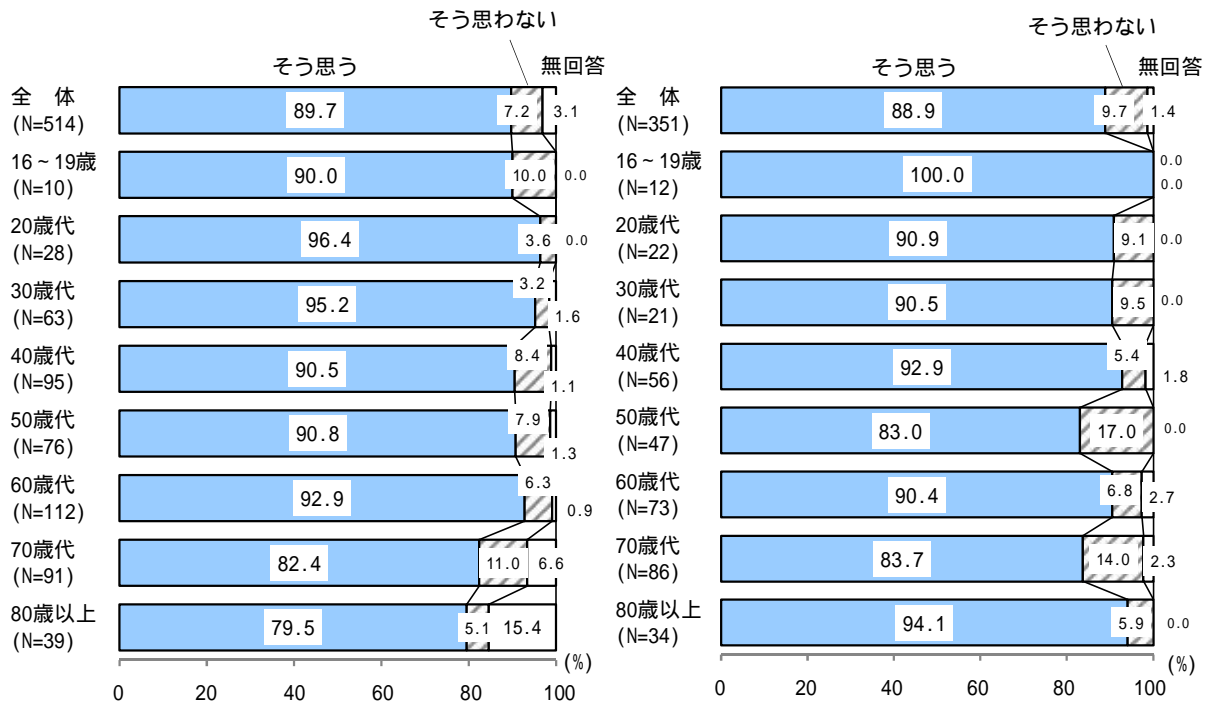


『 男女とも、家事・育児ができるように育てるのがよい』について、前回調査と比較すると、「そう思う」人が、女性で3.4ポイント、男性で3.6ポイント増加している。

【 個性を伸ばし、個人を尊重する育て方がよい(今回調査)】

女性

男性

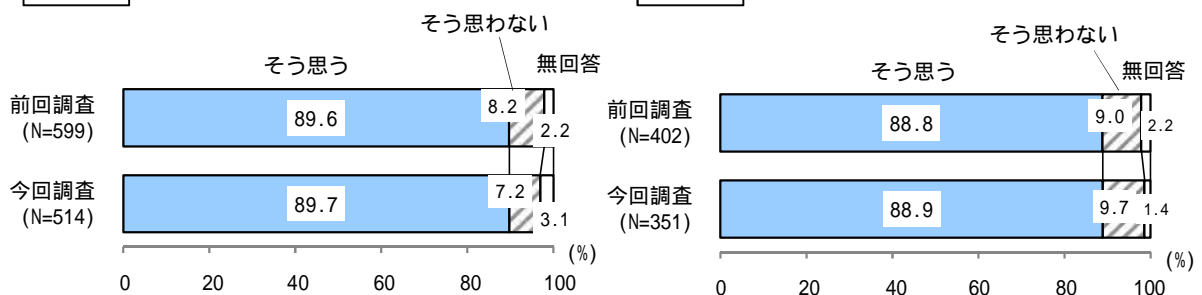


『個性を伸ばし、個人を尊重する育て方がよい』について、「そう思う」女性は、60歳代までが9割台、70歳以降で8割前後を占めている。一方の「そう思う」男性は、いずれの年代も8割以上を占めているが、50歳代と70歳代の「そう思わない」人がそれぞれ17.0%、14.0%と他の年代に比べ高くなっている。

【 個性を伸ばし、個人を尊重する育て方がよい(経年比較)】

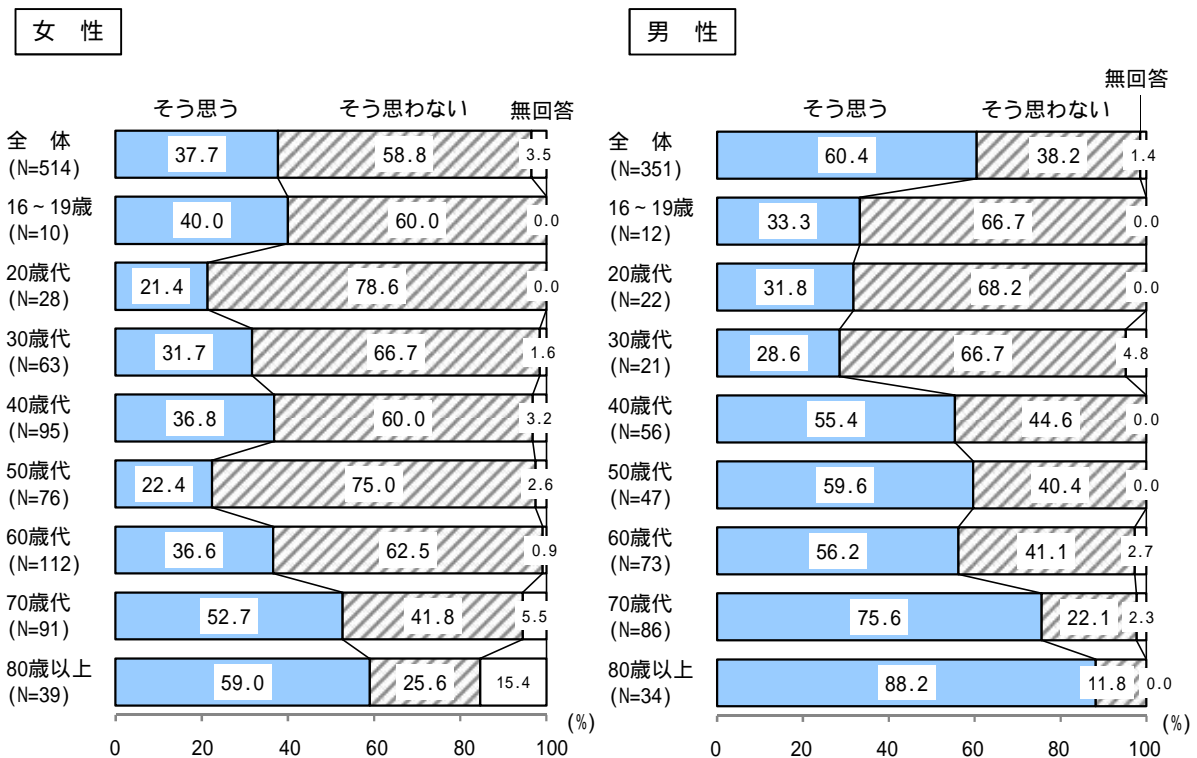
女性

男性



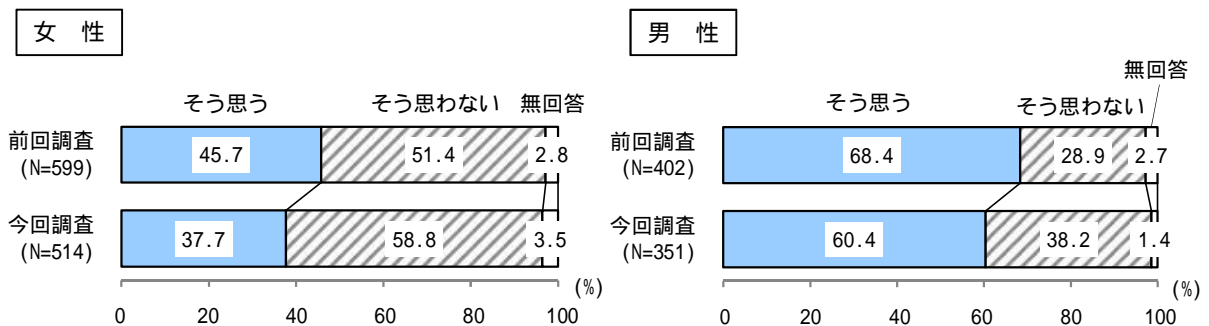
『個性を伸ばし、個人を尊重する育て方がよい』について、前回調査と比較すると、男女ともに大きな変化はみられない。

【 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい(今回調査)】



『 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい』について、「そう思わない」女性は、60歳代までは6～7割台を占めているが、70歳以降になると「そう思う」人が5割台と高くなっている。一方、男性では、30歳代までは「そう思わない」が6割台を占めているが、40歳以降になると「そう思う」が過半数を占めており、特に70歳以降では7～8割台と高くなっている。

【 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい(経年比較)】

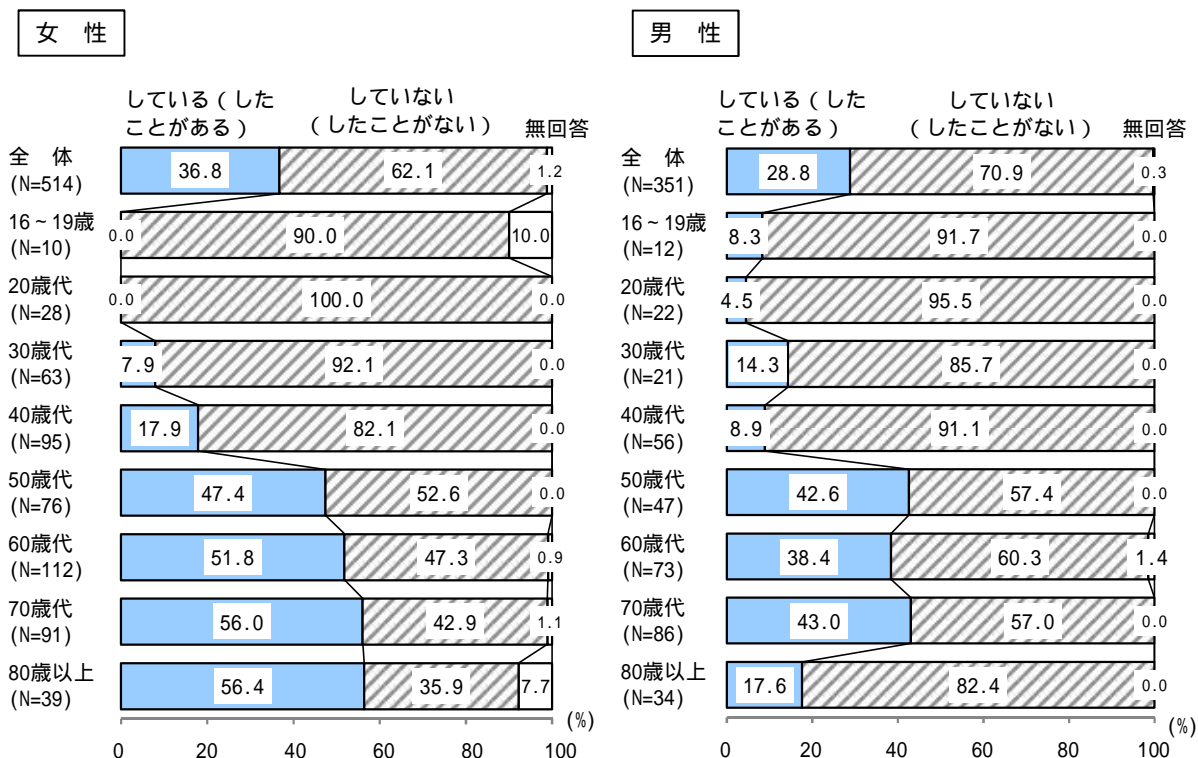


『 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい』について、「そう思う」人は男女とも8.0ポイント減少しており、一方の「そう思わない」人が、女性で7.4ポイント、男性で9.3ポイント増加している。

5. 介護について

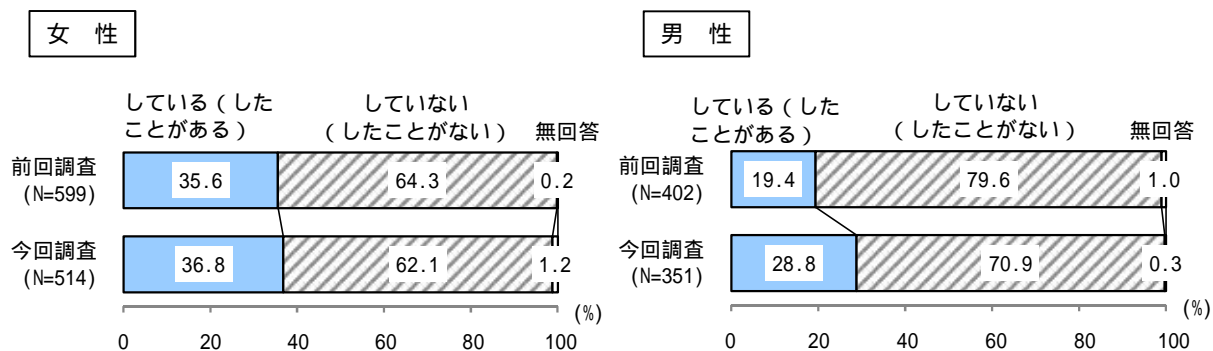
(1) 家族の介護の経験有無

問8 あなたは今、家族の誰かを介護していますか。または介護をしたことがありますか。(どちらか1つに)



家族の介護の経験有無について、「している(したことがある)」人は、女性36.8%、男性28.8%で、男性は女性に比べ8.0ポイント低い。また、男女ともに、50歳以降になると「している(したことがある)」人が多くなり、女性は5割前後を占めているが、男性は50~70歳代で4割前後に対し、80歳以上になると17.6%に低下している。

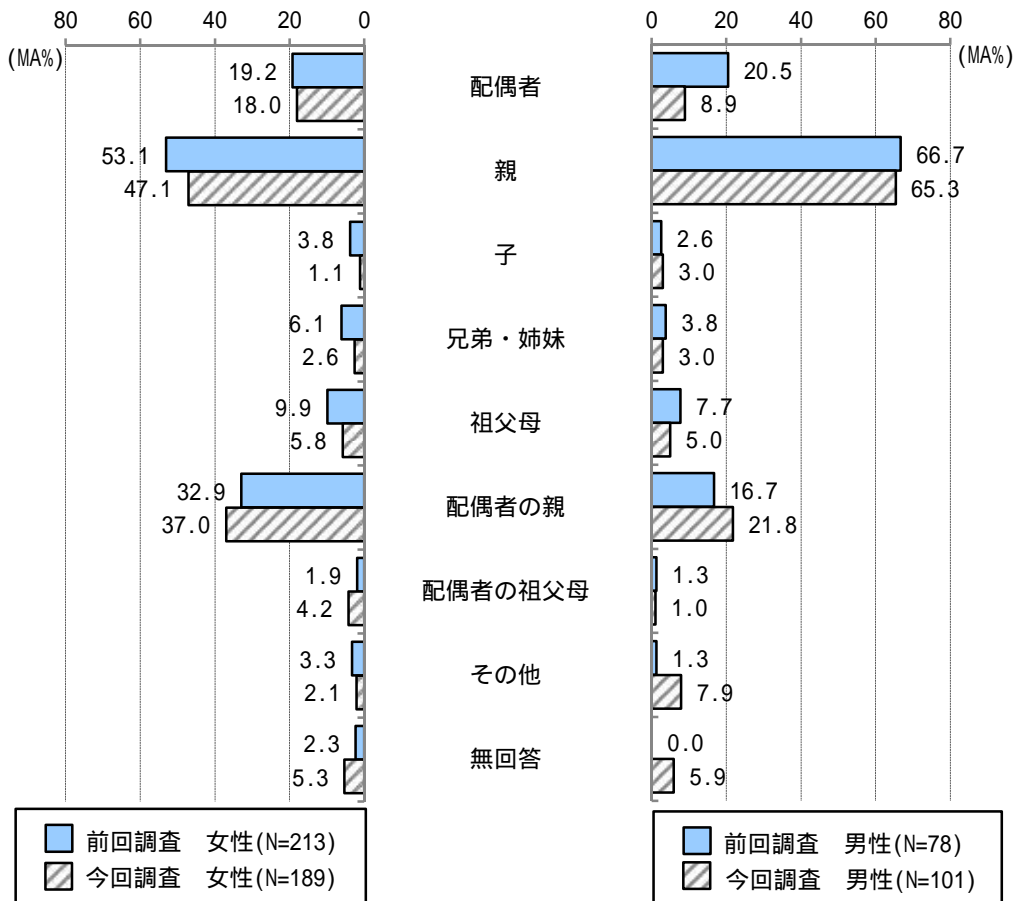
【経年比較】



前回調査と比較すると、女性に大きな変化はみられないが、男性は「している(したことがある)」が9.4ポイント増加している。

(2) 介護した相手

〔問8で「1. している(したことがある)」と答えた方におたずねします。〕
 問9 介護した相手は誰ですか。(あてはまるものすべてに)



家族を介護している(したことがある)と回答した人に、その相手をたずねると、男女とも「親」が最も多く、女性47.1%に対し、男性65.3%で、男性のほうが18.2ポイント高くなっている。これに次いで「配偶者の親」が多くなっており、女性37.0%、男性21.8%で、女性のほうが15.2ポイント高くなっている。また、「配偶者」では、女性18.0%に対し、男性8.9%で、女性のほうが9.1ポイント高くなっている。

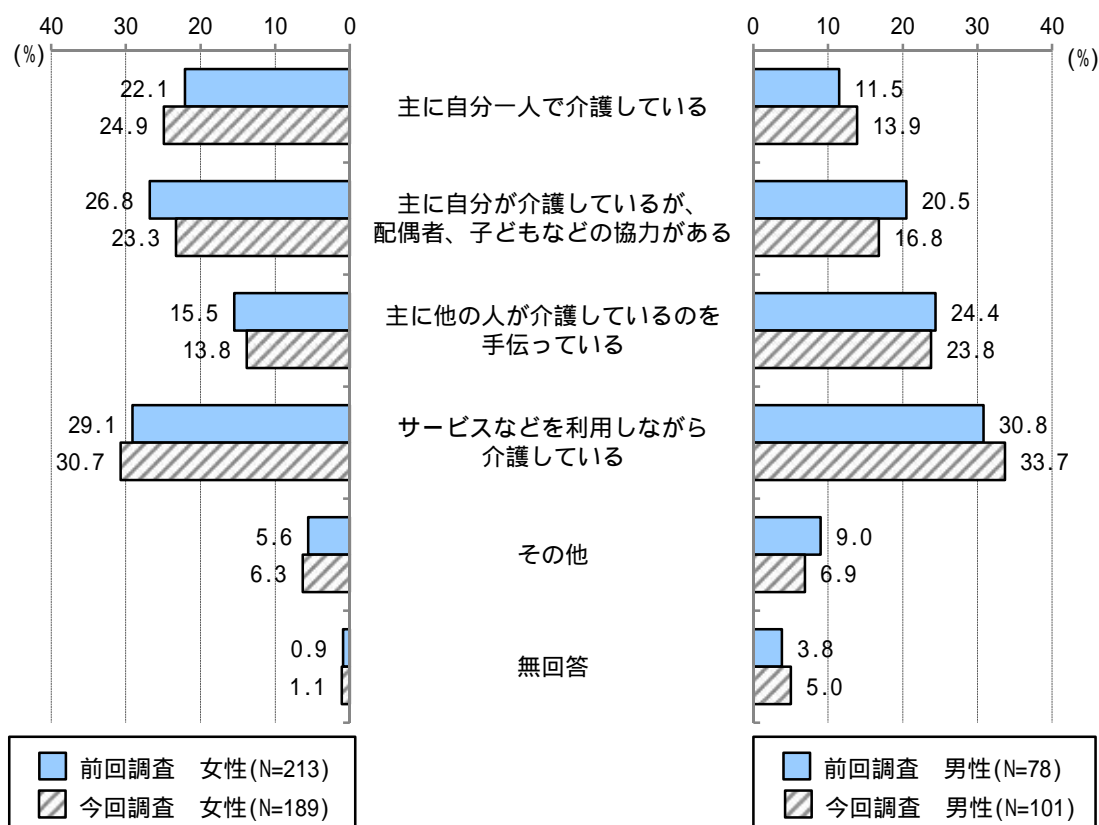
前回調査と比較すると、女性では、「親」や「祖父母」は減少しているが、「配偶者の親」や「配偶者の祖父母」が増加している。一方、男性では、「配偶者」や「祖父母」は減少しており、特に「配偶者」は11.6ポイント下がっているが、「配偶者の親」は5.1ポイント増加している。

(3) 介護方法

〔問8で「1. している(したことがある)」と答えた方におたずねします。〕

問10 介護はどのように行っていますか(または行っていましたか)

(あてはまるもの1つに)



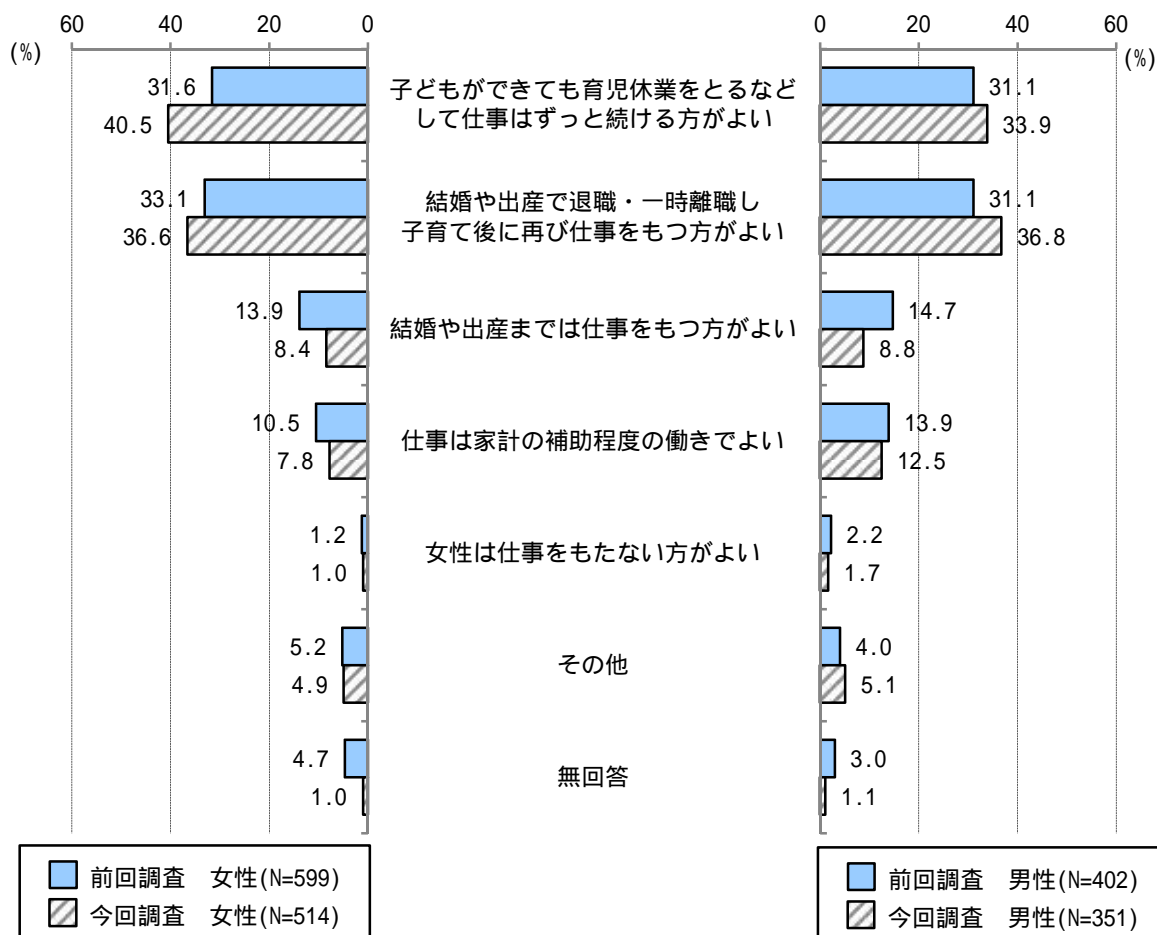
家族を介護している(したことがある)と回答した人に、介護方法をたずねると、男女とも「サービスなどを利用しながら介護している」が3割台で最も多くなっている。これに次いで、女性は「主に自分一人で介護している」(24.9%)、男性は「主に他の人が介護しているのを手伝っている」(23.8%)が続いている。

前回調査と比較すると、男女ともに、「主に自分一人で介護している」が女性2.8ポイント、男性2.4ポイント増加しており、「主に自分が介護しているが、配偶者、子どもなどの協力がある」は女性3.5ポイント、男性3.7ポイント減少している。

6. 女性と仕事について

(1) 女性が仕事をする事についての意見

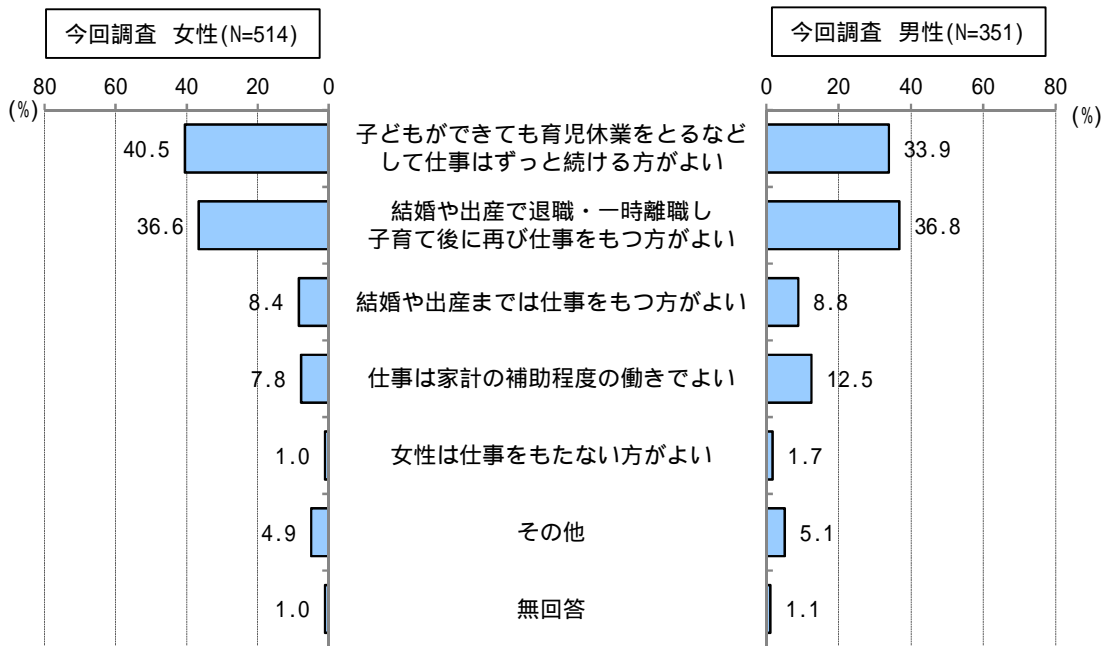
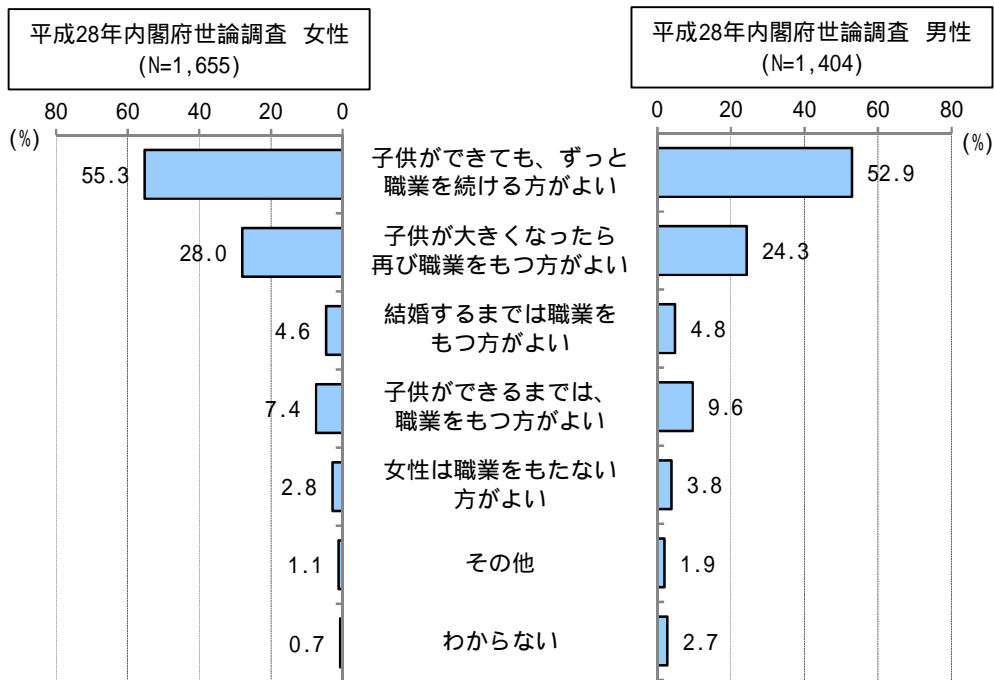
問11 一般的に女性が収入をとまなう仕事をもつことについて、あなたはどのように思いますか。(あてはまるもの1つに)



女性が仕事をする事についての意見として、「子どもができても育児休業をとるなどして仕事はずっと続ける方がよい」は、女性が40.5%で最も多くなっているが、男性は33.9%で女性より6.6ポイント低い。なお、男性では「結婚や出産で退職・一時離職し子育て後に再び仕事をもつ方がよい」が36.8%で最も多くなっている。

前回調査と比較すると、「子どもができても育児休業をとるなどして仕事はずっと続ける方がよい」は、女性8.9ポイント、男性2.8ポイント増加しており、「結婚や出産で退職・一時離職し子育て後に再び仕事をもつ方がよい」では、女性3.5ポイント、男性5.7ポイント増加している。一方、「結婚や出産までは仕事をもつ方がよい」は、女性5.5ポイント、男性5.9ポイント減少している。

【内閣府世論調査との比較】

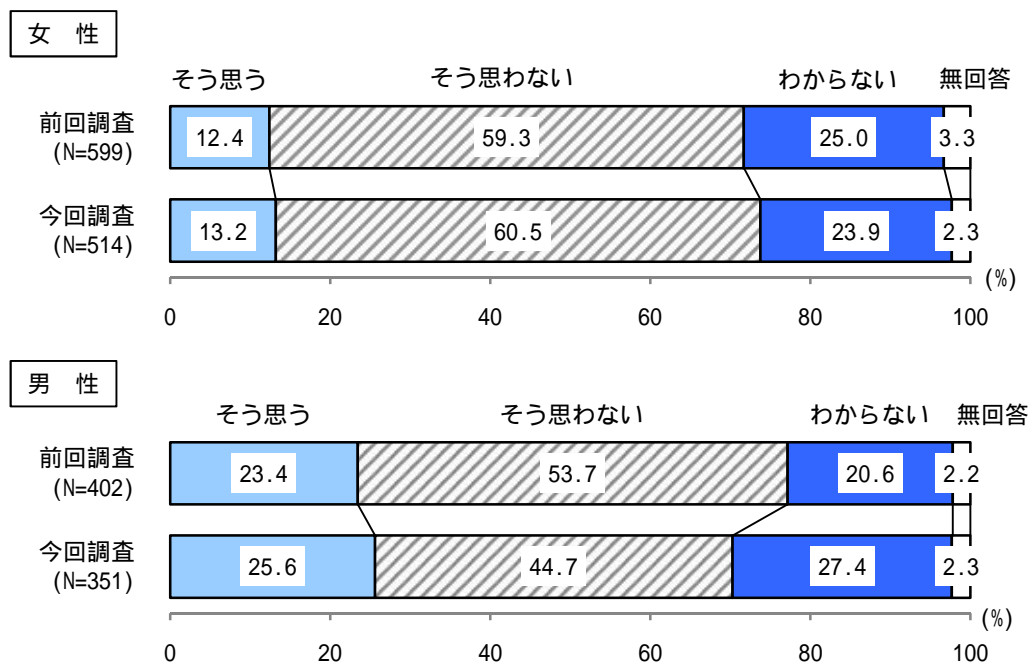


内閣府世論調査では、「子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい」が男女とも5割台を占めている。一方、本市の今回調査では、「子どもができて育児休業をとるなどして仕事はずっと続ける方がよい」が女性40.5%、男性33.9%となっており、本市では、子育ては女性がするという意識が高い傾向にある。

(2) 現在の女性は働きやすい状況にあるか

問12 あなたは、現在の女性は働きやすい状況にあると思いますか。

(あてはまるもの1つに)



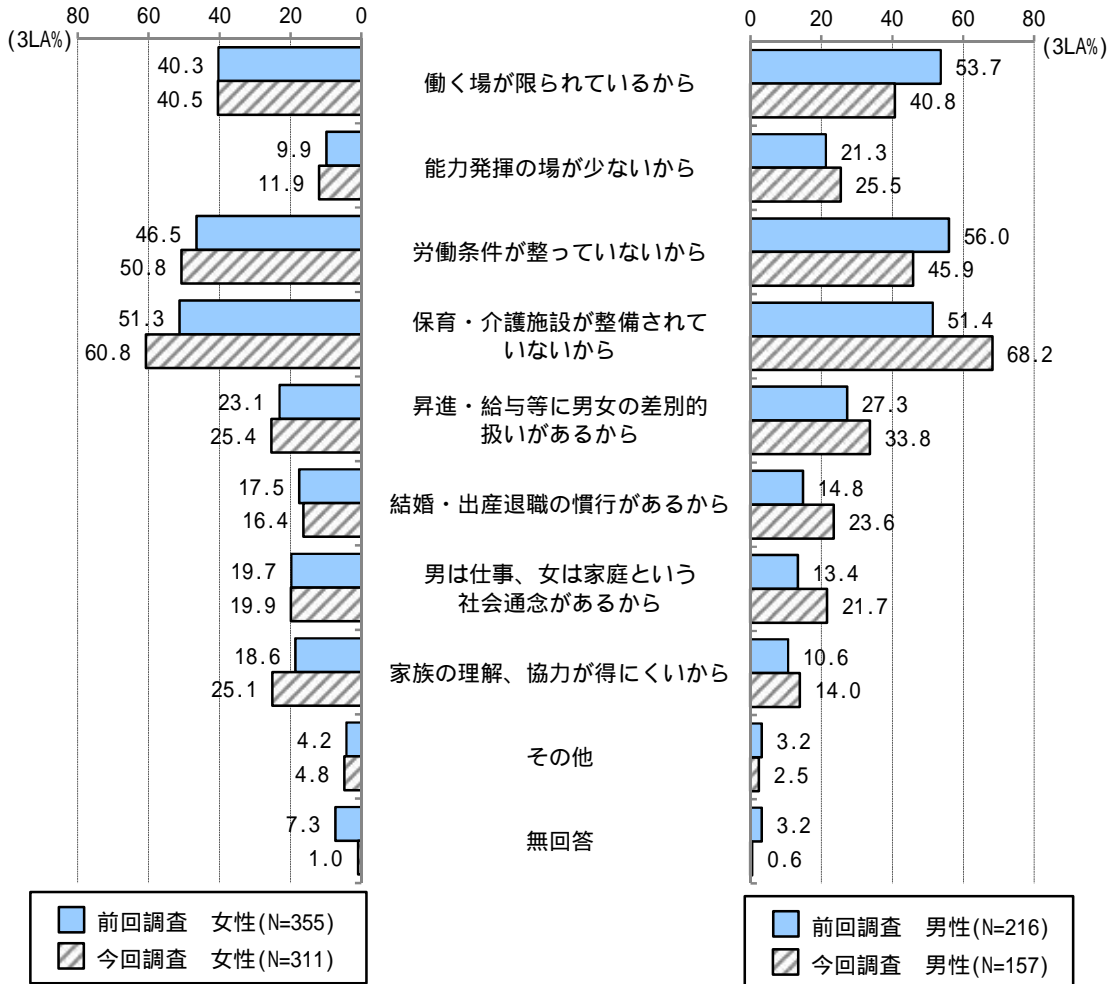
現在の女性は働きやすい状況にあるかについて、男女とも「そう思わない」が最も多く、女性は60.5%、男性は44.7%で、女性のほうが15.8ポイント高くなっている。一方の「そう思う」人では、女性13.2%、男性25.6%で、男性のほうが12.4ポイント高くなっている。

前回調査と比較すると、女性に大きな変化はみられないが、男性の「そう思わない」は9.0ポイント減少している。

(3) 女性が働きにくいと思う理由

〔問12で「2. そう思わない」と答えた方におたずねします。〕

問13 そう思わない理由は何ですか。(あてはまるもの3つまでに)



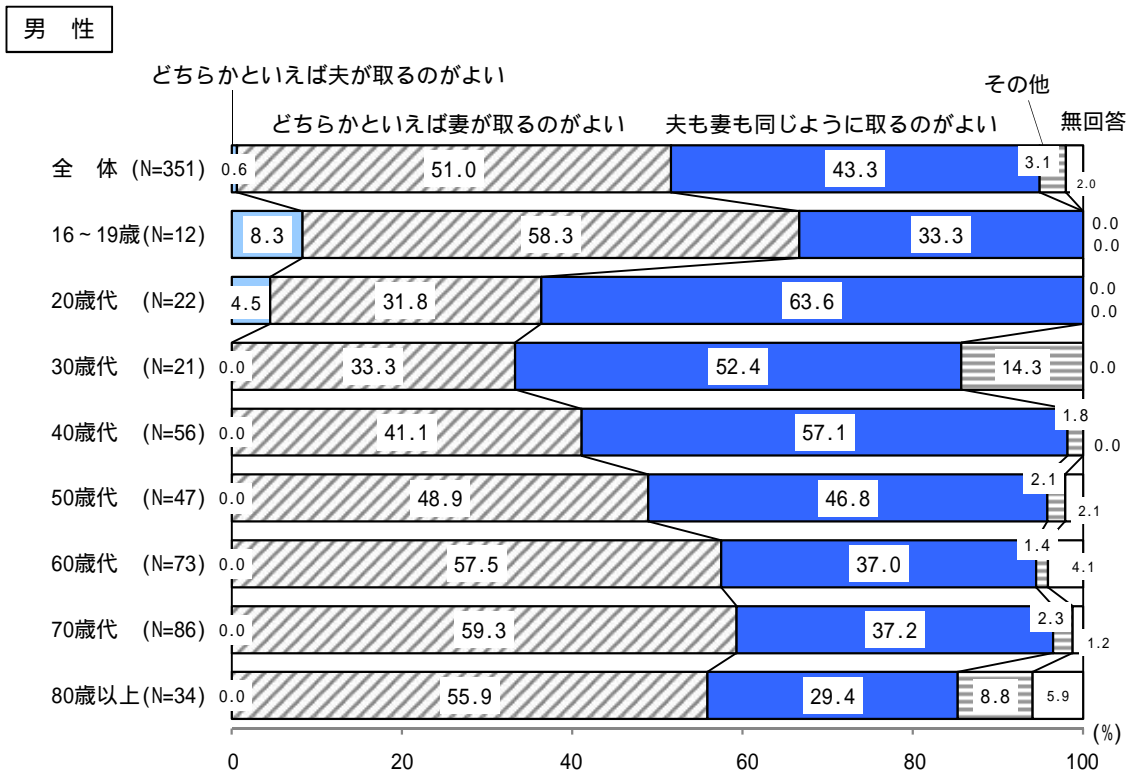
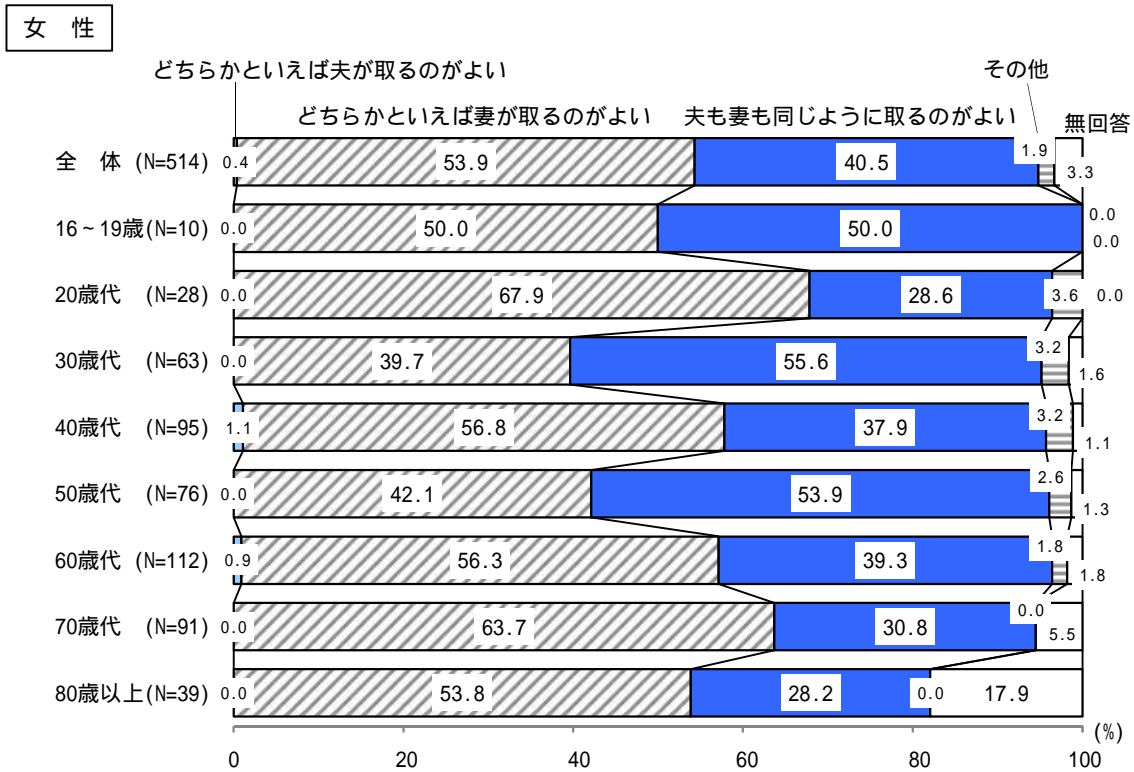
現在の女性は働きにくいと回答した人に、その理由をたずねると、男女とも「保育・介護施設が整備されていないから」が6割台で最も多くなっている。これに次いで、「労働条件が整っていないから」が女性50.8%、男性45.9%で、女性のほうが4.9ポイント高くなっている。また、「家族の理解、協力が得にくいから」は女性が25.1%に対し、男性は14.0%と、女性は男性に比べ11.1ポイント高くなっている。

前回調査と比較すると、「保育・介護施設が整備されていないから」が女性9.5ポイント、男性16.8ポイント増加している。また、女性は「家族の理解、協力が得にくいから」が6.5ポイント増加しており、男性では「結婚・出産退職の慣行があるから」と「男は仕事、女は家庭という社会通念があるから」が8ポイント、「昇給・給与等に男女の差別的扱いがあるから」が6.5ポイントの増加となっている。一方で、男性では「働く場が限られているから」と「労働条件が整っていないから」が10ポイント程度減少している。

(4) 共働き夫婦の育児休業や介護休業の取得に対する意向

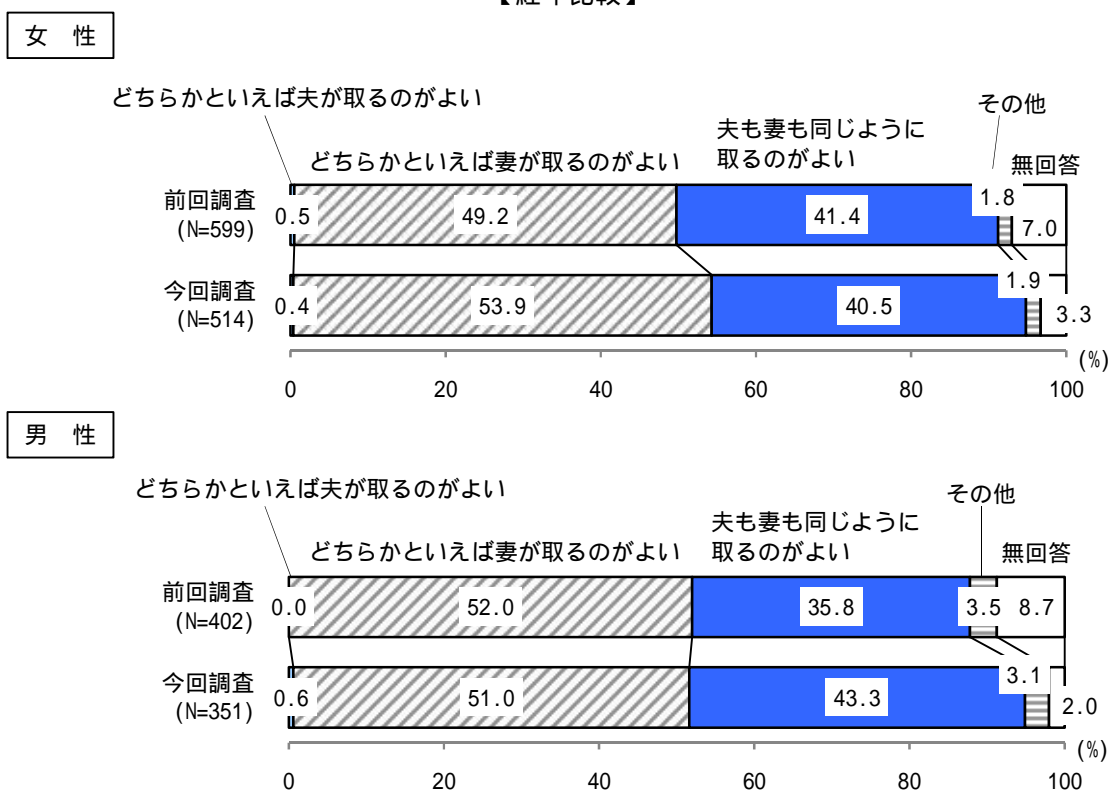
育児休業の取得意向

問14 家庭で育児や介護が必要なとき、共働き夫婦が育児休業や介護休業を取るとしたらどうするのがよいと思いますか。育児休業、介護休業それぞれについてお答えください。(あてはまるもの1つに)



育児休業の取得について、男女ともに、「どちらかといえば妻が取るのがよい」が5割台を占めており、「夫も妻も同じように取るのがよい」は4割台となっている。年代別でみると、女性は30歳代と50歳代で「夫も妻も同じように取るのがよい」が5割台を占めているが、それら以外の年代では「どちらかといえば妻が取るのがよい」が5～6割台を占めている。一方、男性は20～40歳代で「夫も妻も同じように取るのがよい」が5～6割台を占めており、50歳代は「どちらかといえば妻が取るのがよい」(48.9%)と「夫も妻も同じように取るのがよい」(46.8%)に大きな差はなく、60歳以降になると「どちらかといえば妻が取るのがよい」が5割台で高くなっている。

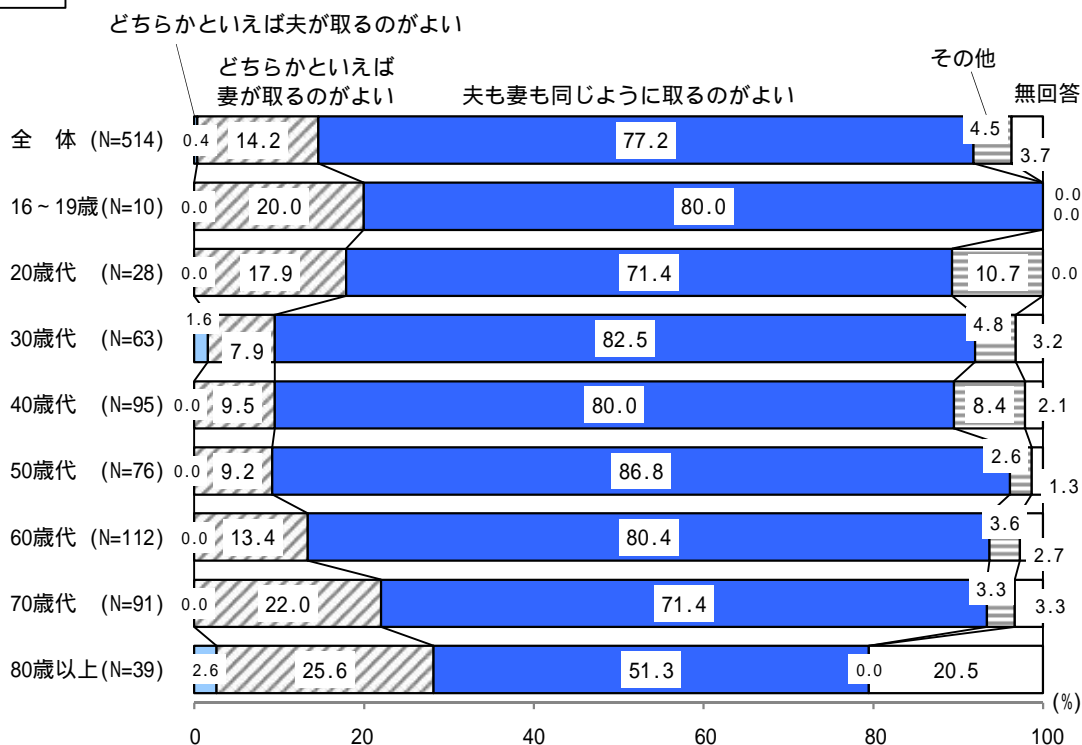
【経年比較】



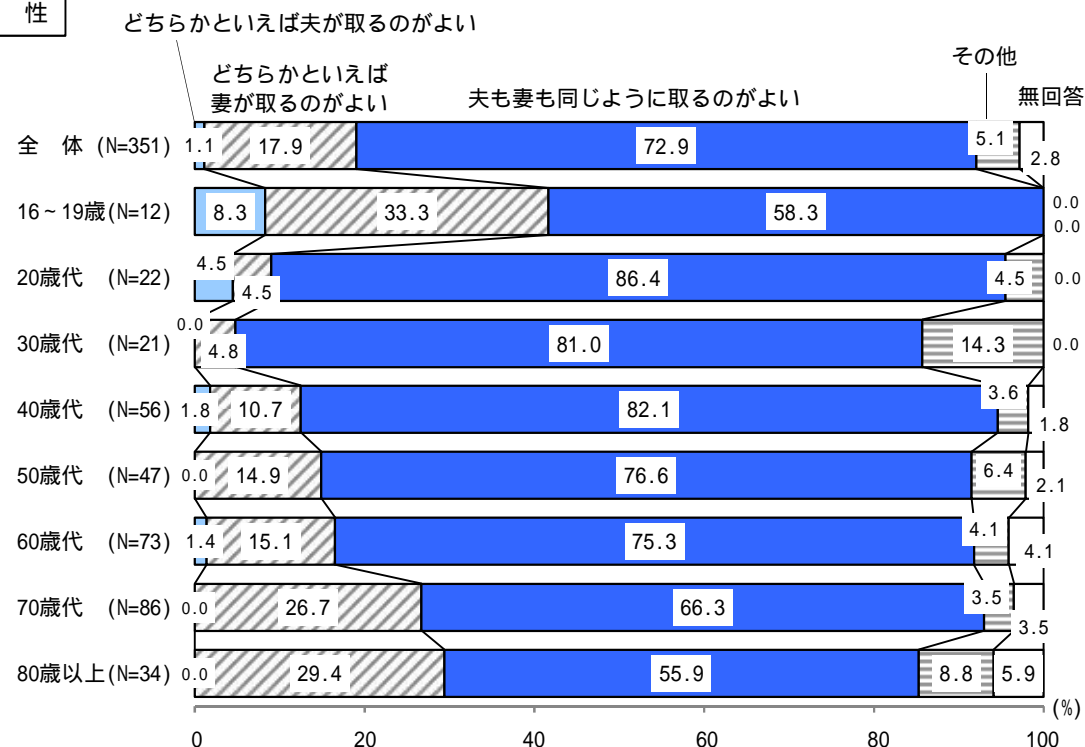
前回調査と比較すると、「どちらかといえば妻が取るのがよい」は、女性で4.7ポイント増加しているが、男性に大きな変化はみられない。しかし、「夫も妻も同じように取るのがよい」では、女性に大きな変化はみられないが、男性は7.5ポイント増加している。

介護休業の取得意向

女性

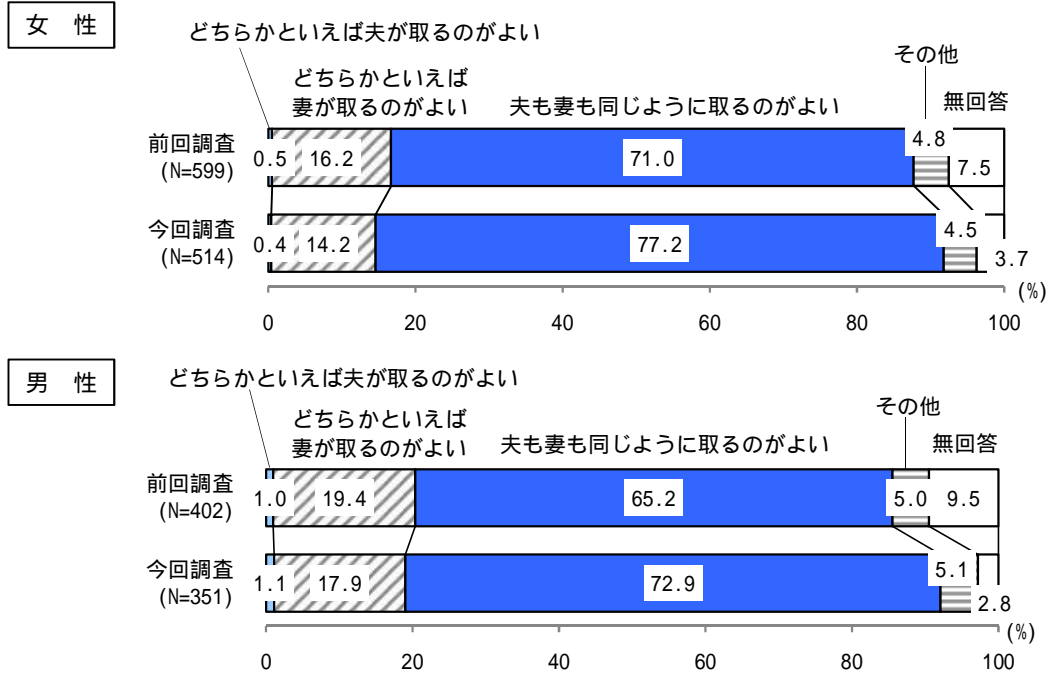


男性



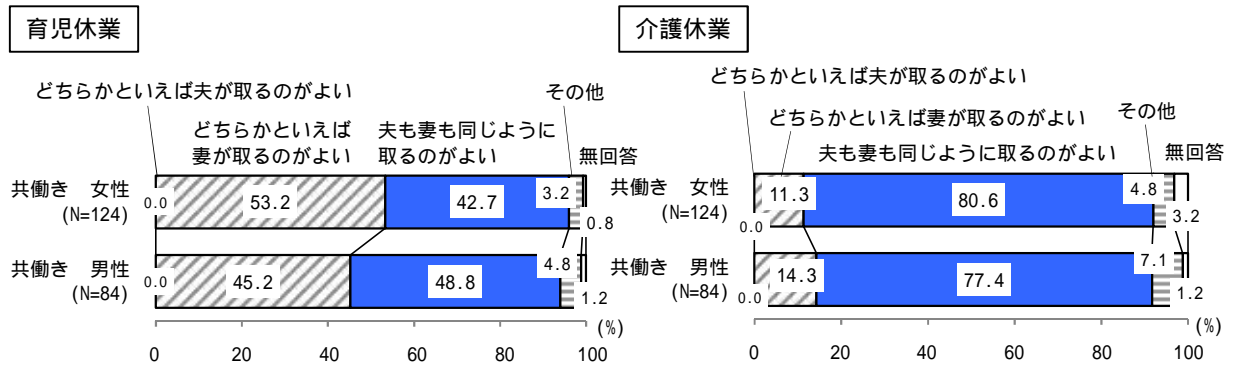
介護休業の取得について、男女とも「夫も妻も同じように取るのがよい」が7割台を占めるが、「どちらかといえば妻が取るのがよい」は女性14.2%、男性17.9%で、男性のほうが3.7ポイント高くなっている。年代別で見ると、男女ともいずれの年代も「夫も妻も同じように取るのがよい」が半数以上を占めている。しかし、70歳以降になると、男女ともに「どちらかといえば妻が取るのがよい」で2割台となっている。

【経年比較】



前回調査と比較すると、「夫も妻も同じように取るのがよい」が女性6.2ポイント、男性7.7ポイント増加している。

【共働き夫婦の育児休業・介護休業の取得意向】



育児休業の取得について、共働き夫婦の男女別でみると、女性は「どちらかといえば妻が取るのがよい」が53.2%を占めており、男性（45.2%）に比べ8.0ポイント高くなっている。一方、男性は「夫も妻も同じように取るのがよい」が48.8%で最も多く、女性（42.7%）に比べ6.1ポイント高くなっている。

介護休業の取得について、共働き夫婦の男女別でみると、男女とも「夫も妻も同じように取るのがよい」が8割前後を占めている。また、「どちらかといえば妻が取るのがよい」は、男性が14.3%で女性（11.3%）より3.0ポイント高くなっている。

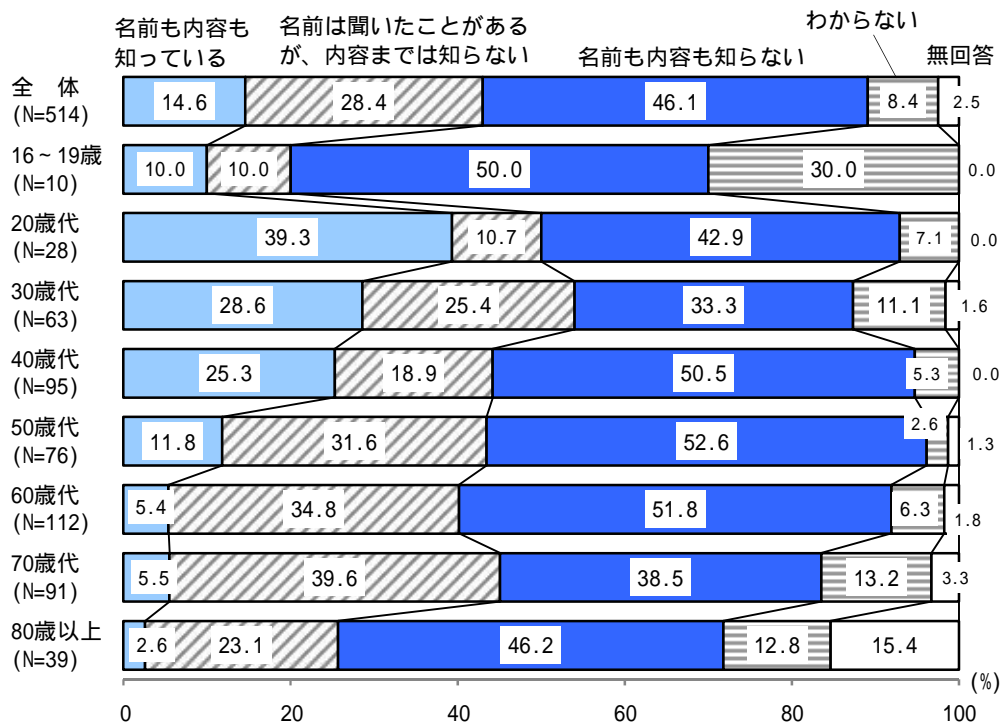
なお、育児休業・介護休業とも、共働き夫婦の男女ともに「どちらかといえば夫が取るのがよい」の回答者はない。

7. ワーク・ライフ・バランスについて

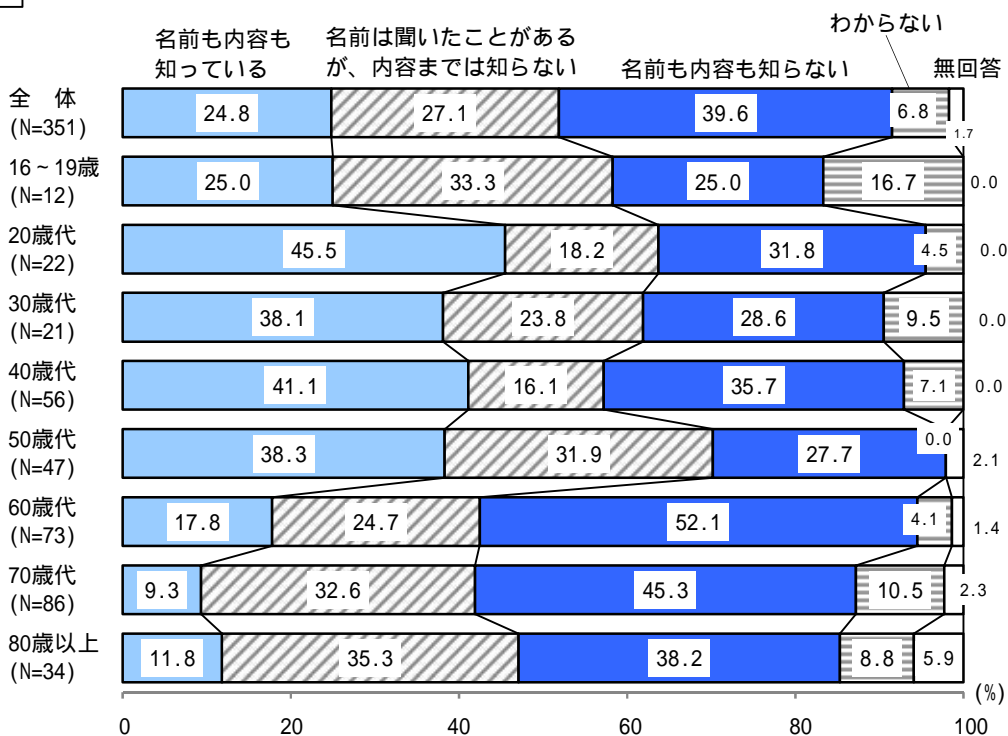
(1) ワーク・ライフ・バランスの言葉の認知度

問15 あなたは「仕事と生活の調和」すなわち「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていますか。(あてはまるもの1つに)

女性



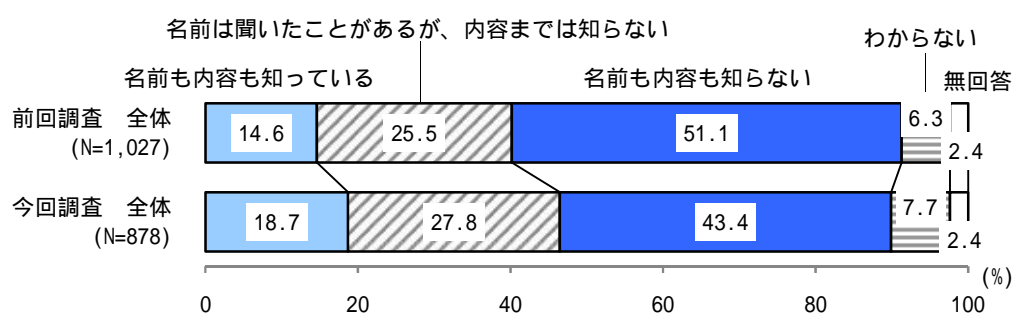
男性



ワーク・ライフ・バランスの言葉の認知度について、男女とも「名前も内容も知ら

ない」が最も多くなっている。「名前も内容も知っている」では、女性14.6%、男性24.8%で、女性は男性より10.2ポイント低くなっている。年代別でみると、女性は、70歳代を除いた各年代で「名前も内容も知らない」が最も多くなっており、20～40歳代は「名前も内容も知っている」が2～3割台、50～70歳代は「名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない」が3割台を占めている。一方、男性では、20～50歳代は「名前も内容も知っている」が4割前後で最も多く、60歳以降になると「名前も内容も知らない」が最も多くなっている。

【経年比較】

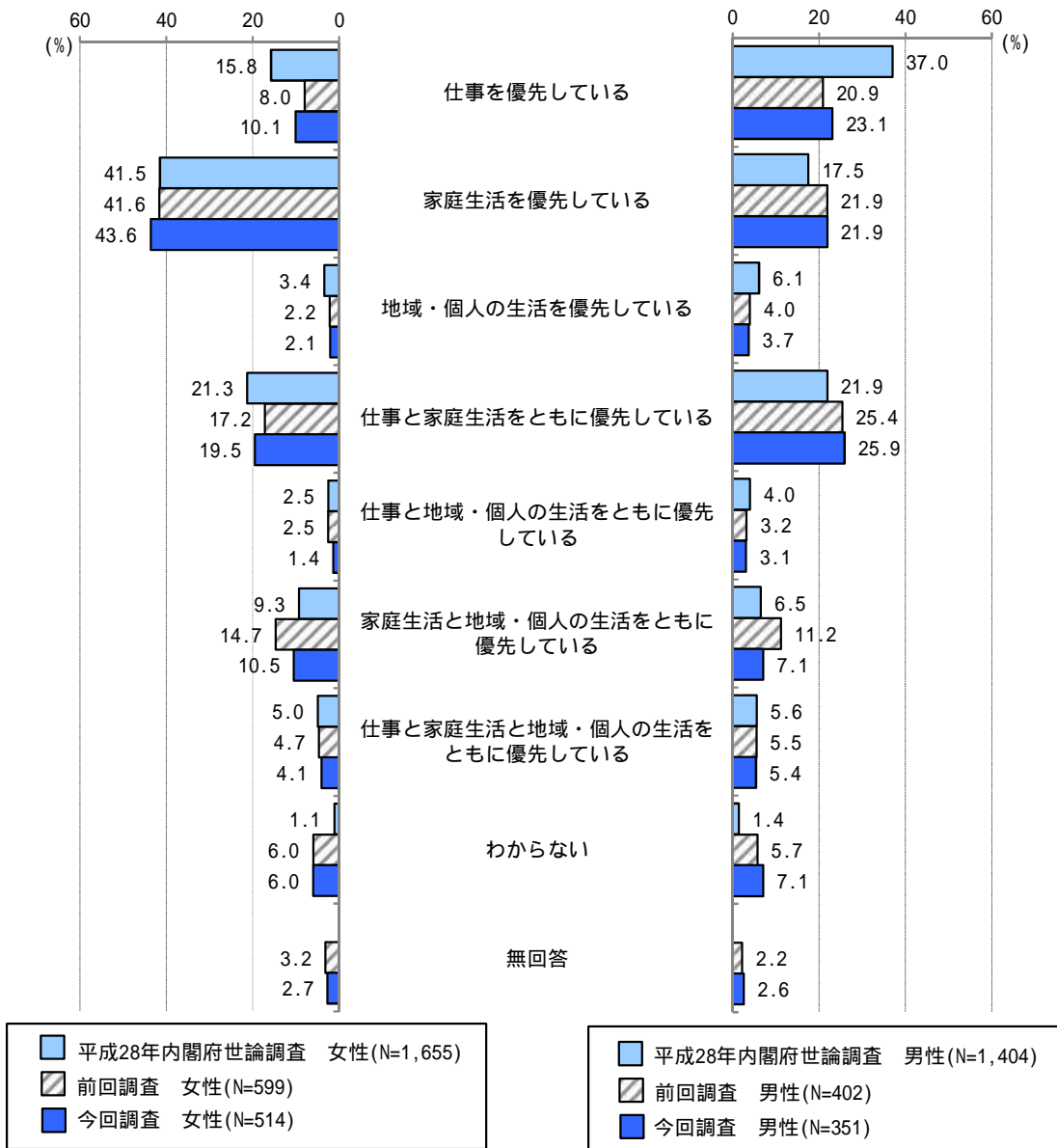


ワーク・ライフ・バランスの言葉の認知度を全体でみると、「名前も内容も知らない」が43.4%で最も多く、次いで「名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない」が27.8%、「名前も内容も知っている」は18.7%となっている。

前回調査と比較すると、「名前も内容も知っている」が4.1ポイント、「名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない」が2.3ポイント増加している。

(2) 現実に最も近い環境

問16 あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。（あてはまるもの1つに ）



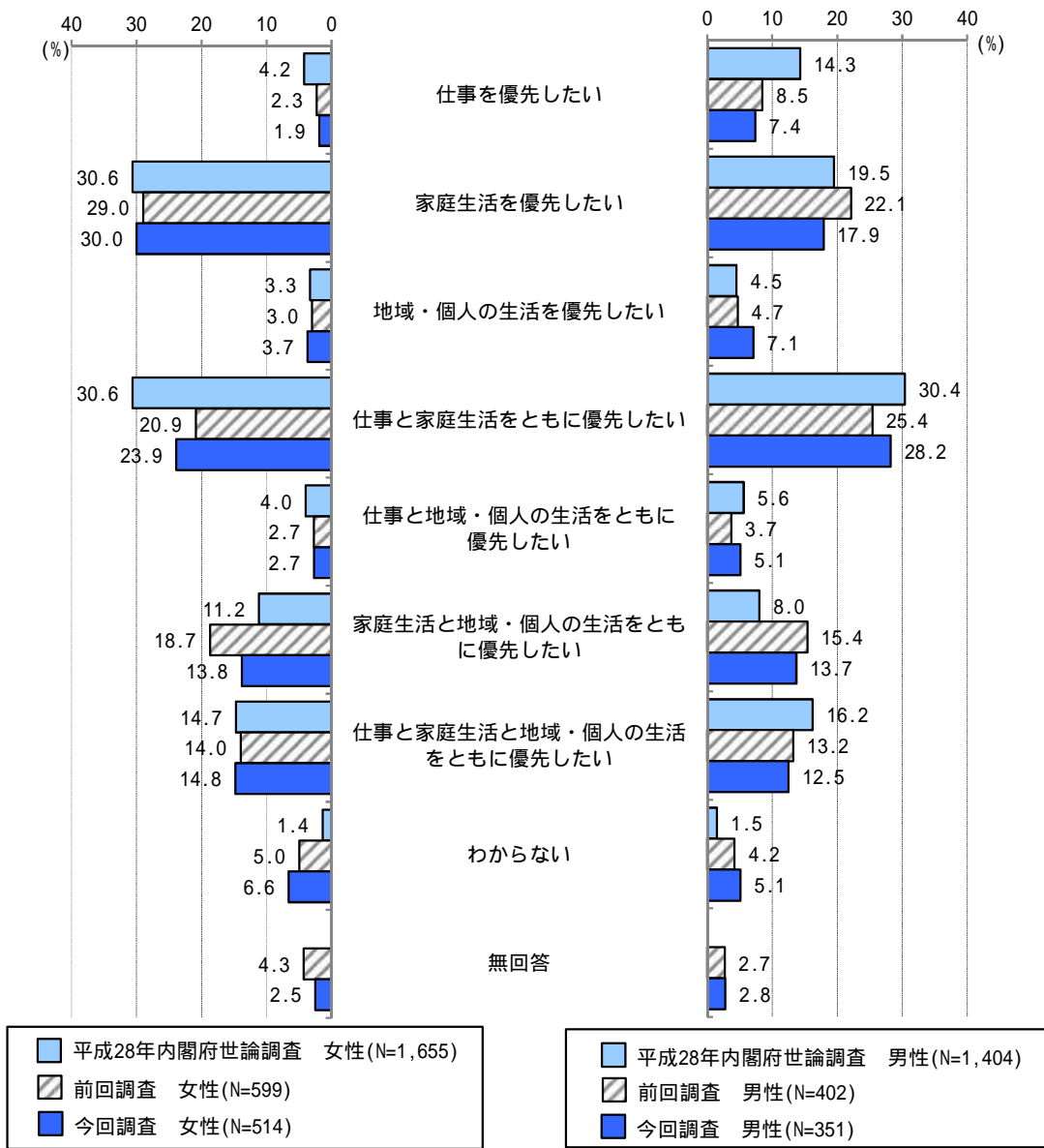
現実に最も近い環境として、女性は「家庭生活を優先している」が43.6%で最も多く、次いで「仕事と家庭生活をともに優先している」が19.5%となっている。一方、男性は「仕事と家庭生活をともに優先している」が25.9%で最も多く、次いで「仕事を優先している」が23.1%となっている。

内閣府世論調査と比較すると、「仕事を優先している」は女性で5.7ポイント、男性で13.9ポイント低くなっている。一方で「家庭生活を優先している」は、女性が2.1ポイント、男性が4.4ポイント高くなっている。

前回調査と比較すると、男女とも大きな変化はみられないが、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先している」は男女ともに4ポイント減少している。

(3) 希望に最も近い環境

問17 あなたの希望に最も近いものはどれですか。(あてはまるもの1つに)



希望に最も近い環境として、女性は「家庭生活を優先したい」が30.0%で最も多く、次いで「仕事と家庭生活をともに優先したい」が23.9%となっている。一方、男性は「仕事と家庭生活をともに優先したい」が28.2%で最も多く、次いで「家庭生活を優先したい」が17.9%となっている。

内閣府世論調査と比較すると、女性は「仕事と家庭生活をともに優先したい」で6.7ポイント、男性は「仕事を優先したい」で6.9ポイント低くなっているが、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」は女性2.6ポイント、男性5.7ポイント高くなっている。

前回調査と比較すると、男女とも「仕事と家庭生活をともに優先したい」が3ポイント程度増加しているが、女性は「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」で4.9ポイント、男性は「家庭生活を優先したい」で4.2ポイント減少している。

【現状と希望の比較（今回調査）】

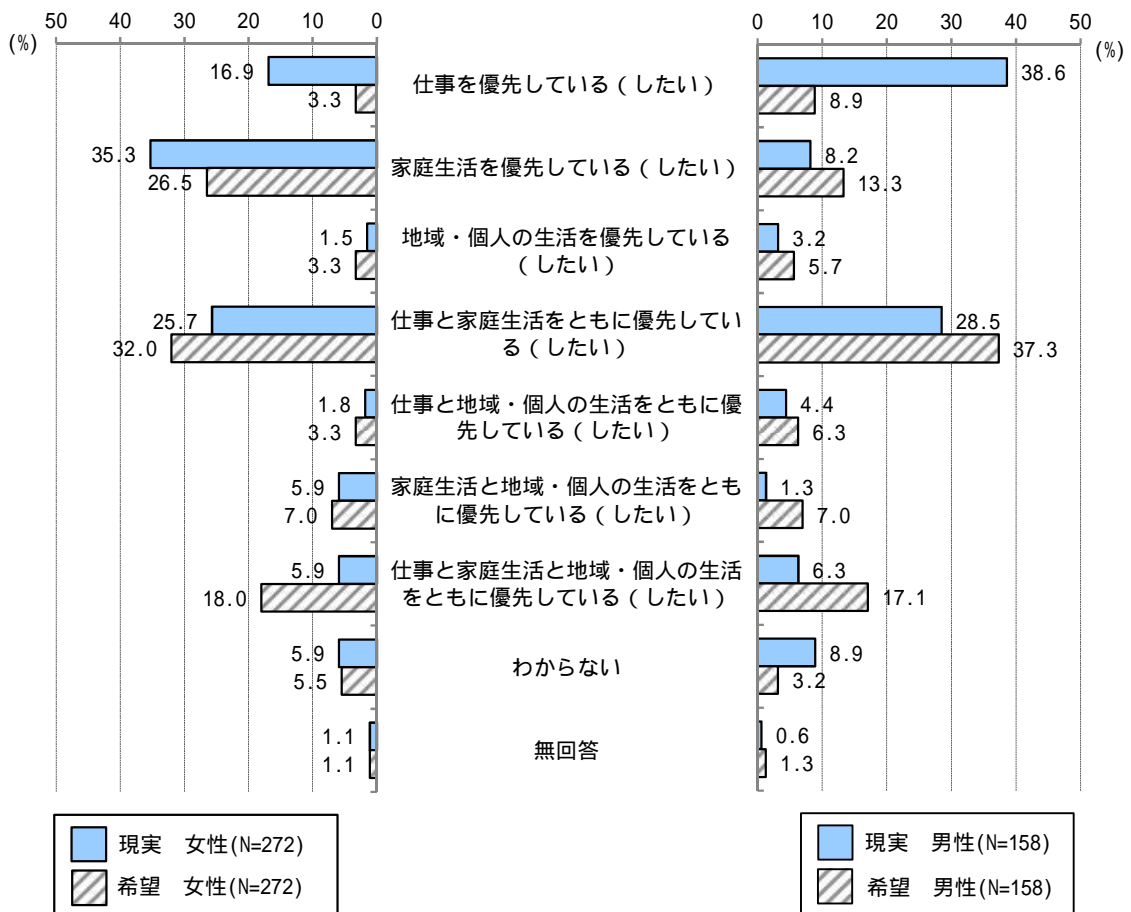
(単位：%)

女性(N=514)	現状 (している)	比較	希望 (したい)
「仕事」を優先	10.1	>	1.9
「家庭生活」を優先	43.6	>	30.0
「地域・個人の生活」を優先	2.1	<	3.7
「仕事」と「家庭生活」とともに優先	19.5	<	23.9
「仕事」と「地域・個人の生活」とともに優先	1.4	<	2.7
「家庭生活」と「地域・個人の生活」とともに優先	10.5	<	13.8
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」とともに優先	4.1	<	14.8

(単位：%)

男性(N=351)	現状 (している)	比較	希望 (したい)
「仕事」を優先	23.1	>	7.4
「家庭生活」を優先	21.9	>	17.9
「地域・個人の生活」を優先	3.7	<	7.1
「仕事」と「家庭生活」とともに優先	25.9	<	28.2
「仕事」と「地域・個人の生活」とともに優先	3.1	<	5.1
「家庭生活」と「地域・個人の生活」とともに優先	7.1	<	13.7
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」とともに優先	5.4	<	12.5

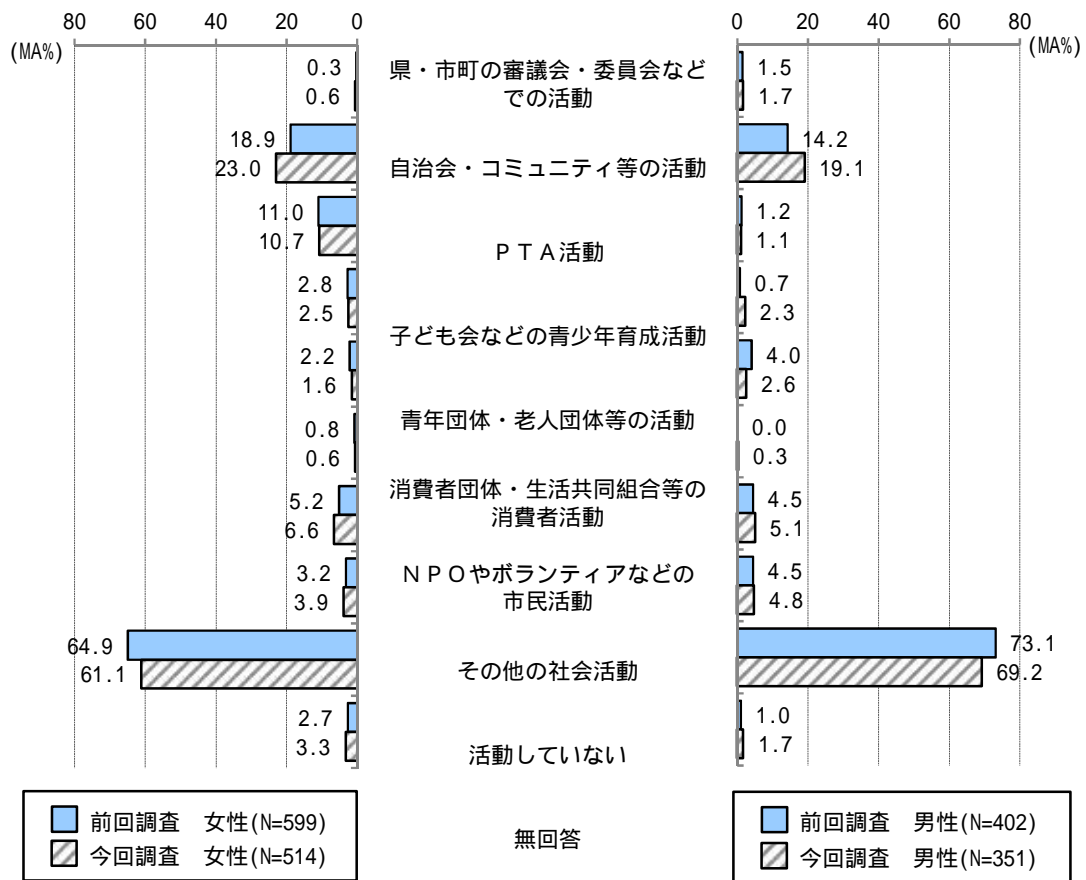
【59歳以下の現状と希望の比較（今回調査）】



59歳以下の希望に最も近い環境は、男女とも「仕事と家庭生活をともに優先したい」が最も多い。一方、現実に最も近い環境は、女性では「家庭生活を優先している」が最も多く、男性では「仕事を優先している」が最も多くなっている。「仕事と家庭生活をともに優先したい」と考えながら、実際には女性は家庭生活を優先し、男性は仕事を優先していることがうかがえる。

(4) 参加している地域活動

問18 あなたは次のような活動をしていますか。(あてはまるものすべてに)



参加している地域活動について、男女とも「活動していない」が6割台で最も多くなっている。参加している活動としては、男女とも「自治会・コミュニティ等の活動」が2割前後で最も多くなっている。「PTA活動」では、女性10.7%に対し、男性は1.1%と低い。

前回調査と比較すると、「自治会・コミュニティ等の活動」が女性4.1ポイント、男性4.9ポイント増加している。「活動していない」では、男女とも4ポイント程度減少している。

(5) 地域活動の状況

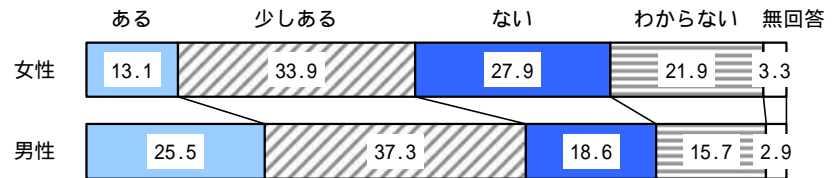
〔問18で「1」～「8」のいずれかに答えた方におたずねします。〕

問19 あなたが参加した活動では、次のようなことがありましたか。

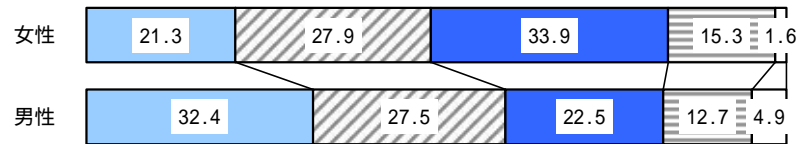
(~ のそれぞれについて、1～4の中であてはまるもの1つに、それ以外の内容については、「その他」に記入してください。)

女性(N=183)
男性(N=102)

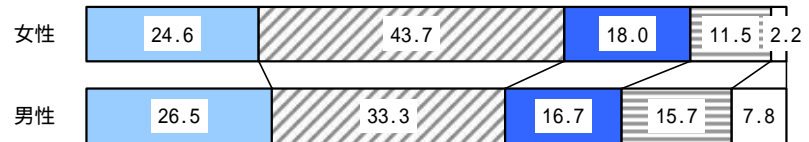
行事やイベントの企画は主に男性が決定している



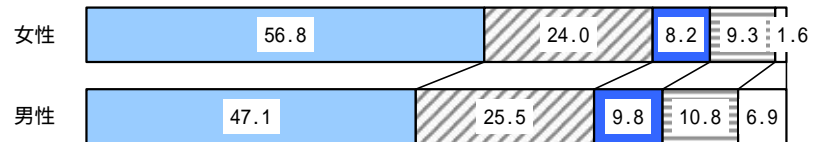
代表者は男性から選ばれる



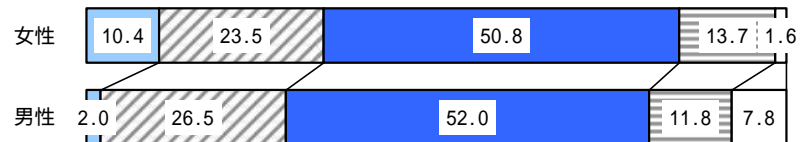
女性は責任のある役を引き受けたがらない



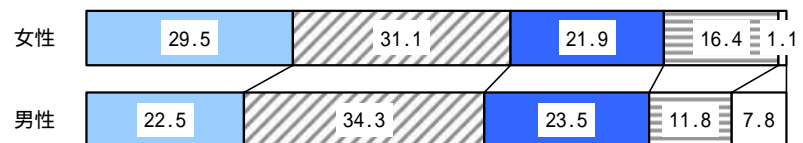
お茶入れや食事の準備などは女性がしている



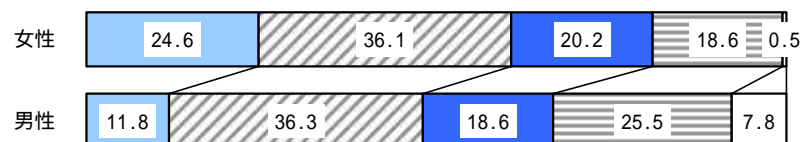
女性は発言しにくい雰囲気がある



名簿上は男性が会員になっているが実際は女性(配偶者)が活動している



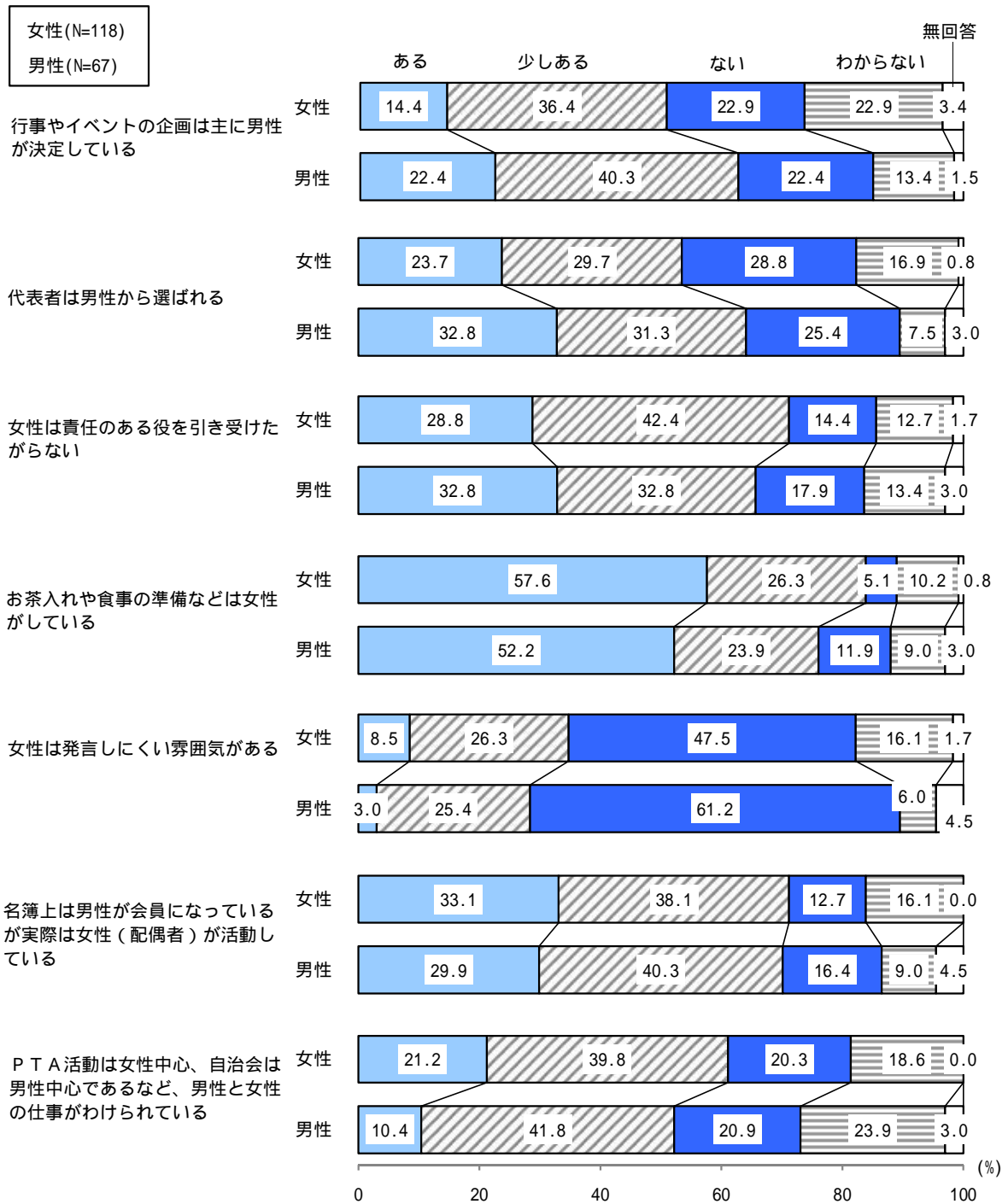
P T A 活動は女性中心、自治会は男性中心であるなど、男性と女性の仕事が分けられている



0 20 40 60 80 100 (%)

何らかの地域活動に参加していると回答した人に、地域活動の状況についてたずねると、男女ともに『行事やイベントの企画は主に男性が決定している』や『女性は責任のある役を引き受けたがらない』、『名簿上は男性が会員になっているが実際は女性（配偶者）が活動している』、『PTA活動は女性中心、自治会は男性中心であるなど、男性と女性の仕事が行われている』は「少しある」が最も多くなっている。また、『行事やイベントの企画は主に男性が決定している』の「ある」が、女性13.1%、男性25.5%と、男性のほうが12.4ポイント高くなっており、『名簿上は男性が会員になっているが実際は女性（配偶者）が活動している』の「ある」は、女性29.5%、男性22.5%で、女性のほうが7.0ポイント高く、『PTA活動は女性中心、自治会は男性中心であるなど、男性と女性の仕事が行われている』の「ある」も、女性24.6%、男性11.8%で、女性のほうが12.8ポイント高い。『代表者は男性から選ばれる』では、女性が「ない」（33.9%）で最も多くなっているが、男性は「ある」（32.4%）が最も多く、女性の「ある」（21.3%）に比べ11.1ポイント高くなっている。『お茶入れや食事の準備などは女性がしている』は男女とも「ある」が最も多く、女性56.8%、男性47.1%で、女性のほうが9.7ポイント高くなっている。『女性は発言しにくい雰囲気がある』は男女とも「ない」が5割台を占めており、「ある」では、女性10.4%、男性2.0%で、女性のほうが8.4ポイント高くなっている。

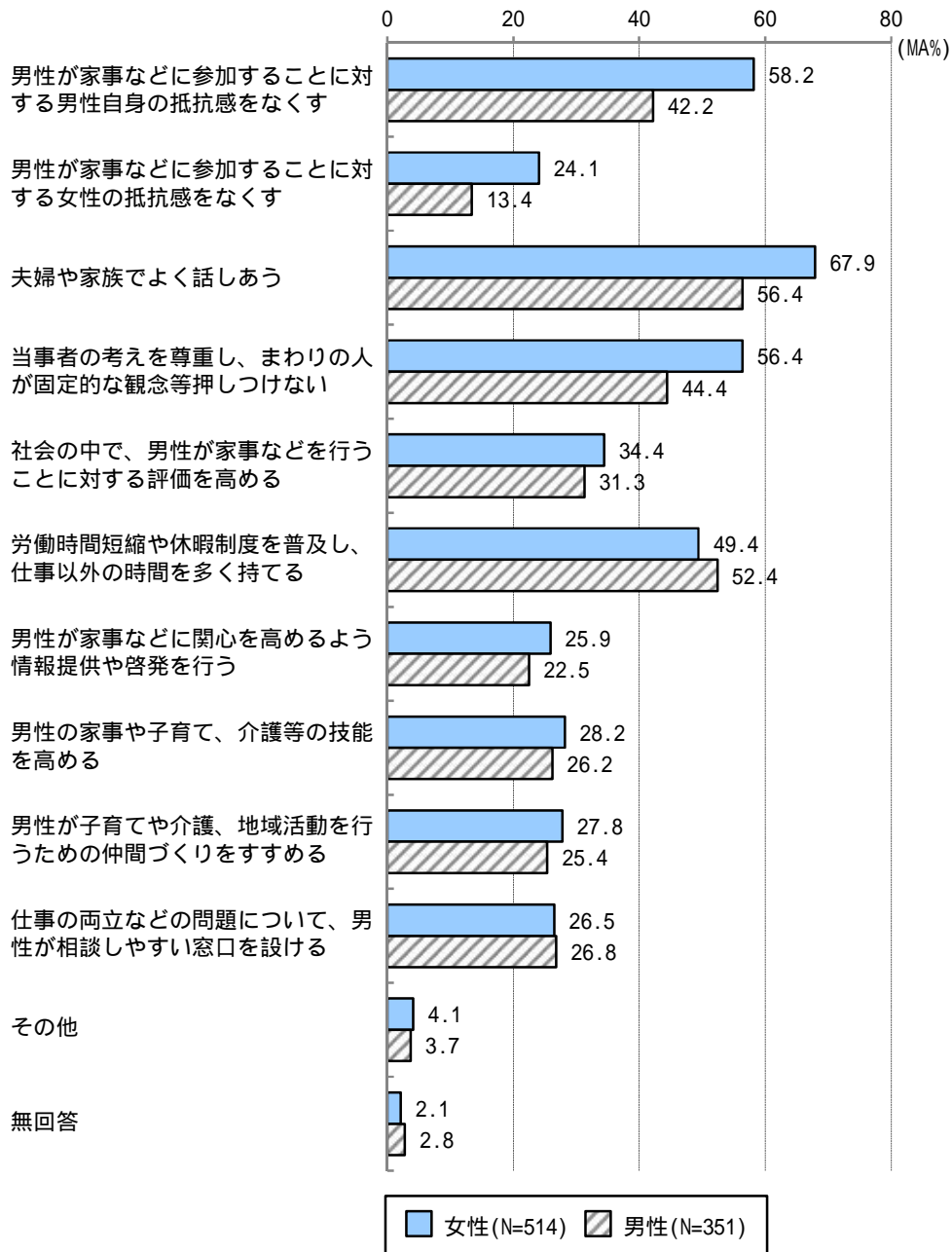
【地域活動の状況（「自治会・コミュニティ等の活動」に参加している人）】



自治会・コミュニティ等の活動に参加している人では、男女ともに『行事やイベントの企画は主に男性が決定している』や『名簿上は男性が会員になっているが実際は女性（配偶者）が活動している』、『PTA活動は女性中心、自治会は男性中心であるなど、男性と女性の仕事がわけている』では、「少しある」が最も多くなっている。『代表者は男性から選ばれる』は女性が「少しある」、男性が「ある」で最も多く、『女性は責任のある役を引き受けたがらない』は女性が「少しある」で最も多く、男性は「ある」と「少しある」が同率で最も多くなっている。『お茶入れや食事の準備などは女性がしている』は男女とも「ある」が最も多くなっており、『女性は発言しにくい雰囲気がある』では男女とも「ない」が最も多い。

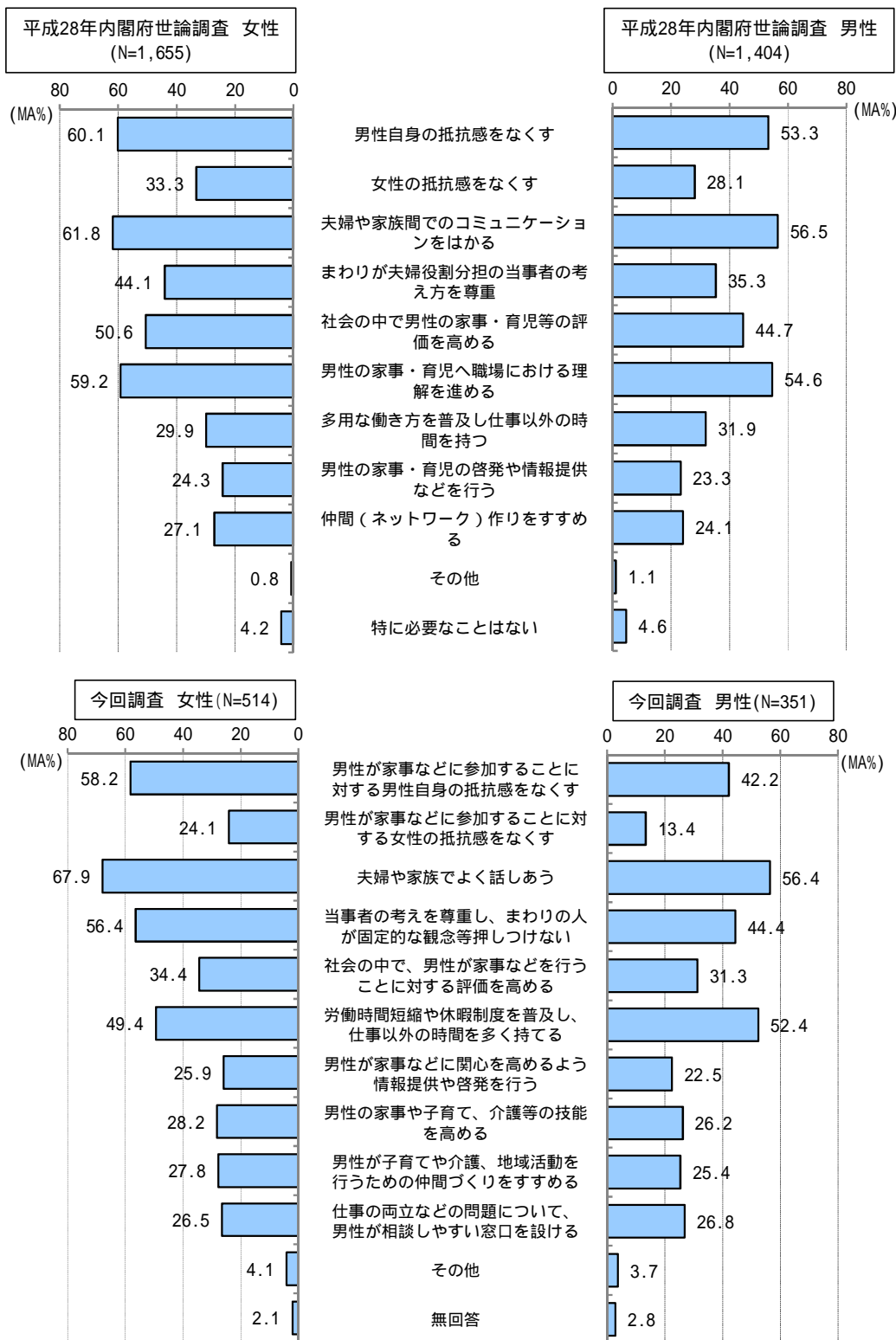
(6) 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと

問20 あなたは、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに)



男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なことについて、男女とも「夫婦や家族でよく話しあう」が最も多く、これに次いで女性は「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」、男性は「労働時間短縮や休暇制度を普及し、仕事以外の時間を多く持てる」が続いている。また、女性は男性に比べて「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」や「男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす」、「夫婦や家族でよく話しあう」、「当事者の考えを尊重し、まわりの人が固定的な観念等押しつけない」で10ポイント以上高くなっている。

【内閣府世論調査との比較】

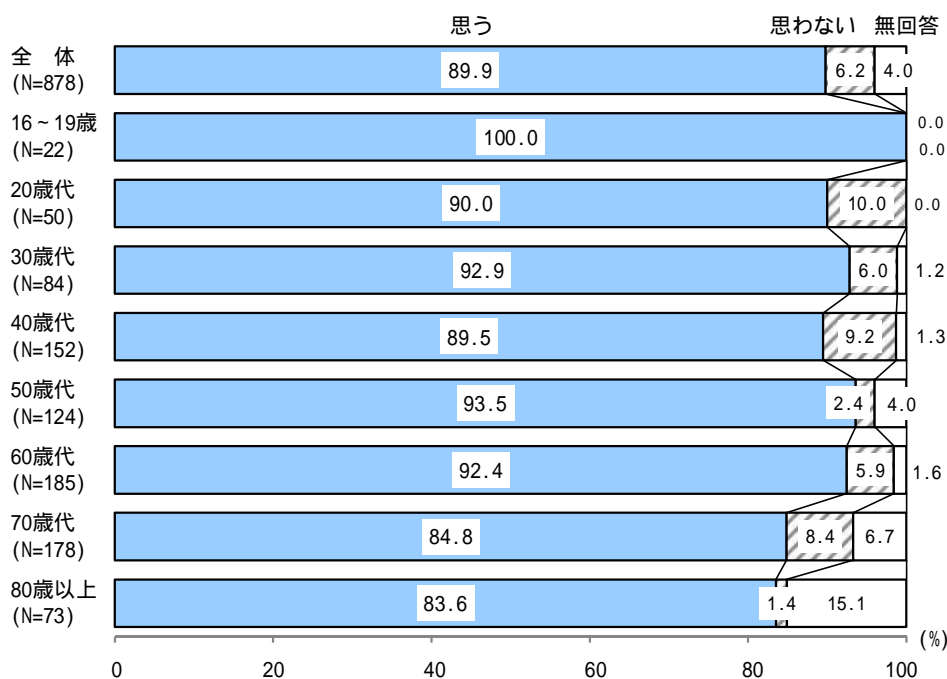


内閣府世論調査の「社会の中で男性の家事・育児等の評価を高める」は男女とも4～5割台となっているが、本市の今回調査で「社会の中で、男性が家事などを行うことに対する評価を高める」は男女とも3割台と低くなっている。また、内閣府世論調査の「多様な働き方を普及し仕事以外の時間を持つ」は男女とも3割前後に対し、本市の今回調査で「労働時間短縮や休暇制度を普及し、仕事以外の時間を多く持てる」が5割前後と高くなっている。

8. 性と人権について

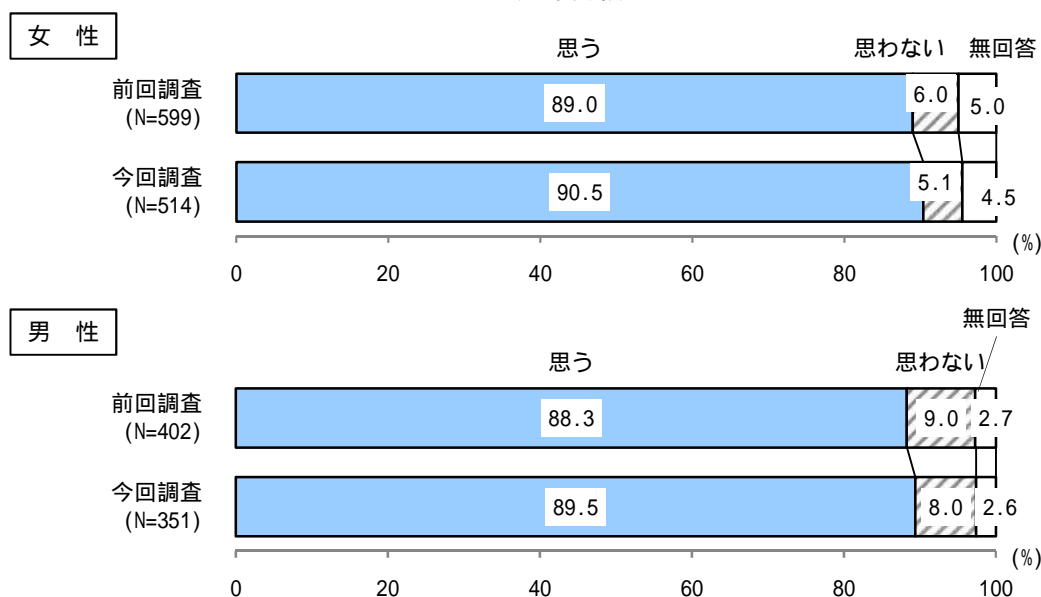
(1) セクハラやDVは男女互いの性に対する人権侵害と思うか

問21 セクシュアル・ハラスメント(セクハラ、性的嫌がらせ)やドメスティック・バイオレンス(DV)は、男女互いの性に対する人権侵害だと思いますか。
(どちらか1つに)



セクハラやDVは男女互いの性に対する人権侵害と思うかについて、「思う」人が89.9%を占めている。年代別でみると、「思う」人は、70歳代以降は84%前後を占めているが、他の年代に比べてやや低くなっている。

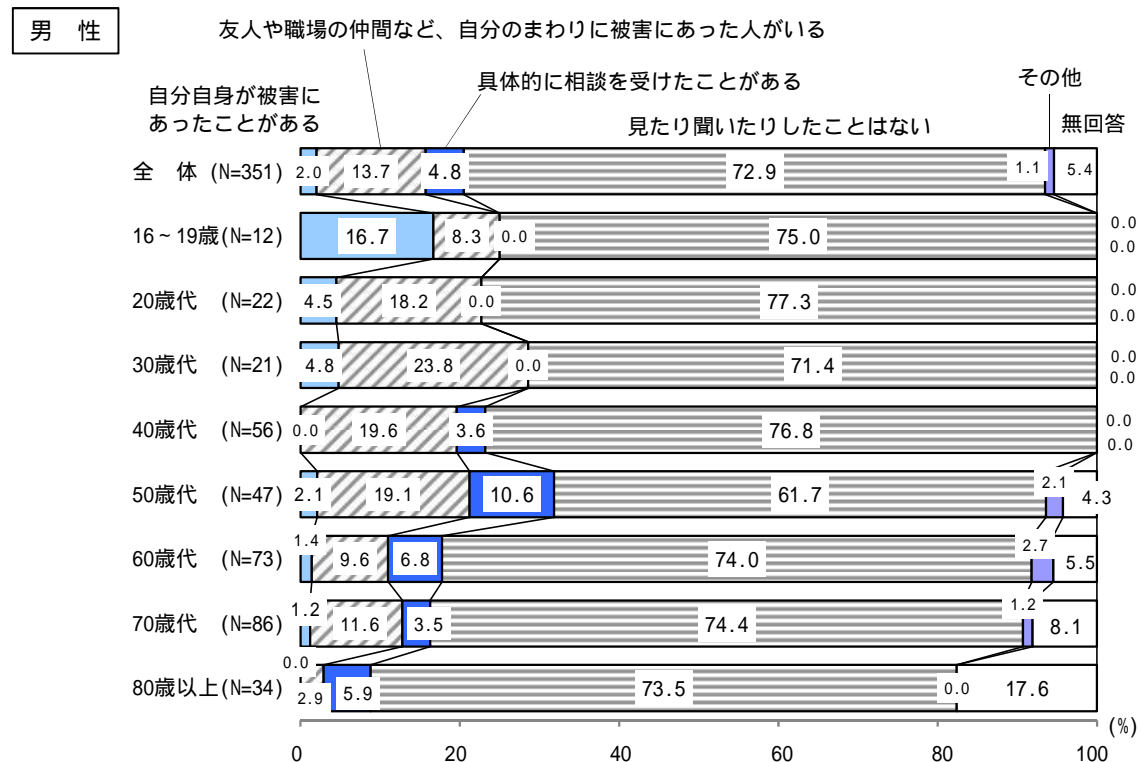
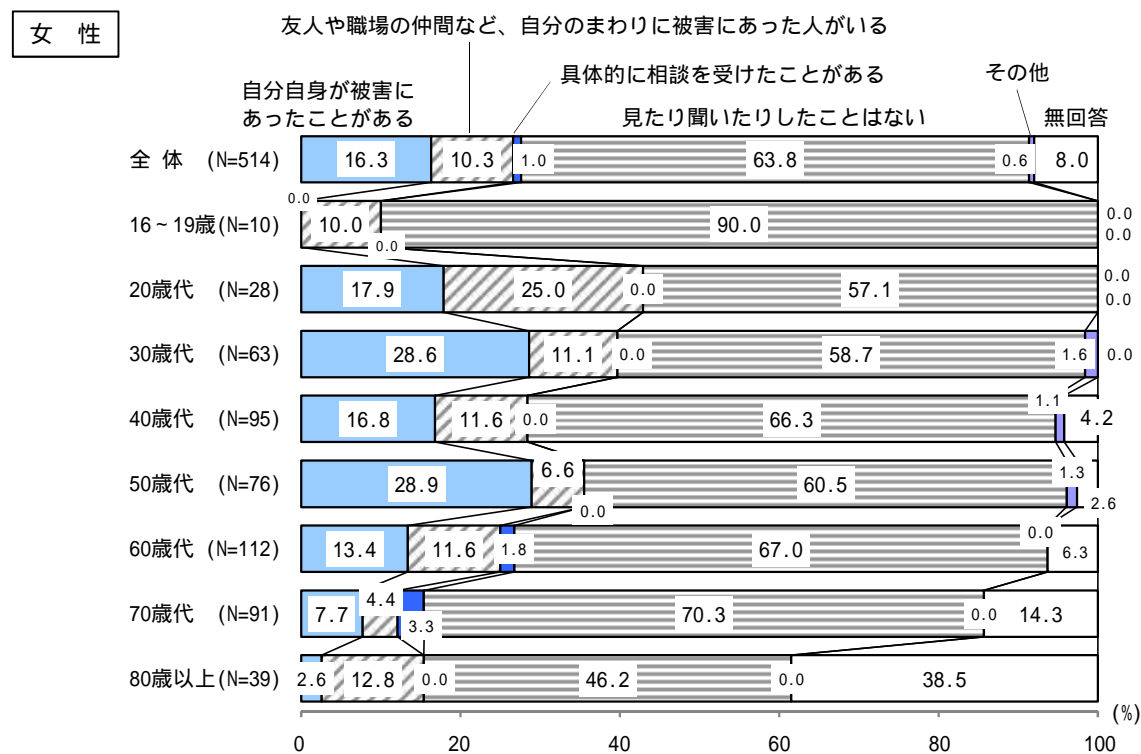
【経年比較】



前回調査と比較すると、男女ともに、大きな変化はみられないが、「思う」人が僅かに増加している。

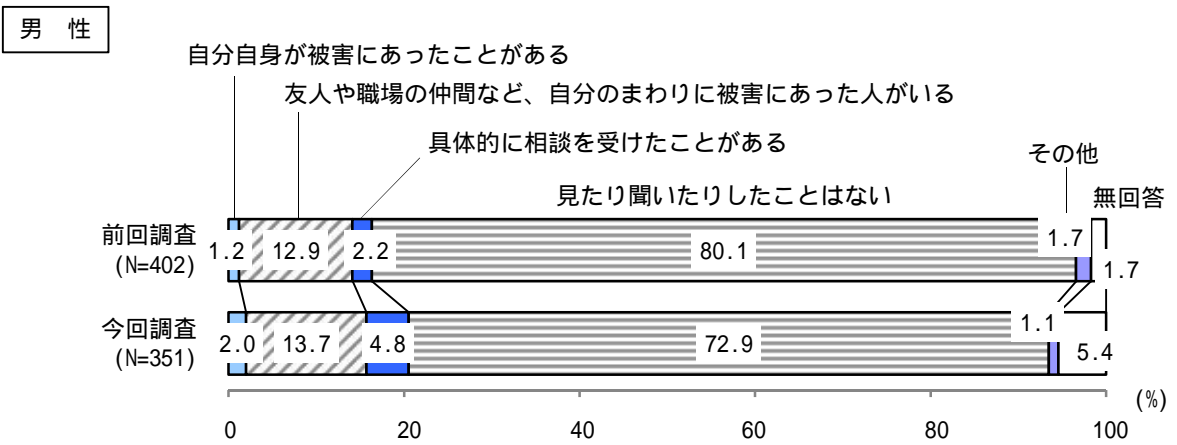
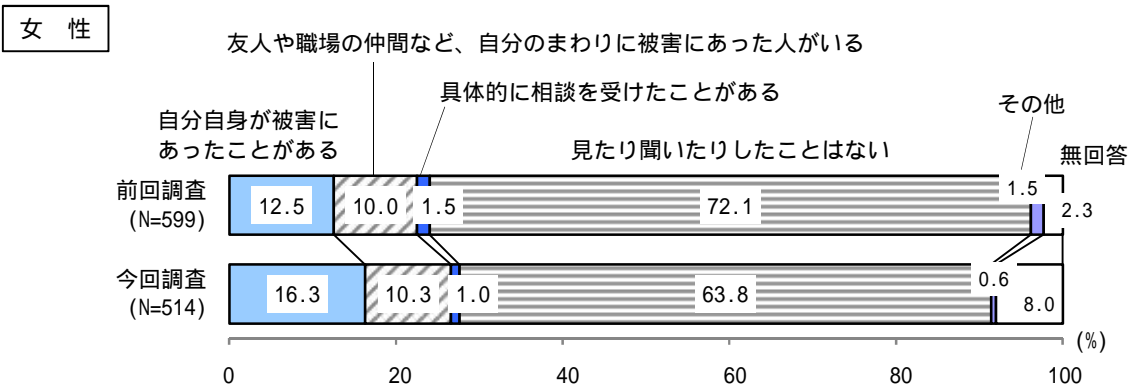
(2) 自分やまわりの人がセクハラ被害にあったこと

問22 あなたやあなたの方、学校・職場・地域活動等でセクシュアル・ハラスメントの被害にあわれたことがありますか。(あてはまるもの1つに)



自分やまわりの人がセクハラ被害にあったことについて、男女とも「見たり聞いたりしたことはない」が最も多くなっている。一方、「自分自身が被害にあったことがある」は、女性16.3%、男性2.0%となっている。

【経年比較】

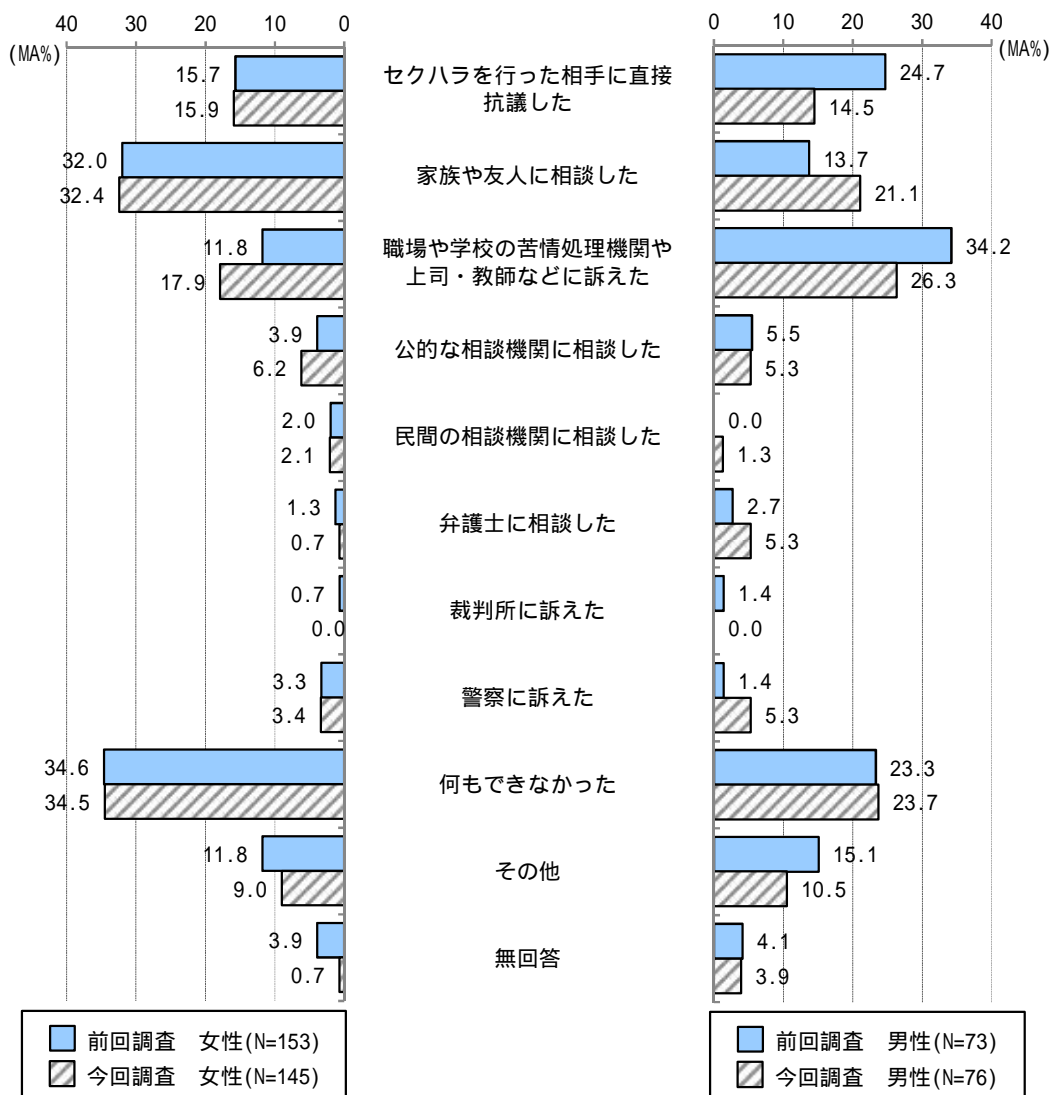


前回調査と比較すると、女性では「自分自身が被害にあったことがある」が3.8ポイント増加している。男性では「具体的に相談を受けたことがある」が2.6ポイント増加している。

(3) セクハラ被害にあったときの対応

〔問22で「1」「2」「3」「5」と答えた方におたずねします。〕

問23 あなたやあなたのまわりの方がセクシュアル・ハラスメントの被害にあわれたとき、あなたはどのような対応をしましたか。(あてはまるものすべてに)



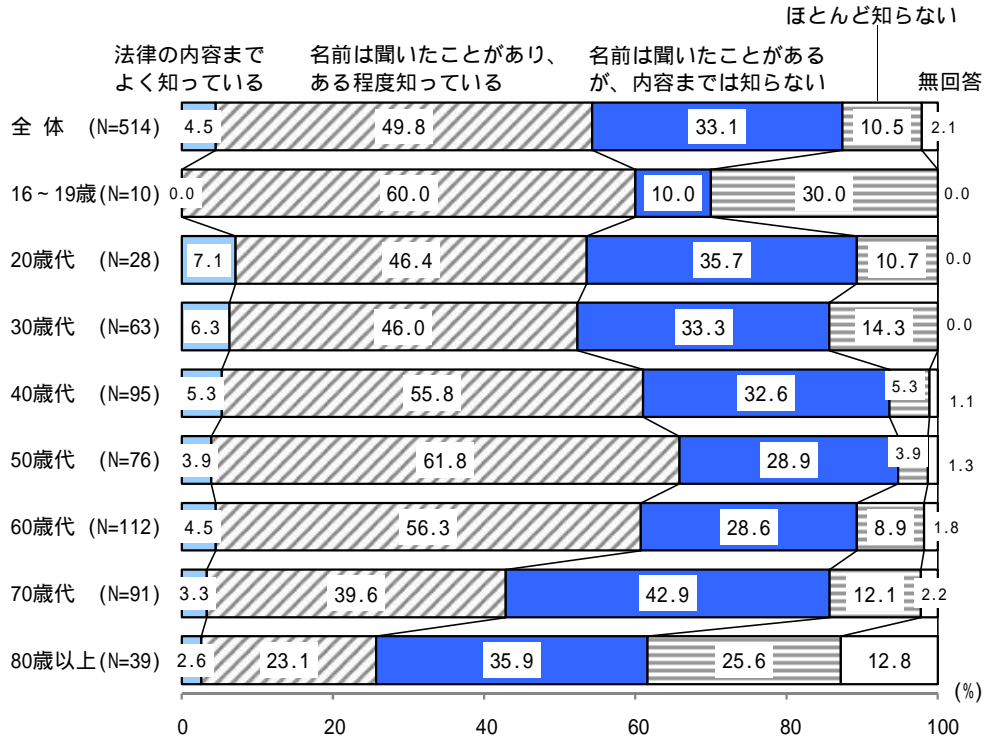
自身やまわりの人にセクハラ被害の経験があると回答した人に、そのときの対応をたずねると、女性は「何もできなかった」が34.5%で最も多く、次いで「家族や友人に相談した」が32.4%となっている。男性は「職場や学校の苦情処理機関や上司・教師などに訴えた」が26.3%で最も多く、次いで「何もできなかった」が23.7%となっている。なお、「家族や友人に相談した」は女性が男性(21.1%)より11.3ポイント高く、「職場や学校の苦情処理機関や上司・教師などに訴えた」は男性が女性(17.9%)より8.4ポイント高くなっている。

前回調査と比較すると、「職場や学校の苦情処理機関や上司・教師などに訴えた」は、女性で6.1ポイント増加しているが、男性は7.9ポイント減少している。また、男性は「セクハラを行った相手に直接抗議した」が10.2ポイント減少し、「家族や友人に相談した」は7.4ポイント増加している。

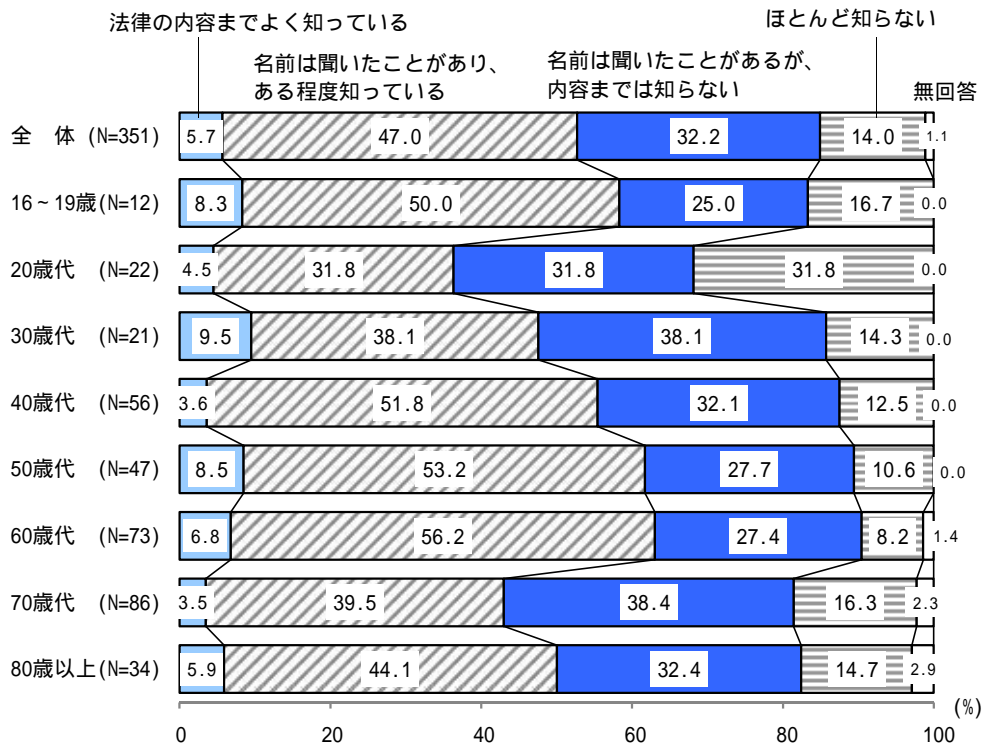
(4) D V 防止法の認知度

問24 あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(通称：D V 防止法)をご存知ですか。(あてはまるもの1つに)

女性

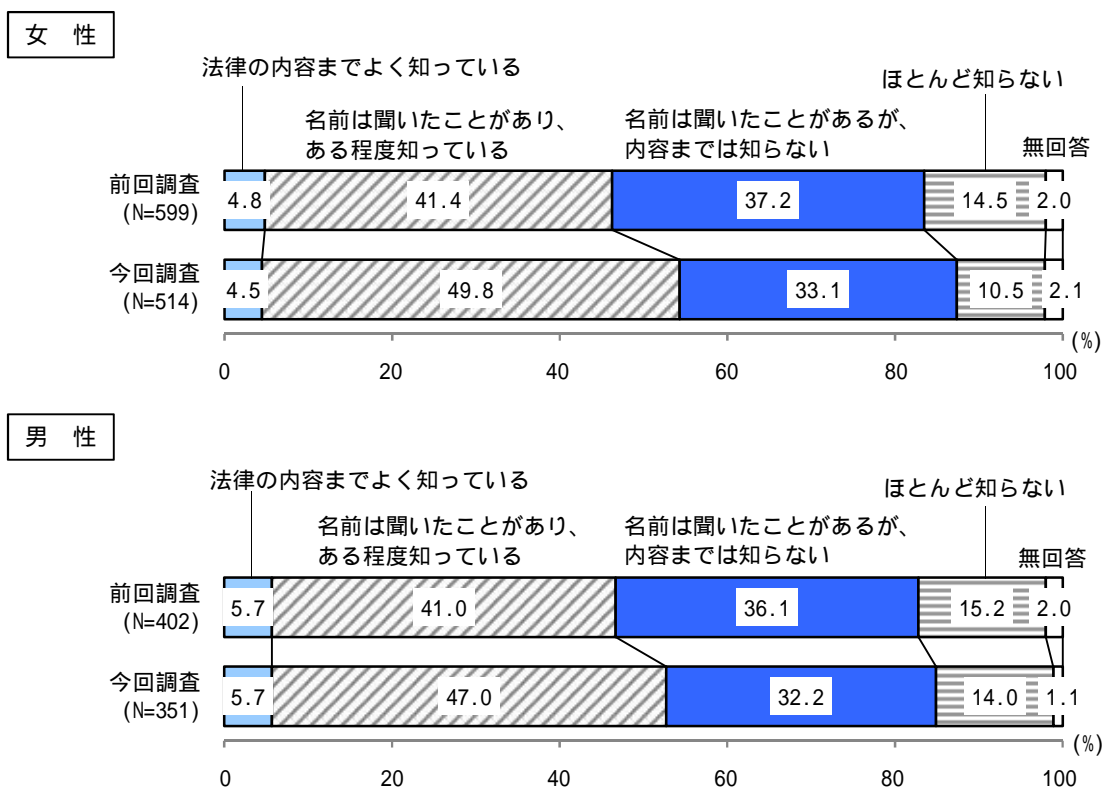


男性



DV防止法の認知度について、男女ともに、「名前は聞いたことがあり、ある程度知っている」が約半数を占めており、次いで「名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない」は3割台となっている。「法律の内容までよく知っている」では、女性4.5%、男性5.7%となっている。年代別でみると、女性は60歳代までは「名前は聞いたことがあり、ある程度知っている」が最も多くなっているが、70歳以降になると「名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない」が最も多くなっており、80歳以上になると「ほとんど知らない」が25.6%となっている。一方、男性は40歳以降で「名前は聞いたことがあり、ある程度知っている」が最も多くなっており、40～60歳代で5割台を占めている。

【経年比較】

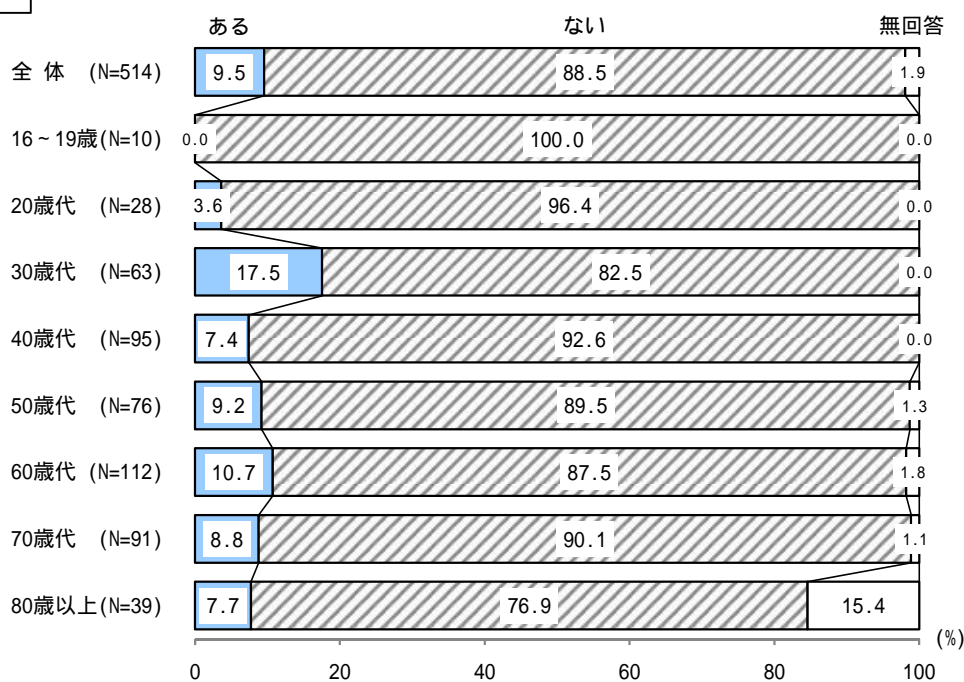


前回調査と比較すると、「法律の内容までよく知っている」は男女とも大きな変化はみられないが、「名前は聞いたことがあり、ある程度知っている」は女性で8.4ポイント、男性で6.0ポイント増加している。

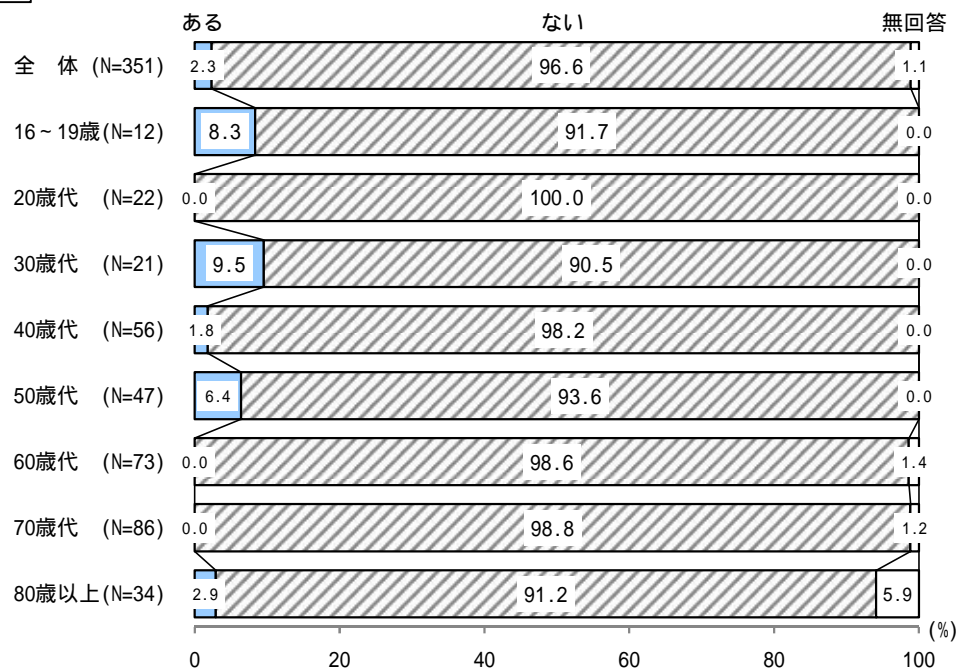
(5) D V被害の経験有無

問25 あなたはD V被害にあわれたことがありますか。(どちらか1つに)

女性

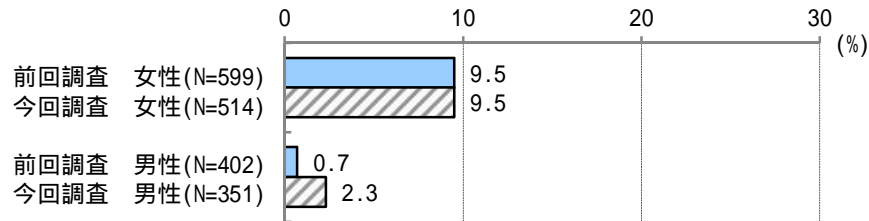


男性



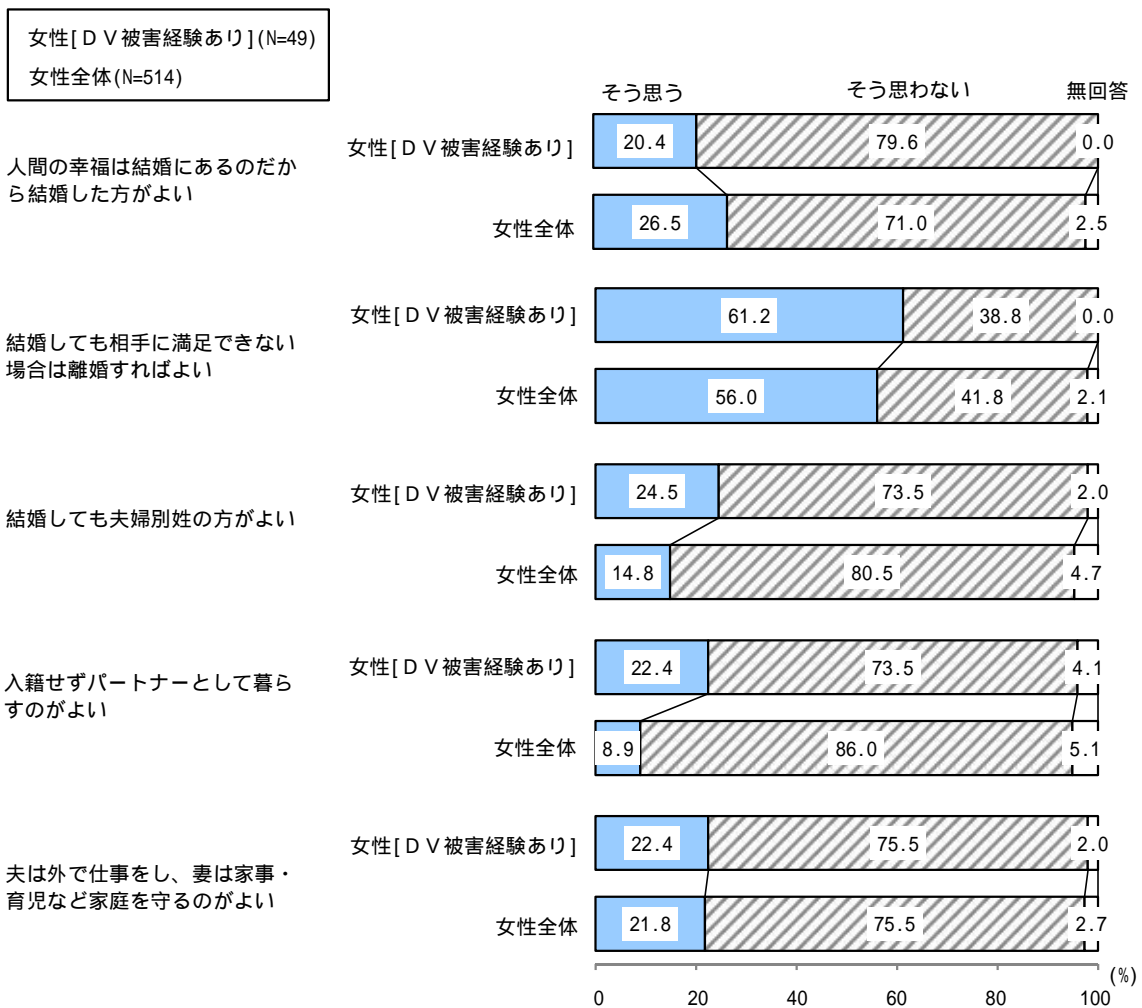
D V被害の経験有無について、「ある」人は、女性で9.5%、男性で2.3%となっている。年代別でみると、女性は30歳代が17.5%と他の年代に比べ高くなっており、40歳以降では1割前後を占めている。男性では30歳代が9.5%、16~19歳が8.3%、50歳代が6.4%となっている。

【DV被害の経験がある割合（経年比較）】



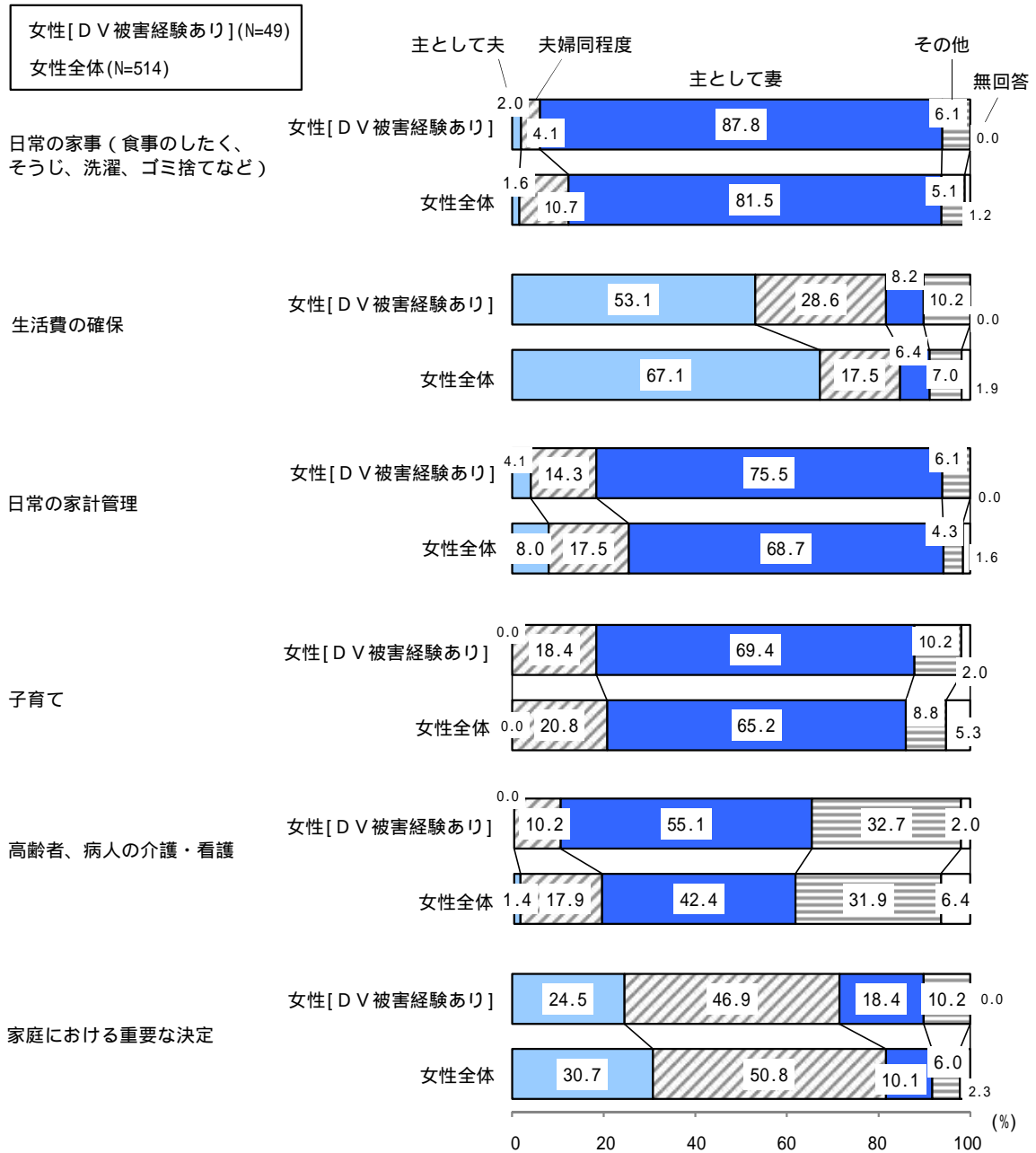
DV被害の経験がある人を、前回調査と比較すると、女性は横ばいとなっているが、男性は1.6ポイント増加している。

【結婚・離婚・家庭の考え方（DV被害の経験がある女性）】



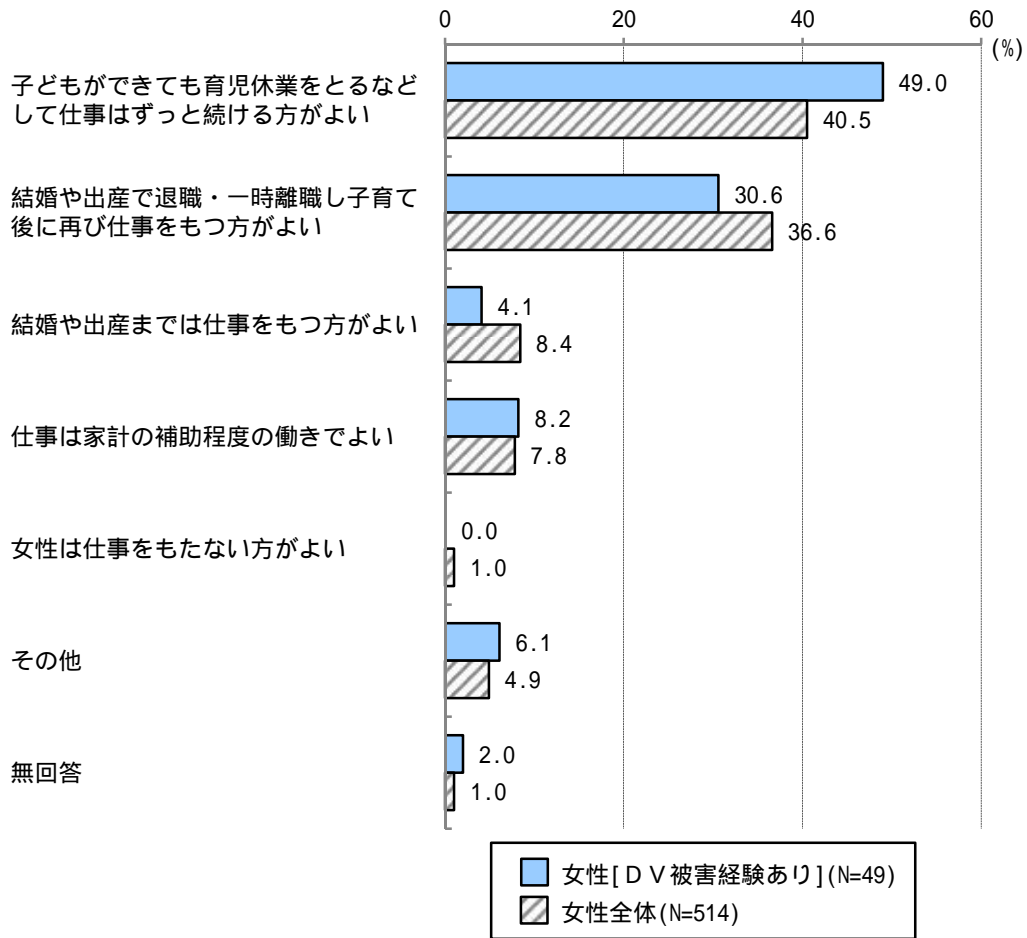
DV被害の経験がある女性に、結婚・離婚・家庭の考え方をたずねると、女性全体と比べて『人間の幸福は結婚にあるのだから結婚した方がよい』と思う人は6.1ポイント低くなっており、『結婚しても相手に満足できない場合は離婚すればよい』と思う人は5.2ポイント、『結婚しても夫婦別姓の方がよい』と思う人は9.7ポイント、『入籍せずパートナーとして暮らすのがよい』と思う人は13.5ポイント高くなっている。『夫は外で仕事をし、妻は家事・育児など家庭を守るのがよい』では、「そう思う」「そう思わない」とも大きな差はみられない。

【家庭生活の担当（DV被害の経験がある女性）】



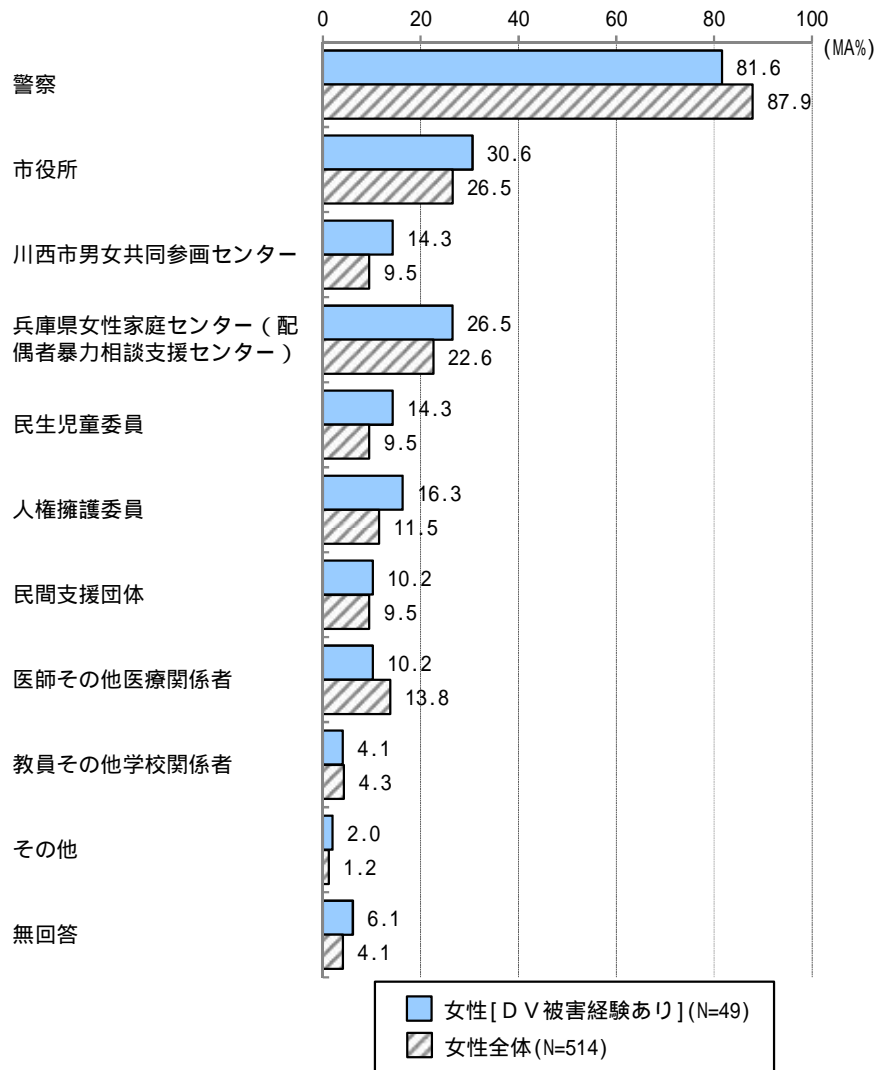
DV被害の経験がある女性に、家庭生活の担当をたずねると、「主として妻」の割合は、いずれの項目も女性全体と比べて高くなっており、なかでも『高齢者、病人の介護・看護』は12.7ポイント高く、『家庭における重要な決定』は8.3ポイント高くなっている。『生活費の確保』は、女性全体と比べると「主として夫」は14.0ポイント低く、「夫婦同程度」が11.1ポイント高くなっている。

【女性が仕事をする事についての意見（DV被害の経験がある女性）】



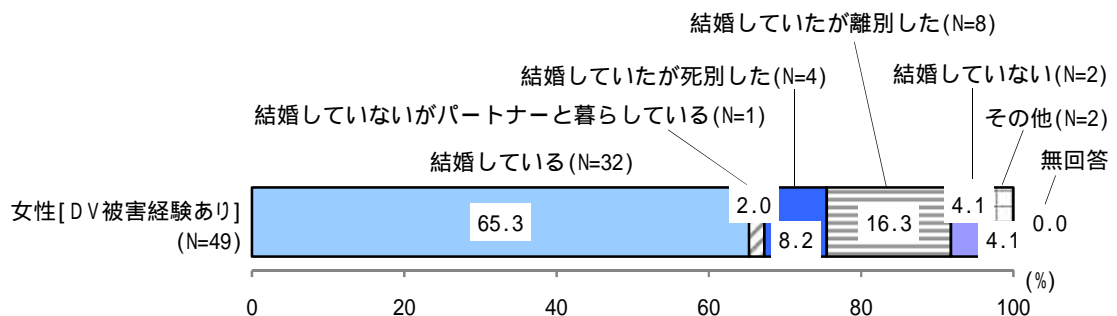
DV被害の経験がある女性に、女性が仕事をする事についての意見をたずねると、女性全体と比べて「子どもができて育児休業をとるなどして仕事はずっと続ける方がよい」が8.5ポイント高くなっており、「結婚や出産で退職・一時離職し子育て後に再び仕事をもつ方がよい」は6.0ポイント、「結婚や出産までは仕事をもつ方がよい」は4.3ポイント低くなっている。

【DV被害の相談先で知っている機関（DV被害の経験がある女性）】



DV被害の経験がある女性に、DV被害の相談先で知っている機関をたずねると、女性全体に比べ、「川西市男女共同参画センター」や「民生児童委員」、「人権擁護委員」はいずれも4.8ポイント、「兵庫県女性家庭センター（配偶者暴力相談支援センター）」は3.9ポイント高くなっている。

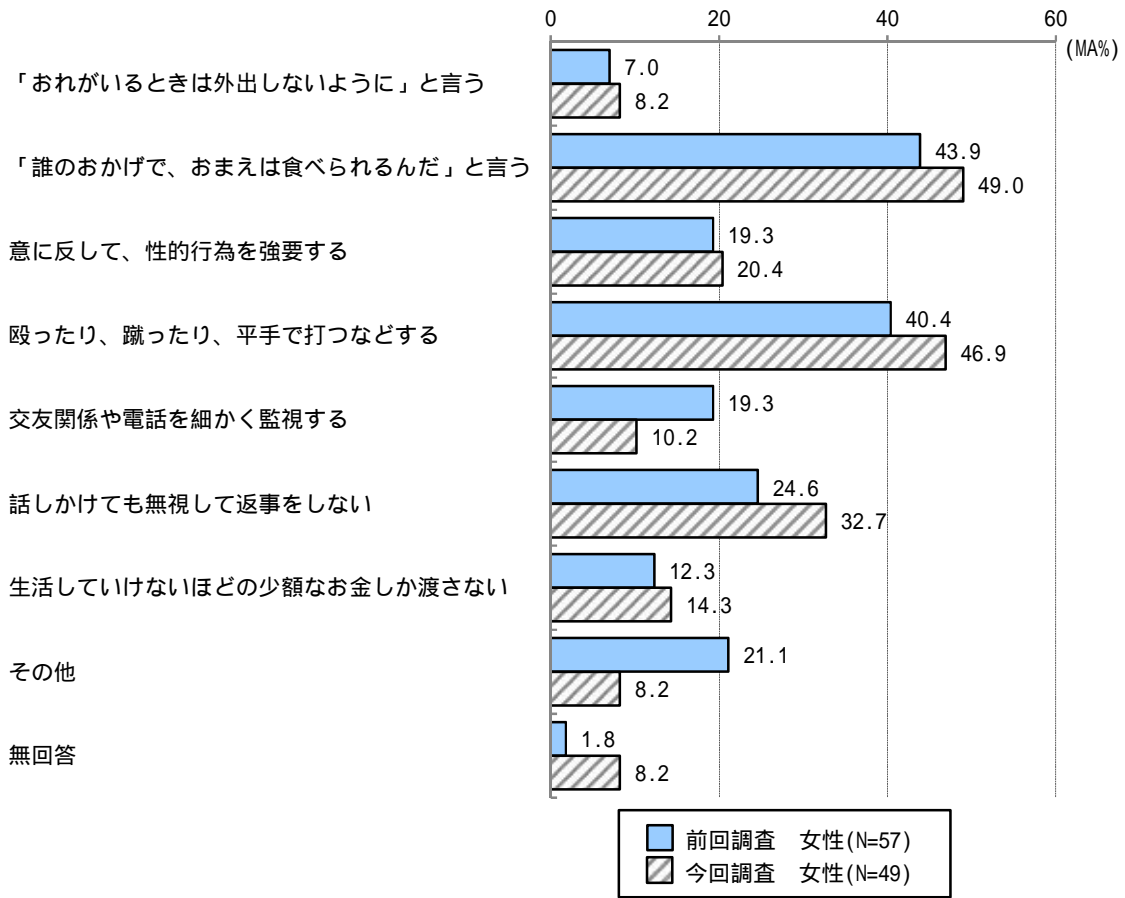
【結婚の有無（DV被害の経験がある女性）】



DV被害の経験がある女性に、結婚の有無をたずねると、「結婚している」が65.3%で最も多く、次いで「結婚していたが離婚した」が16.3%となっている。

(6) 受けたDVの内容

〔問25で「1.ある」と答えた方におたずねします。〕
 問26 あなたが受けたDVはどのような内容ですか。(あてはまるものすべてに)



	「誰のおかげで、おまえは食べられるんだ」と言う	意に反して、性的行為を強要する	殴ったり、蹴ったり、平手で打つなどする	交友関係や電話を細かく監視する	話しかけても無視して返事をしない	生活していけないほどの少額なお金しか渡さない	その他
今回調査 男性(N=8)	3件	1件	4件	2件	5件	1件	1件

回答のみ表示

DV被害の経験がある人に、受けたDVの内容をたずねると、女性では「誰のおかげで、おまえは食べられるんだ」と言う」が49.0%で最も多く、次いで「殴ったり、蹴ったり、平手で打つなどする」が46.9%、「話しかけても無視して返事をしない」が32.7%となっている。男性では「話しかけても無視して返事をしない」が最も多くなっている。

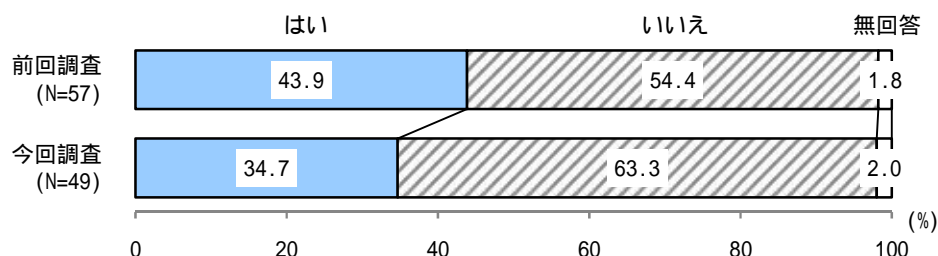
女性のDV被害の内容を、前回調査と比較すると、「話しかけても無視して返事をしない」が8.1ポイント、「殴ったり、蹴ったり、平手で打つなどする」が6.5ポイント、「誰のおかげで、おまえは食べられるんだ」と言う」が5.1ポイント増加しており、「交友関係や電話を細かく監視する」は9.1ポイント減少している。

(7) D Vを受けたときの相談有無

〔問25で「 1 . ある」と答えた方におたずねします。〕

問27 あなたがD Vを受けたとき、どこかに相談しましたか。(どちらか1つに)

女性



	はい	いいえ
今回調査 男性(N=8)	2件	5件

D V被害の経験がある人に、D Vを受けたとき、どこかに相談したかたずねると、女性では、「はい」が34.7%に対し、「いいえ」は63.3%となっている。男性は「はい」が2件、「いいえ」は5件で、男女ともに相談していない人のほうが多い。

女性の相談有無を、前回調査と比較すると、「はい」は9.2ポイント減少している。

(8) 相談先

〔問27で「 1 . はい」と答えた方におたずねします。〕

問28 どこに相談しましたか。(あてはまるものすべてに)

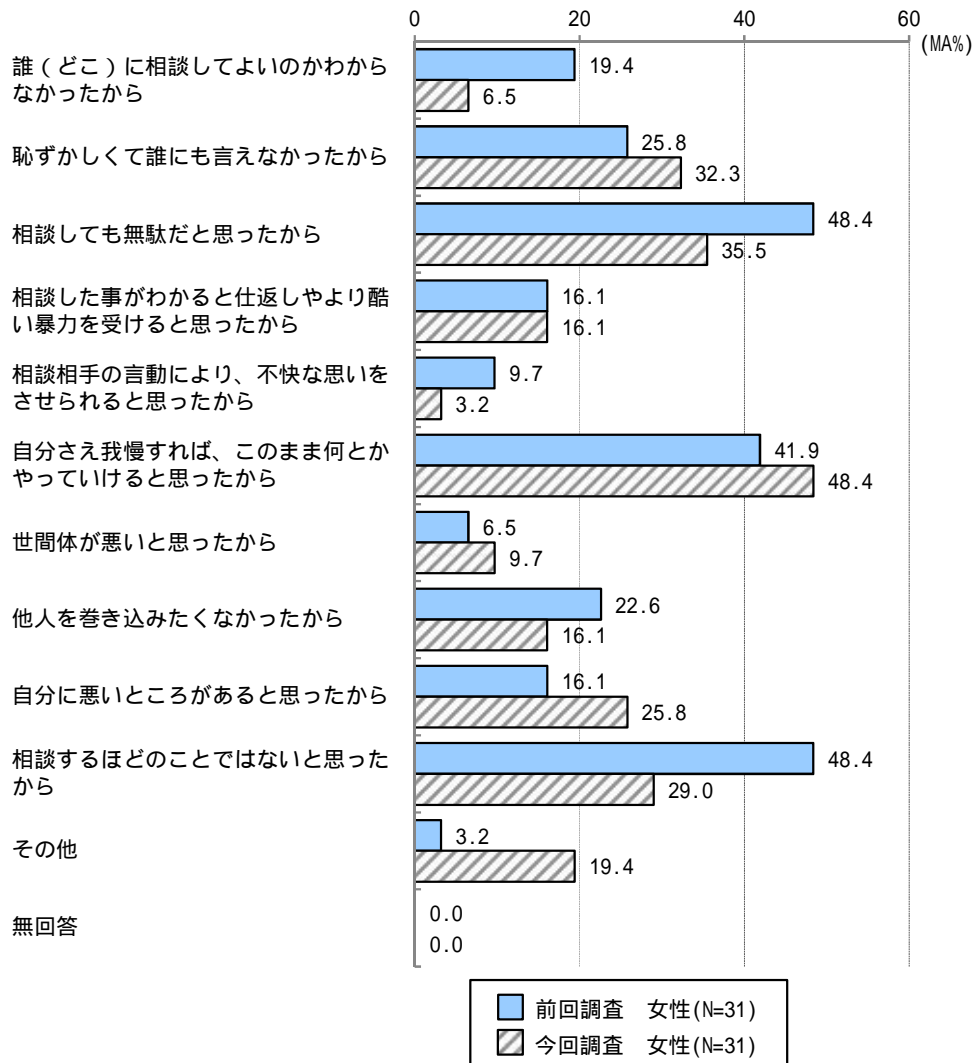
	警察	公的機関	家族・親戚	友人・知人	その他
今回調査 女性(N=17)	4件	2件	13件	7件	1件
今回調査 男性(N=2)	1件	-	-	1件	-

D V被害を受けて相談をした人に、相談先をたずねると、女性は「家族・親戚」が13件で最も多く、次いで「友人・知人」が7件、「警察」が4件となっており、「公的機関」は2件となっている。男性は「警察」と「友人・知人」に各1件となっている。

(9) 相談しなかった理由

〔問27で「2.いいえ」と答えた方におたずねします。〕

問29 相談しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに)



	相談しても無駄だと思ったから	相談した事がわかると仕返しやより酷い暴力を受けると思ったから	自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていけると思ったから	世間体が悪いと思ったから	他人を巻き込みたくなかったから	自分に悪いところがあると思ったから	相談するほどのことではないと思ったから
今回調査 男性(N=5)	4件	3件	1件	2件	1件	2件	2件

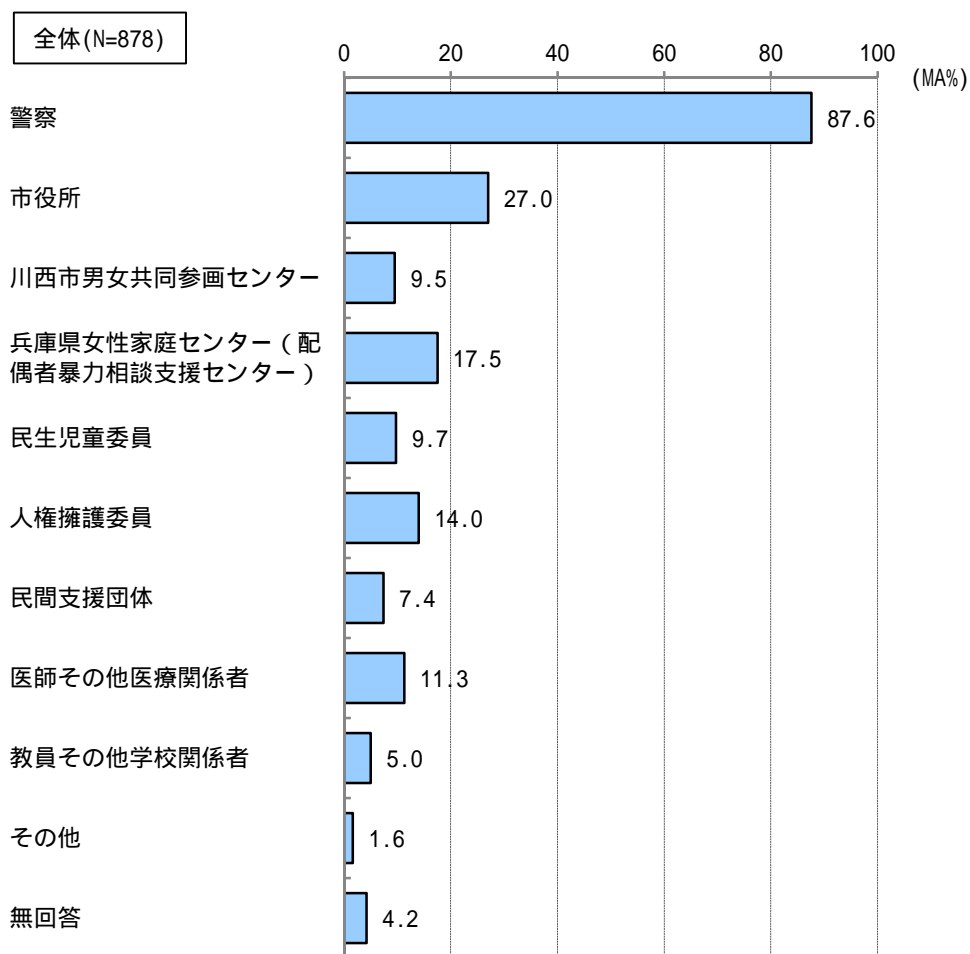
回答のみ表示

DV被害を受けて相談をしなかった人に、その理由をたずねると、女性では、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていけると思ったから」が48.4%で最も多く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」が35.5%、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が32.3%となっている。男性は「相談しても無駄だと思ったから」が4件で最も多くなっている。

女性が相談しなかった理由を、前回調査と比較すると、「誰(どこ)に相談してよいかわからなかったから」と「相談しても無駄だと思ったから」はともに12.9ポイント減少しており、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」と「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていけると思ったから」がともに6.5ポイント増加している。

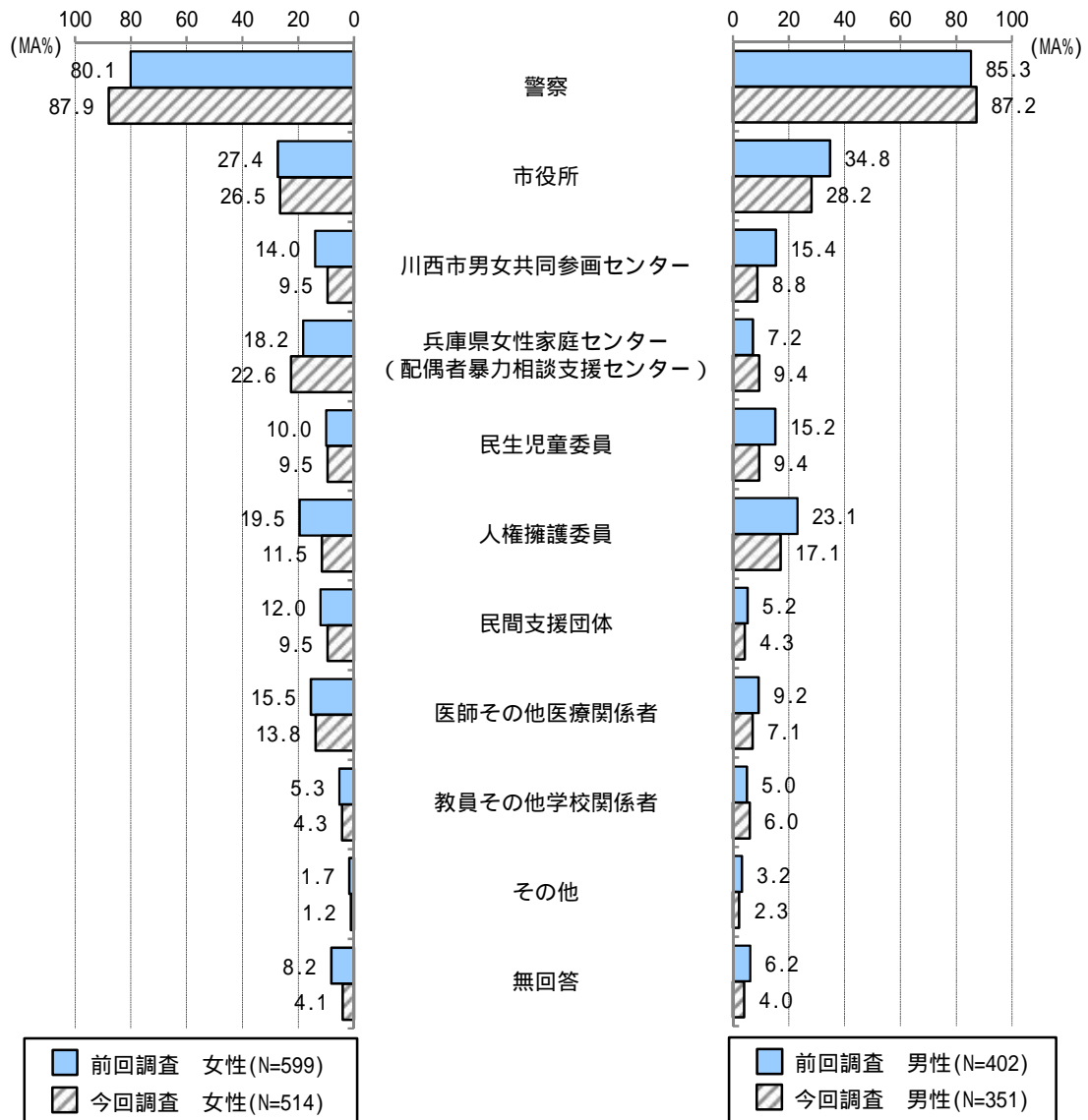
(10) DV被害の相談先で知っている機関

問30 DV被害を受けたときに相談できる機関や関係者のうち、あなたが知っているものはどれですか。(あてはまるものすべてに)



DV被害の相談先で知っている機関については、「警察」が87.6%で最も多く、次いで「市役所」が27.0%、「兵庫県女性家庭センター(配偶者暴力相談支援センター)」が17.5%となっている。

【経年変化】

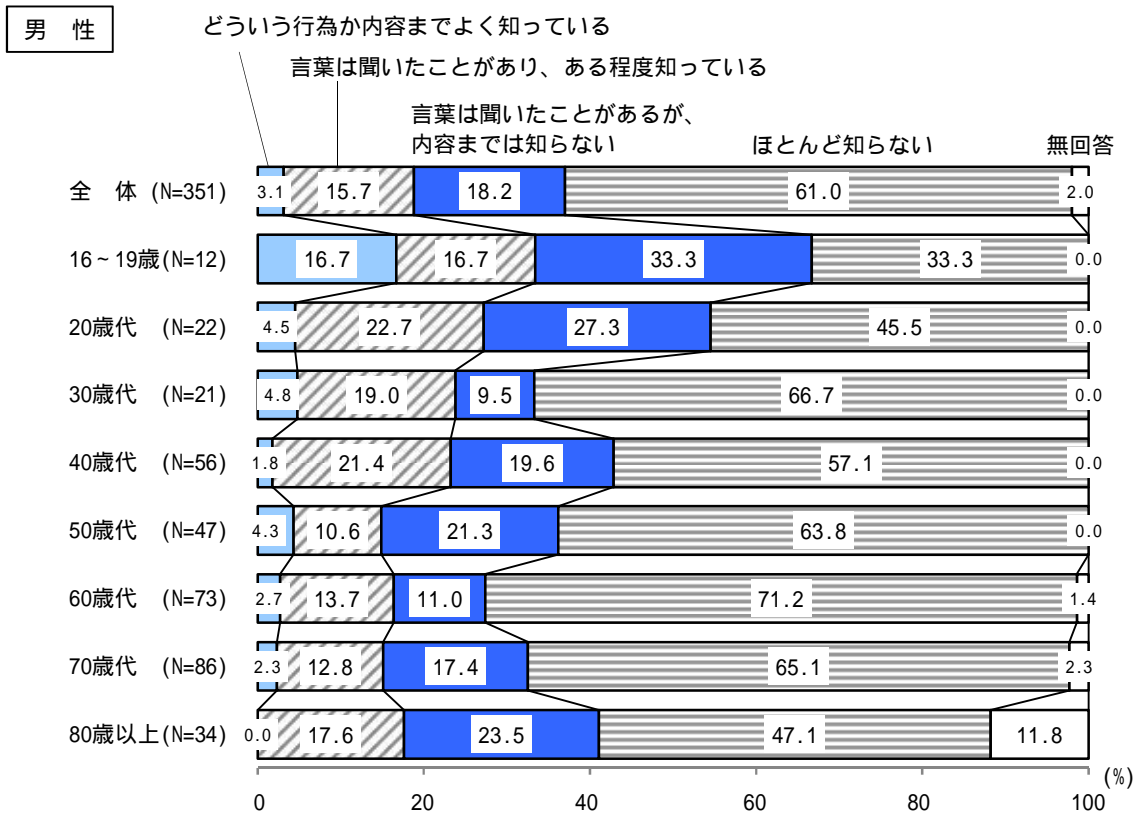
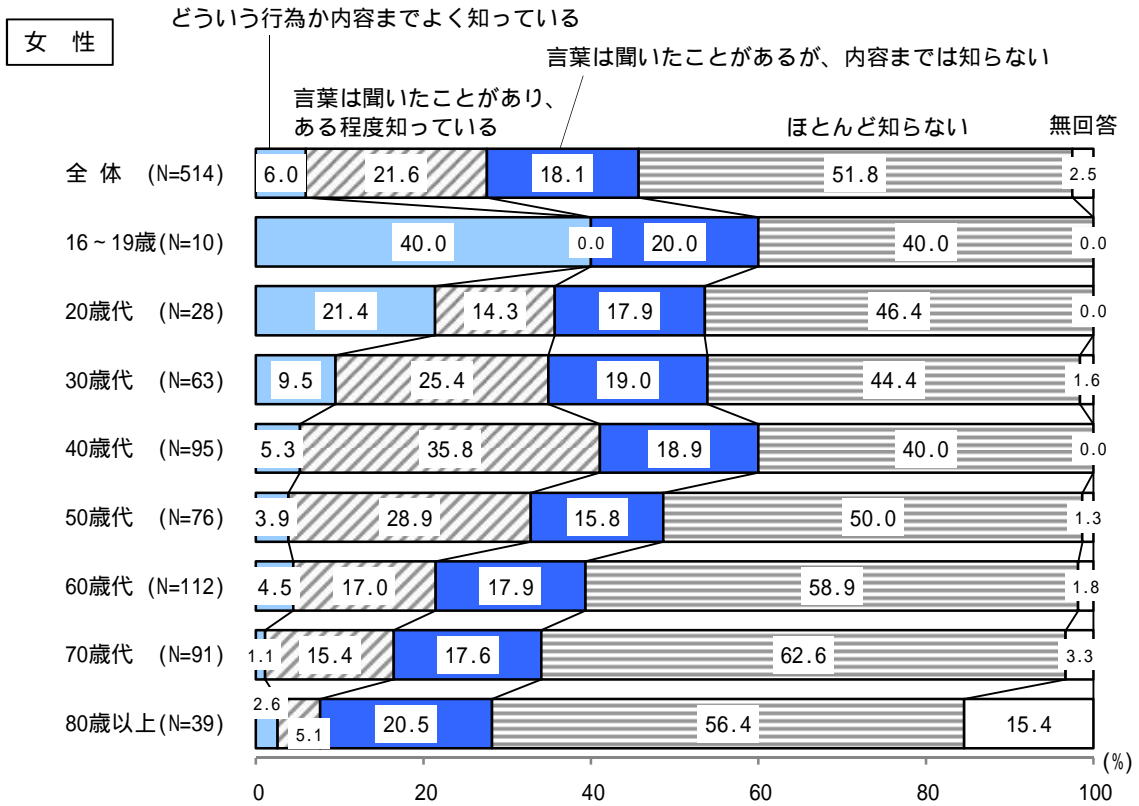


性別で見ると、男女とも「警察」が8割台で最も多く、次いで「市役所」が2割台となっている。これに続いて、女性は「兵庫県女性家庭センター（配偶者暴力相談支援センター）」(22.6%)、男性は「人権擁護委員」(17.1%)となっている。

前回調査と比較すると、女性は「兵庫県女性家庭センター（配偶者暴力相談支援センター）」が4.4ポイント増加している。しかし、「川西市男女共同参画センター」は女性4.5ポイント、男性6.6ポイント減少しており、「人権擁護委員」も女性8.0ポイント、男性6.0ポイント減少している。また、男性では「民生児童委員」が5.8ポイント減少している。

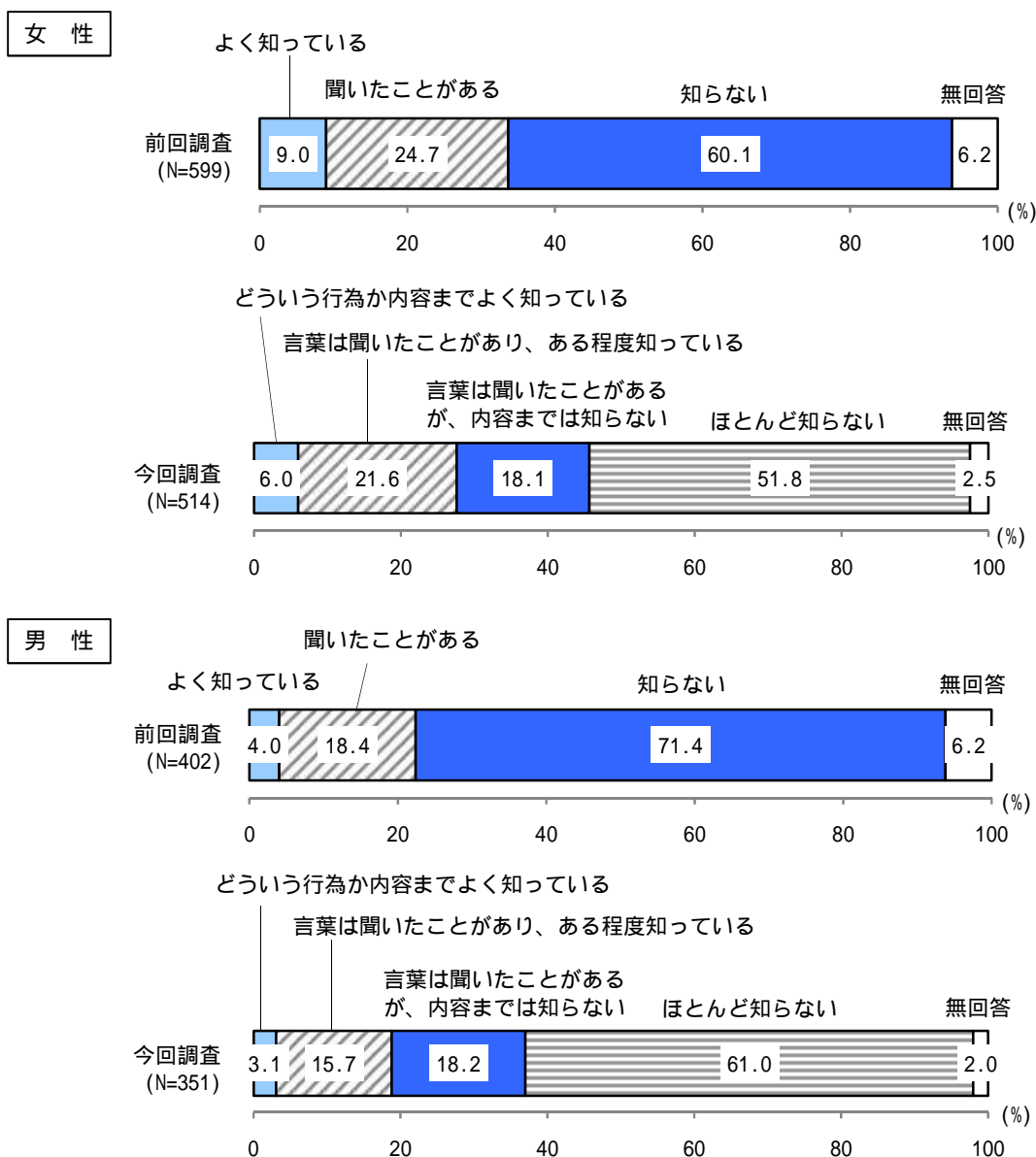
(11) デートDVの認知度

問31 あなたは、「デートDV」をご存知ですか。(あてはまるもの1つに)



デートDVの認知度について、男女とも「ほとんど知らない」が半数以上を占めており、これに次いで女性は「言葉は聞いたことがあり、ある程度知っている」が21.6%、男性は「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」が18.2%となっている。年代別で見ると、男女ともいずれの年代も「ほとんど知らない」が最も多くなっているが、「どういう行為か内容までよく知っている」は16～19歳の男女や20歳代の女性が他の年代に比べ高く、「言葉は聞いたことがあり、ある程度知っている」は30～50歳代の女性で2～3割台、20～40歳代の男性で2割前後となっている。

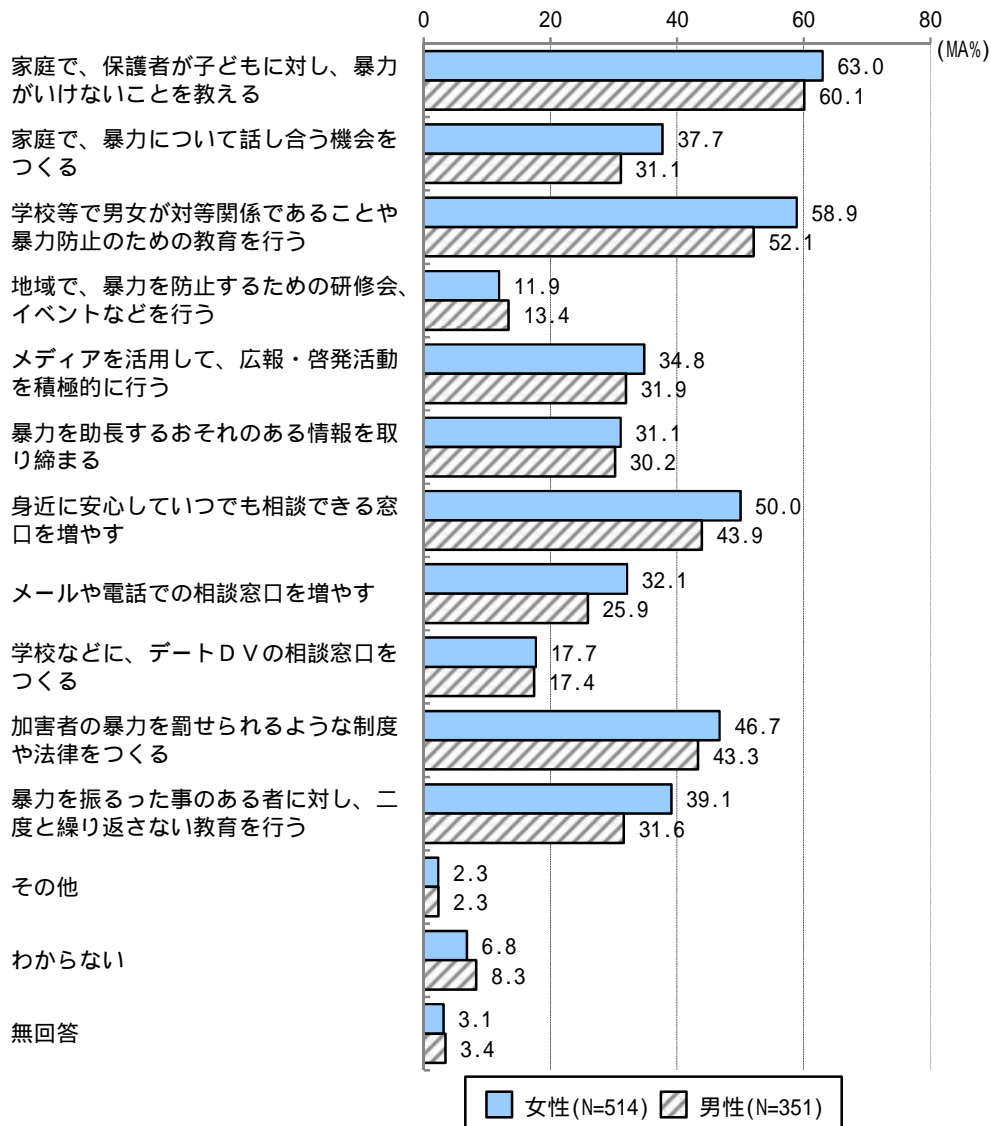
【経年比較】



前回調査と比較すると、男女ともに、デートDVという言葉の認知度は上昇傾向にある。

(12) デートDVをなくすための対策

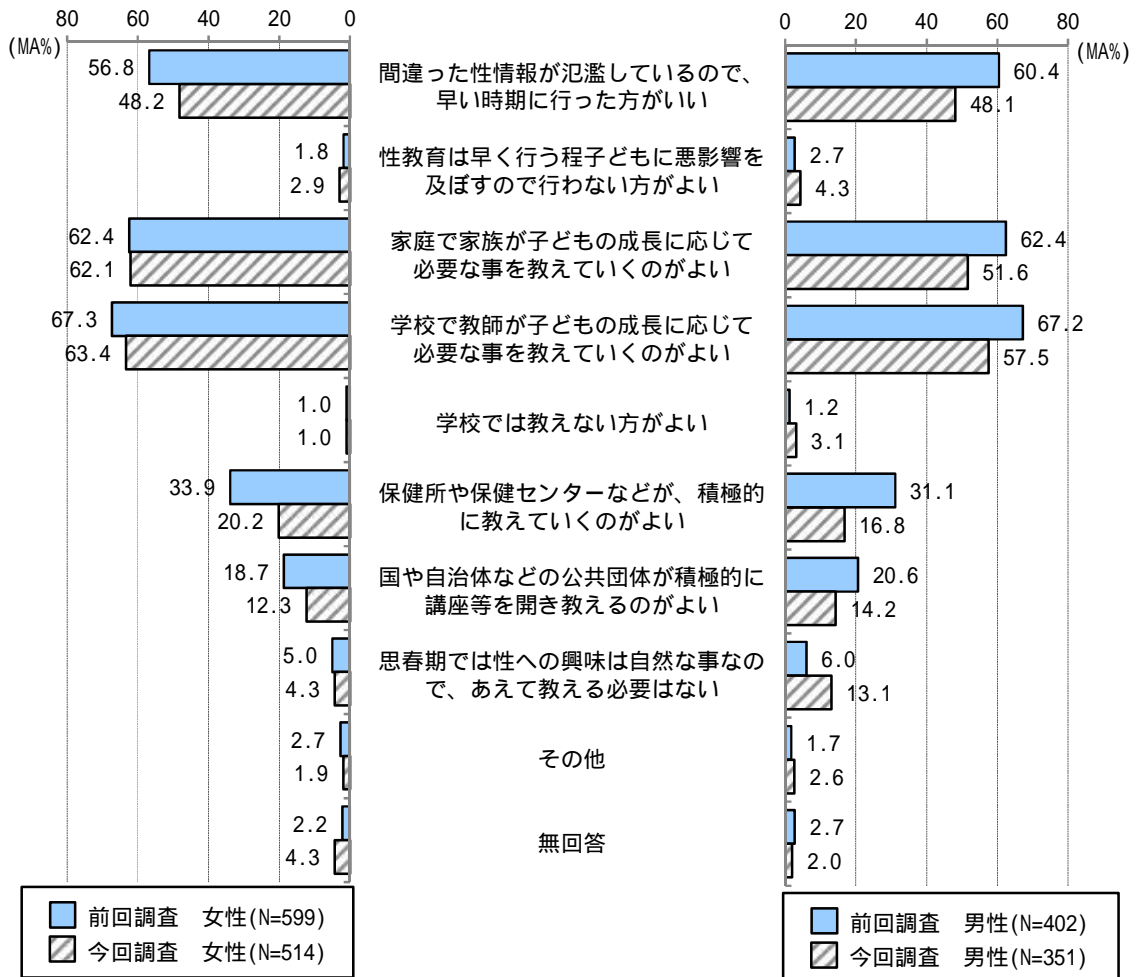
問32 あなたは、デートDVをなくすためには、どうしたらよいと思いますか。
(あてはまるものすべてに)



デートDVをなくすための対策として、男女ともに「家庭で、保護者が子どもに対し、暴力がいけないことを教える」が最も多く、次いで「学校等で男女が対等関係であることや暴力防止のための教育を行う」、「身近に安心していつでも相談できる窓口を増やす」、「加害者の暴力を罰せられるような制度や法律をつくる」と続いている。また、多くの項目で、男性より女性の割合のほうが高くなっており、なかでも「暴力を振るった事のある者に対し、二度と繰り返さない教育を行う」は7.5ポイント高く、「家庭で、暴力について話し合う機会をつくる」や「学校等で男女が対等関係であることや暴力防止のための教育を行う」、「身近に安心していつでも相談できる窓口を増やす」、「メールや電話での相談窓口を増やす」では6ポイント高くなっている。

(13) 性教育に対する考え

問33 ユネスコによる「性教育国際ガイドライン」では、人間関係、人間の発達、性行動など6つの重要概念を学習目標として示し、子どもの発達段階に応じて教育することを提唱しています。あなたは性教育についてどのように思われますか。
(あてはまるものすべてに)



性教育に対する考えについて、男女とも「学校で教師が子どもの成長に応じて必要な事を教えていくのがよい」が最も多く、次いで「家庭で家族が子どもの成長に応じて必要な事を教えていくのがよい」となっているが、両項目とも女性は6割台に対し、男性は5割台で、女性のほうが高くなっている。これらに次いで、「間違った性情報が氾濫しているので、早い時期に行った方がいい」が男女とも48%となっている。

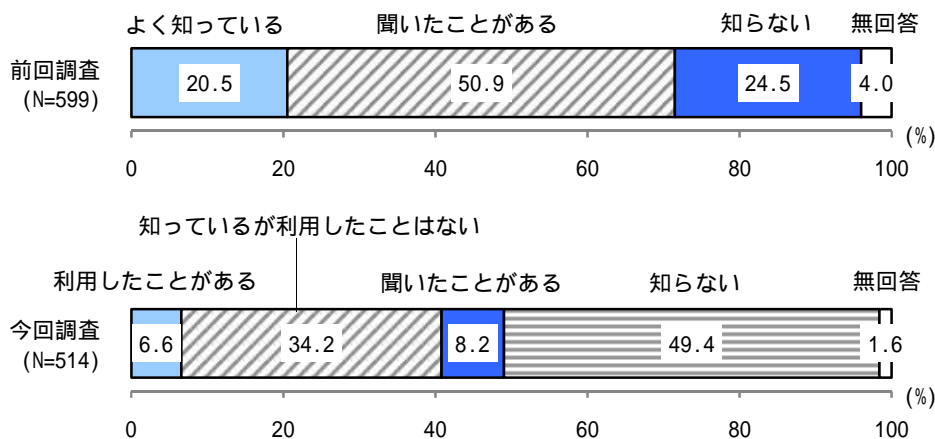
前回調査と比較すると、「間違った性情報が氾濫しているので、早い時期に行った方がいい」が、女性で8.6ポイント、男性で12.3ポイント減少している。また、「家庭で家族が子どもの成長に応じて必要な事を教えていくのがよい」と「学校で教師が子どもの成長に応じて必要な事を教えていくのがよい」は、男性で10ポイント前後減少しているが、女性は男性ほど大きな変化はみられない。また、男性は「思春期では性への興味は自然な事なので、あえて教える必要はない」が7.1ポイント増加している。

9. 市の男女共同参画施策について

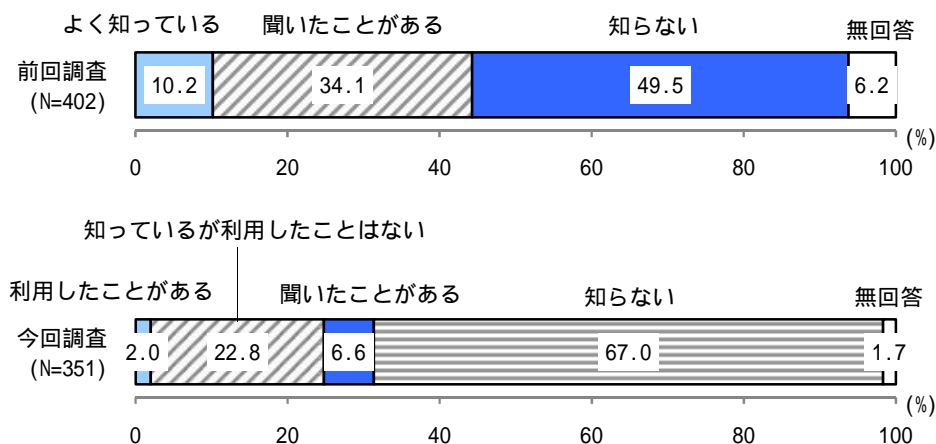
(1) 川西市男女共同参画センターの利用有無

問34 あなたは、複合施設「パレットかわにし(1階)」にある川西市男女共同参画センターを利用したことがありますか。または、ご存じですか。
(あてはまるもの1つに)

女性



男性

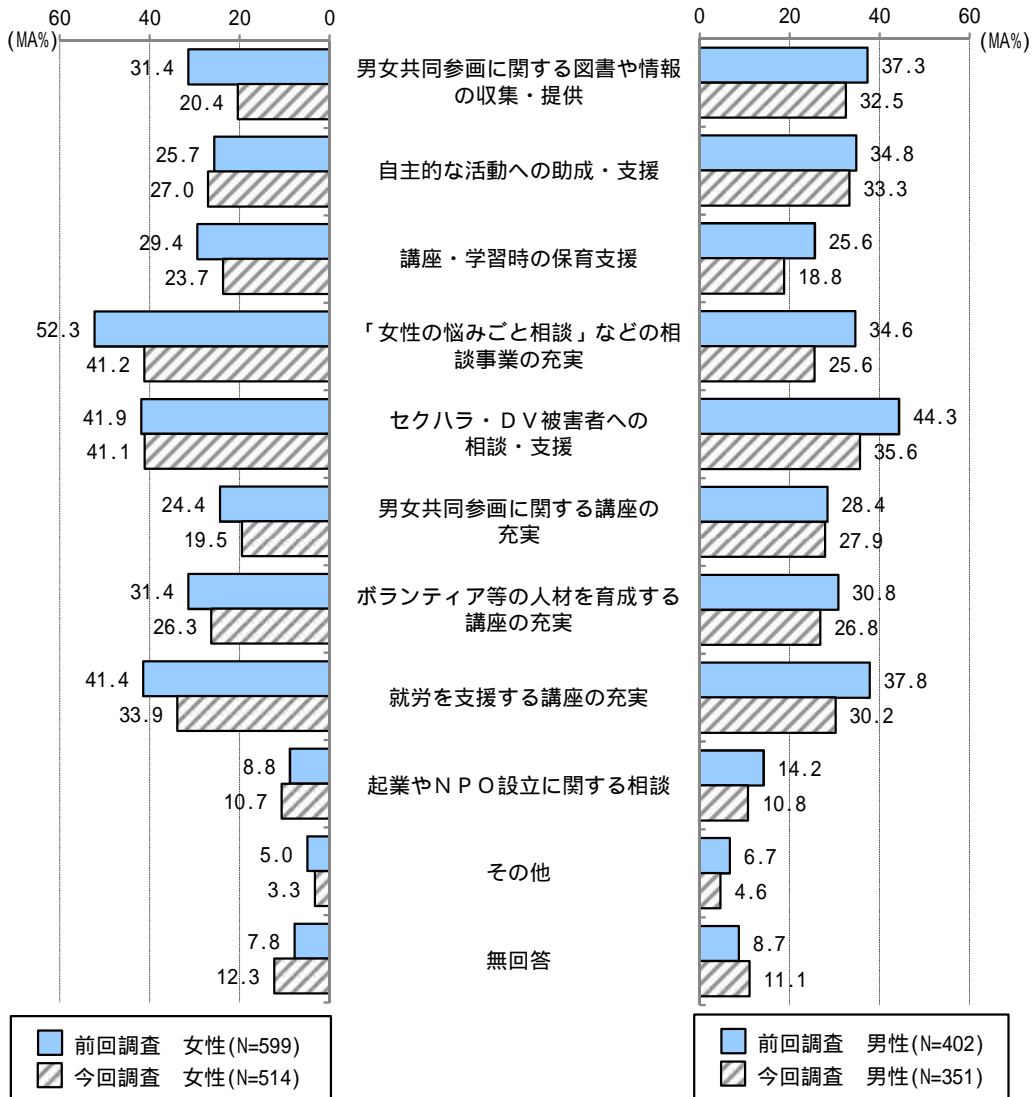


川西市男女共同参画センターの利用有無について、男女とも「知らない」が最も多く、次いで「知っているが利用したことはない」となっている。認知度としては、男性より女性のほうが高く、「利用したことがある」は女性6.6%、男性2.0%となっている。

前回調査では、「よく知っている」と「聞いたことがある」を合わせると、女性は71.4%、男性は44.3%となっており、前回調査に比べ認知度は男女ともに低下傾向にある。

(2) 男女共同参画センターに望むこと

問35 本市には男女共同参画を進めていくための拠点として川西市男女共同参画センターがありますが、あなたは、この男女共同参画センターにどのようなことを希望しますか。(あてはまるものすべてに)

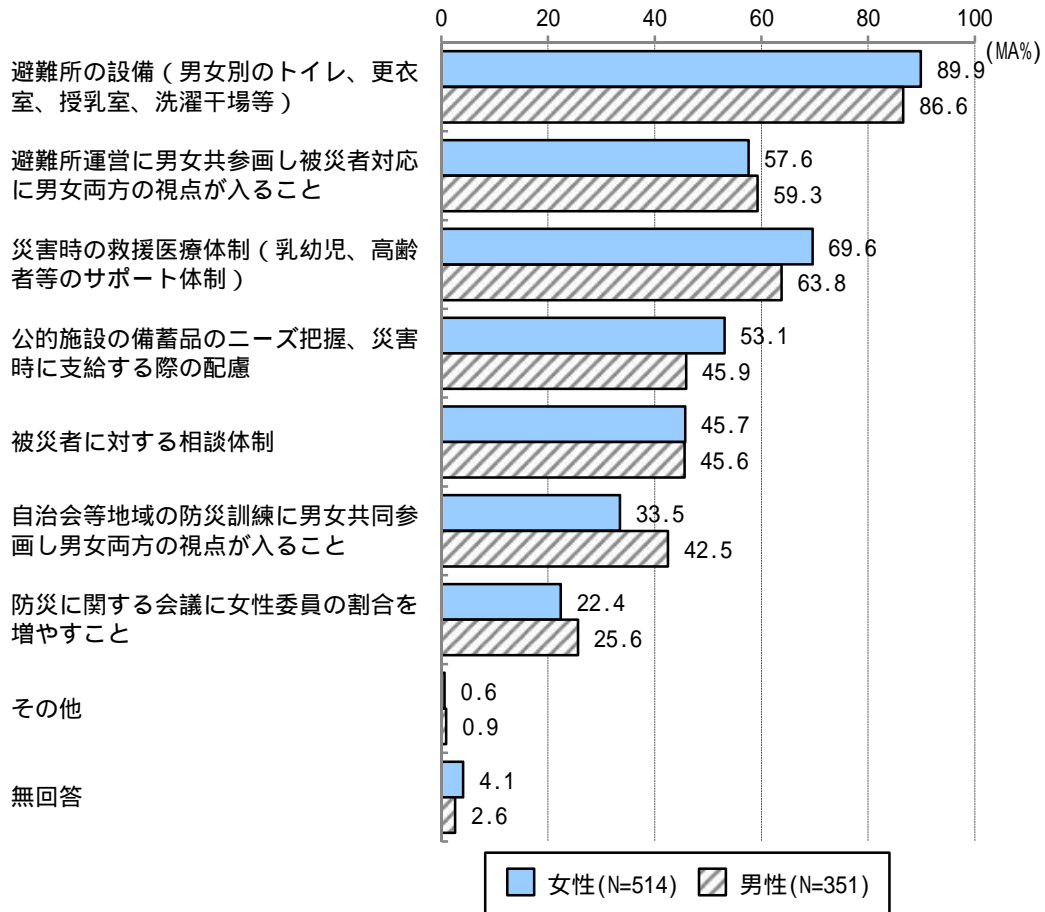


男女共同参画センターに望むことについて、女性では、「『女性の悩みごと相談』などの相談事業の充実」が41.2%で最も多く、次いで「セクハラ・DV被害者への相談・支援」が41.1%と僅差となっており、続いて「就労を支援する講座の充実」が33.9%となっている。一方、男性では、「セクハラ・DV被害者への相談・支援」が35.6%で最も多いが、「自主的な活動への助成・支援」(33.3%)や「男女共同参画に関する図書や情報の収集・提供」(32.5%)、「就労を支援する講座の充実」(30.2%)も3割台と多くなっている。

前回調査と比較すると、女性は「男女共同参画に関する図書や情報の収集・提供」と「『女性の悩みごと相談』などの相談事業の充実」が11ポイント減少しており、男性は「『女性の悩みごと相談』などの相談事業の充実」と「セクハラ・DV被害者への相談・支援」が9ポイント程度減少となっている。

(3) 性別に配慮した対応で必要と思う防災・災害対策

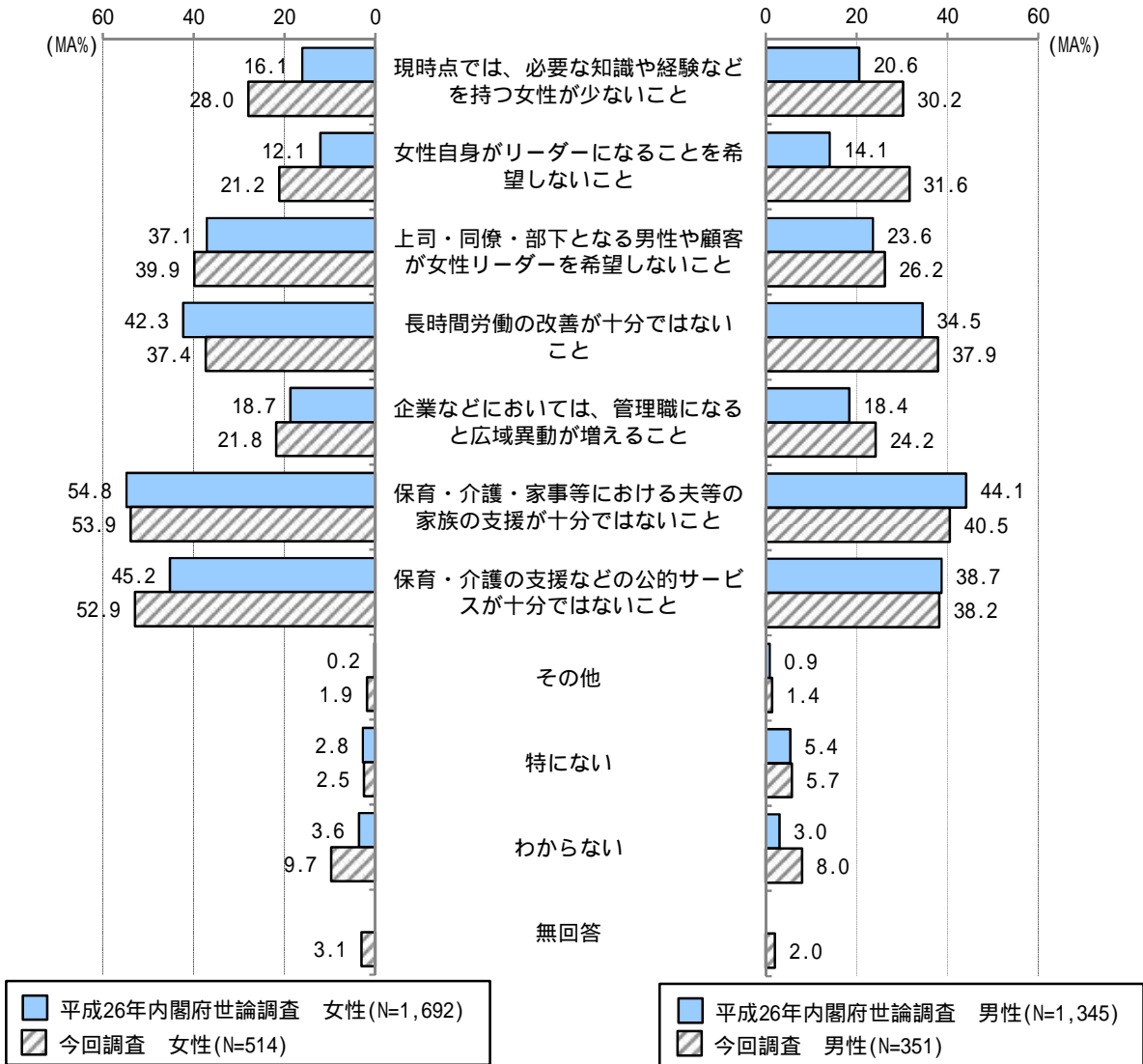
問36 あなたは、防災・災害対策において、性別に配慮した対応で必要だと思うものがありますか。(あてはまるものすべてに)



性別に配慮した対応で必要と思う防災・災害対策について、男女ともに、「避難所の設備(男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗濯干場等)」が8割台で最も多く、次いで「災害時の救援医療体制(乳幼児、高齢者等のサポート体制)」が6割台、「避難所運営に男女共同参画し被災者対応に男女両方の視点が入ること」が5割台となっている。また、女性は男性に比べて「公的施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮」で7.2ポイント、「災害時の救援医療体制(乳幼児、高齢者等のサポート体制)」で5.8ポイント高くなっている。一方、男性では「自治会等地域の防災訓練に男女共同参画し男女両方の視点が入ること」が女性に比べ9.0ポイント高くなっている。

(4) 女性のリーダーを増やす際に障がいとなるもの

問37 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障がいとなるものは何だと思いますか。(あてはまるものすべてに)

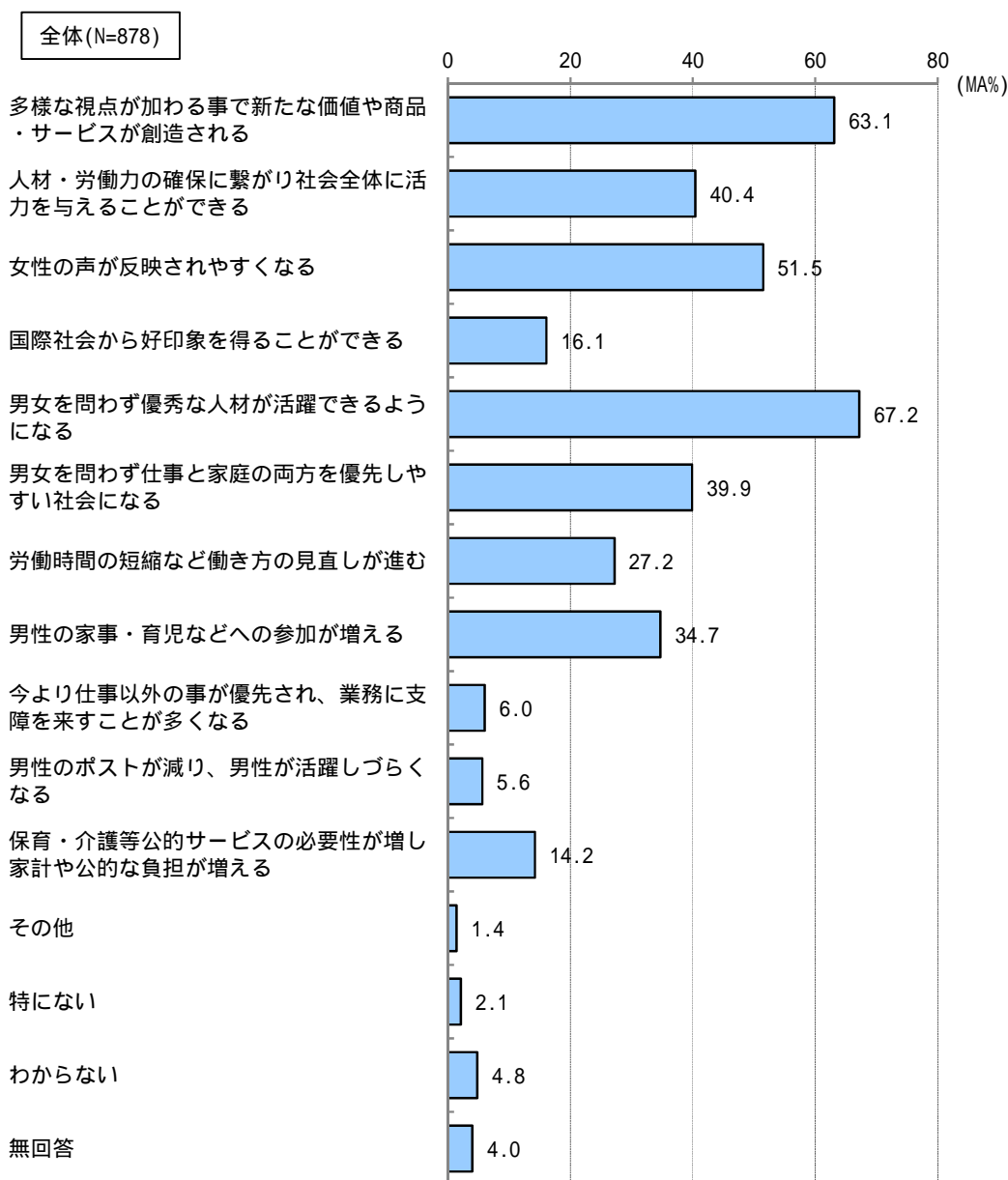


女性のリーダーを増やす際に障がいとなるものについて、男女ともに、「保育・介護・家事等における夫等の家族の支援が十分ではないこと」が最も多く、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」となっているが、両項目とも女性は5割台で、男性は4割前後と性差がみられる。これらに次いで、女性は「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」が39.9%、男性は「長時間労働の改善が十分ではないこと」が37.9%となっている。

内閣府世論調査と比較すると、男女とも「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」と「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」が10ポイント前後で本市の今回調査のほうが高くなっており、なかでも男性の「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」は17.5ポイント高くなっている。

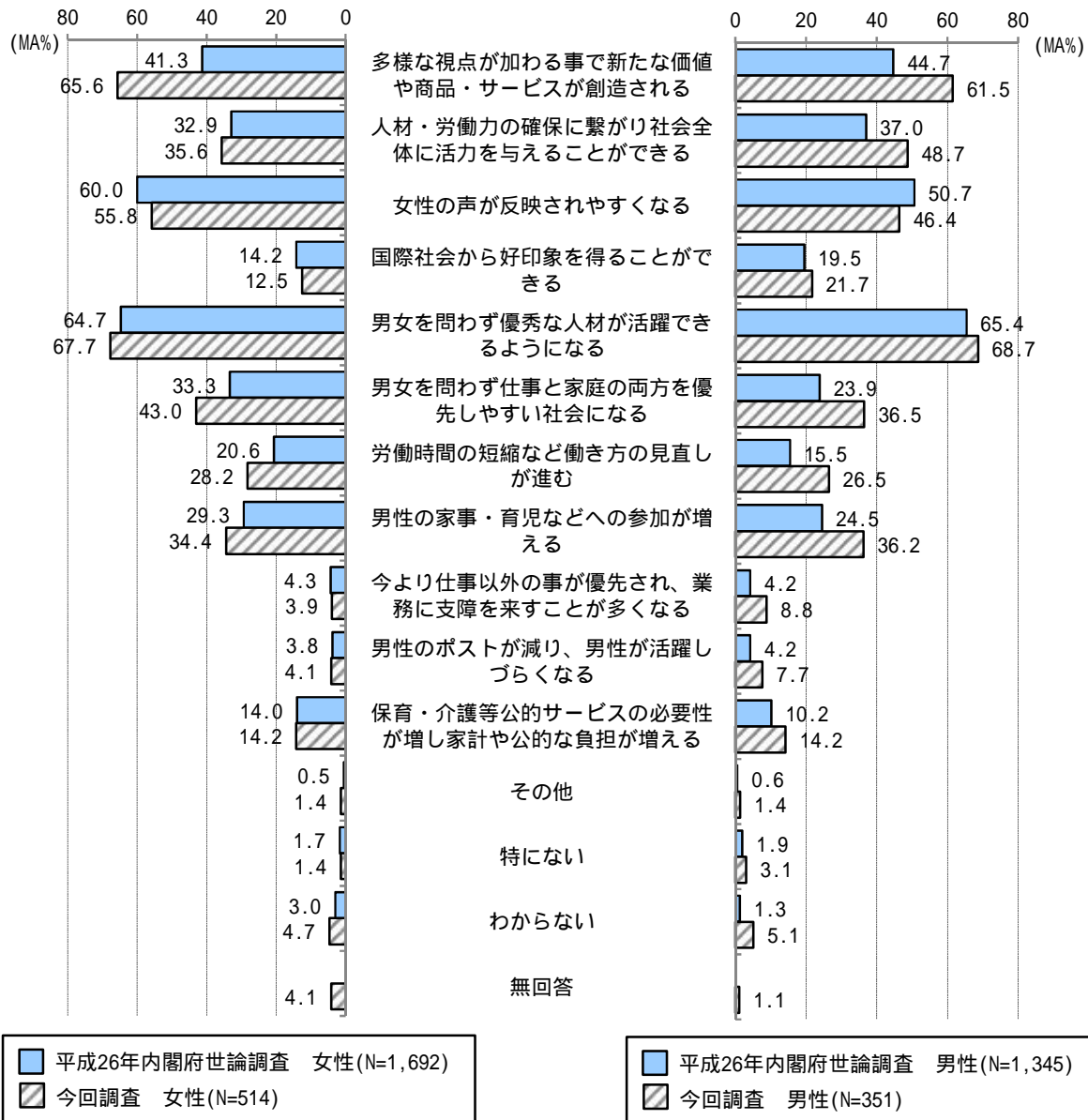
(5) 女性のリーダーが増えた際の影響

問38 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるるとどのような影響があると思いますか。(あてはまるものすべてに)



女性のリーダーが増えた際の影響については、「男女を問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が67.2%で最も多く、次いで「多様な視点が加わる事で新たな価値や商品・サービスが創造される」が63.1%、「女性の声が反映されやすくなる」が51.5%となっている。

【内閣府世論調査との比較】



女性のリーダーが増えた際の影響について、男女ともに、「男女を問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が最も多く、次いで「多様な視点が加わる事で新たな価値や商品・サービスが創造される」となっており、両項目とも6割台と高くなっている。これらに次いで、女性は「女性の声が反映されやすくなる」が55.8%となっており、同項目の男性（46.4%）に比べ9.4ポイント高くなっている。一方の男性では「人材・労働力の確保に繋がり社会全体に活力を与えることができる」が48.7%と続き、同項目の女性（35.6%）に比べ13.1ポイント高くなっている。

内閣府世論調査と比較すると、「男女を問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる」が女性9.7ポイント、男性12.6ポイント高くなっている。また、男性では「男性の家事・育児などへの参加が増える」が11.7ポイント高くなっている。しかし、「女性の声が反映されやすくなる」が男女ともに4ポイント低くなっている。

.自由意見

1. 自由意見・要望（抜粋）

川西市の男女共同参画施策について、ご意見、ご要望等がございましたら、ご自由にお書きください。

（1）男女の地位

年齢	性別	内容
80歳以上	女性	女性が活躍することはいいと思うが、女性の割合を増やすことに重点を置くのは間違い。男も女も能力がある人が重要な役割をするのが正しいと思う。
40歳代	女性	男性が考えることと女性が考えることは違っていることも多く、年齢等で変わると社会に対する要望も変わるので意見が一致しないのは仕方ないと思う。アンケートが少しでも役に立てばと思う。
40歳代	男性	男性の立場が弱くなっているように思う。
70歳代	男性	川西市にこのような施策があることは知らなかった。女性にも素晴らしい能力を持っている方が沢山いるので、その能力を発揮させないような障害をとり除いていくことが必要だと思う。少し荒療治になるかもしれないが、市役所等々公的機関が率先して女性の管理職のパーセントを決め、無理にでも女性を就けることが必要ではないかと思う。
60歳代	男性	家庭・企業・団体・社会の中で男女（特に女性）の活躍する場が更に拡大すれば良い。新しいサービス、仕事、製品が更に開発され提供されれば、利用・購買・経済活動につながる。
70歳代	女性	川西市が表題に取組まれていることは大変良いことと思う。でも、最近の女性は発言力も増し活躍されているのでないだろうか。これ以上何が不足なのか。あまりいろいろと先取りしすぎて勘違いしている人達が増えて来ているように見える。特に女性が。私達の時代がすべて良かったとはいえないが、原点である男性の役割<外でしっかり働く>女性は<家庭を守り、子どもをしっかり育てる>という役割が大切と育てられた。こういった家庭教育が一番大事であり、長じてお互いを尊重することができて表題の件もスムーズに取り組むことができるのではないだろうか。
40歳代	男性	男性＝強者・悪 女性＝弱者・善 この考え方もう止めないか。
20歳代	男性	「男女共同参画施策」というものをこの調査票が届くまで知らなかった。私はまだ20代故、男尊女卑の根強かった時代は知識としてしか把握していないが、男女が性別に囚われない社会にはなりつつあると感じている。しかし、それを良いことに好き勝手な主張を申す人達も多いように思う。私は男女ともに性別に囚われず、個性を尊重すべきだが、男女ともにどちらかにしかできないことも同時にあると考えている。なので、むやみやたらに権利を主張するのではなく、まずは人としての個性を尊重し、それから「男」「女」というものに対する理解を深め、互いを補うことで初めて男女が性別に囚われない社会になるのではないかと考える。
70歳代	男性	この調査で気が付いたが、女性の進出に非常に気を遣っているように思う。今日の社会にはこの件は何ら心配ない日本であると思うが、言い分のみ権利も大切。対する実行の義務も大切だと思う。
30歳代	女性	性別・年齢に関わらずすべてが平等であることが良いとは思わない。女性が気付く細やかなことを男性に求めるのはむしろかしいし、いざというときに男性を頼りにしている女性はたくさんいると思う。自治会の仕事等は、定年退職した人が中心に活躍してくれているし、全ての世代の人が性別・年齢にとらわれず得意なことをのばしていければいいのではないかと。男女平等、素晴らしいことだが、平等でないことが素晴らしいこともある。川西市民が幸せなくらしができるように尽力してくださっていることに感謝している。

（2）結婚と家庭生活

年齢	性別	内容
40歳代	女性	現実的に育児と仕事の両立は女性に負担が多いので、私自身出産を機に退職をした。専業主婦として十数年、育児に専念していたが 離婚となると収入もないので、本当に女性には厳しい現実だ。また、年金も熟年離婚なら折半になるそうだが 私の場合は話し合いをしないとももらえないそうで、目の前の離婚のことで手一杯なのに老後の年金の話なんてできるはずもなく、本当にまだまだ男性優位だなあと考えた。暴力を受けてた時も、女性センターという所に電話相談したが、「一回位なら...」といった返事で、私の気持ちに寄りそってくれることはなかったように思う。結局、その暴力がきっかけとなり離婚した。

(3) 子育て

年齢	性別	内容
30歳代	男性	保育料高額問題、保育園不足問題、乳幼児医療高額問題等が足を引っ張って、女性の社会進出の妨げになっている。もっと切実な問題ととらえてしっかり対策してほしい。
30歳代	女性	小学生の親が働きにくい社会だと思う。学童保育の問題は取り上げられ、改善されようともしているようだが、働いていてもPTA役員が回ってきたり、参観や懇談などで会社の休みはほとんど子どものために使っている。会社の方針を変える必要もあると思うが、学校も変われば良いと思う。学童では夏休みや冬休みだけ預けられる制度があると、とても助かる。
30歳代	女性	保育園児を持つ母親として、保育園に入るまでが第一の関門だった。男女が共に活躍できる社会と言えるためには、二人目、三人目も同じように、希望すれば保育園に全く待機されずに入れるという安心が必要。なおかつ、その仕事を続けるには利便性も重要だ。往復一時間かかる保育園には預けられない。子どもが保育園に入れたら、次の関門は進学だ。市内の学校にはどのような制度があるのか環境はどうかとか良く知りたいが、なかなか情報が得られない。川西市で今後も子育てをしていきたいと思えるような希望を持てる情報の提供をお願いしたい。
60歳代	女性	幼い子どもたちが安心して遊べる場所を作ってほしい。道路の安全性を見直してほしい。
70歳代	女性	子育て支援、介護支援等が整えば安心して女性も働けるのではないかな。
40歳代	女性	夫婦共働きである。いつもいつも時間がなくて、子どもたちと関わる時間が十分に持てないことが一番つらい。女性も働く時代でお金の為には働くしかないが、現実は大変。きっと皆さん一緒だと思って頑張るようにしているので大丈夫だ。
30歳代	女性	すごく難しい問題だと思う。今私自身、子どもが4歳・もうすぐ2歳の2人いるため仕事がしたくてももう少し子育てがんばろうと思っている。だが、こども園に入園するか下の子どもが小学校に入ったら仕事したいと思っている。ただ、今、思っているだけで実際すぐに仕事が見つかるかは不安に思っている。
40歳代	女性	女性が仕事を続けられることが理想だが、一方で子育てとの両立は、やはり難しく感じている。小学校も低学年のみ17時までしか預かってくれない。又、下校時の見守りに出られる保護者もほとんどの主婦がパートで出ていて、いない。放課後や夜、親が家にいないことで子ども達がさみしく過ごしたり、非行に走ったりしているのを見ると、女性が外で働くことに力を入れるあまり、子どもが置き去りにされているような気がする。
60歳代	男性	現役世代、子育て中に女性が社会進出している間に失う物の大きさ、母親でなければできない無償の愛の伝授、これらを与えてこなかった子どもが親になった時のマイナス連鎖、社会が失っていく最大の問題だと考える。女性の進出は必要でプラス面ばかりでなく、失われていく社会の一員としての人間を長い眼で廃れていく法を知ることが必要だと思う。教育者・指導者の子育てはどうだったのか、検証を。成功者の方々の意見を是非。御一考の程を。
60歳代	男性	学校においては、「いじめ」排除の動きも強めて欲しい(悲しいニュースが多い)。皆様に頑張ってほしい。協力できることはさせて頂く。
50歳代	女性	基本男性に収入があり、女性がゆったりと子育てをするのが良いと考えている(休日の男性子育て参加)。それ以外は男女平等はあたりまえだと思うが、子育てだけは女性の方が適していると思う。これは、差別ではないと思っている。
70歳代	男性	現在私が参加している活動では女性も重要な役割をしている。出産・育児の問題が改善されれば北欧の国のような男女平等が仕事の面でも実現可能と思われるし、そのような社会が望まれる我が国の状況から考えると、女性の活躍、あるいは外国人の参加なしには将来の発展は望めない。

(4) 介護

年齢	性別	内容
20歳代	女性	これから介護職に就き、できるだけ長く働きたいと思っている。しかし、今の日本は高齢者がこれほど多いにもかかわらず支援が不十分で、「死ぬ」方が良いのではとマイナスに考えてしまう方も生んでいる。まずは、地域が高齢化を支え、守り、「介護職は大変だ」という固定化されたイメージを取り払えるようにしていただけたら嬉しい。そして、女性だけでなく男性ももっと介護に貢献できるようにして、男女関係なく働けるやりがいのある仕事として未来に繋げていってほしい。
70歳代	女性	子育て支援、介護支援等が整えば安心して女性も働けるのではないかな。

年齢	性別	内容
50歳代	女性	結局の所、女性が介護等で仕事を諦めなければいけない状況にあると思う。私の年齢（50歳代）では特に。若い頃は子育てで大変な思いをし、歳がいったからは介護で辛い思いをしている。市やケアマネジャー等に相談しても、何も改善されないのが現状だ。川西市として少しでも、何か良い方法はないだろうか。

(5) 仕事

年齢	性別	内容
40歳代	男性	「いきいきと暮らすことができる社会の実現」何をもっていきいきと言うのか。男女の問題以上に経済的負担が大きすぎる。やむをえず長時間勤務（残業）をせざるを得ないのが現状で、プライベートな時間、地域活動に参加する時間がない。
70歳代	女性	私も生活のために60歳まで仕事をしていたが、男女の雇用問題で悩んだ時期もあった。今から考えると、セクハラやパワハラが多くあったと思う。女性が働きやすい職場も多くなっているようだが、より良い時代になってほしいものだ。
20歳代	男性	男女ともに学校を卒業すると就職するが、結婚や出産を機に女性は退職することが多い。その後、職場復帰することは少ない。これを社会の制度が悪いとか男性優位な環境が悪いという風潮になっていると感じるが、職場環境の改善で大きく変わると思う。職場環境が良いところでは女性の復職率は高いと思う。日本企業全体で風土改革（サービス残業の禁止、年功序列の撤廃）の実施や行政のバックアップ（法整備等）が必要で、それらで男性も余裕ができて子育て等にも参加できると考えている。
30歳代	女性	少子高齢、メンタルヘルスや引きこもりといったように社会がどんどん変化している。働き方、生き方を変化せざるを得ない。一方で、男性の方が得意なこと、女性が得意なこと、その人だからできる事は変わらずあると思った。一人一人がどう働いて生きていくのかを自由に選択し、お互いにそれを認められるような社会が作られていけるよう頑張りたい。このアンケートをきっかけに少し考えていきたいと思った。
40歳代	女性	女性、特に「母」が働きにくい世の中になっていると感じる。職場では50代の男性上司の理解も得にくく、心無い言葉などを吐かれたという話もよく耳にする。そういう年代の方の意識改革も必要。市会議員、県会議員、市の職員の方々の学習や意識改革（善）をお願いしたい。
60歳代	男性	昼間にファミレスに行けばほぼ女性たちである。日本の女性は恵まれている方だと思う。各家庭でもほとんど女性が実権を握っていると思う。仕事も子育ての為、パートを選んでいる場合が多い。子育て以上に大事な仕事は無いと考えている。子育てが終わった段階で社会復帰しやすい社会になるよう、社会全体と個人の努力（資格を取るなど）が必要だと思う。また、各家庭の考え方があると思うので、働きたい女性が職場を得やすいように税制などの面で企業に働きかけていく必要があると思う。
30歳代	女性	私は現在会社員として働いているが、私が入社した20年ほど前と比べ女性が働きやすい環境になったと思う。お茶くみやそうじは女性の仕事といった「暗黙のルール」があったが、最近では男性でもそのような雑用をするようになってきた。また、子育てに関しても私より下の世代の男性社員は「子どもの保育所のお迎えがあるので」と仕事を早く切り上げ帰ったりもしている。ただ、私より上の世代ではまだまだ「暗黙のルール」が残っているようだ。 なので、小・中学校の早い時期から男女が共に暮らしていける教育をし、それが「当たり前」といった環境にしていくことが大切だと思う。
40歳代	女性	“1億人総活躍”といいながら、就職するには年齢制限が依然としてある。特に40代後半以降の人は、いまさら働けないのが現実である。しかしながら、政府は配偶者特別控除を一律に撤廃する等、現実に見て頂きたい。
80歳以上	女性	男女共同参画施策うらやましく思う。私の時代、S29年入社だが、女性は結婚と同時に退職だった。色々な面で女性も参加できるものには参加、人のお話を聞くのもいい勉強になる。
40歳代	女性	パートでの103、130万などの壁をなくしてほしい。介護のパートで働いているが、この壁のために日数を制限するために、もっと働きたくても働けない状況である。介護職は人が足りないといわれているが、介護が好きで働きたいのに制限しなくてはならないことに矛盾を感じる。中には仕方なく介護の仕事をする人もいるが、好きで介護の仕事をしてる人達を活かすことができれば、される側もいい介護を受けられると思う。

年齢	性別	内容
50歳代	女性	家父長的な家庭に育った。父が長男を重視することに異論を感じつつも学校や大学生活を送る上では、男女は平等であるものと思っていたが、学生時代の終わり、就職活動を行う中で男女は平等ではないということに気が付いた。教授たちは女性は25歳までに結婚しろと言ったし、女性を雇う職種は少なく、正式に就職するまでに長く時間を要した。幸いに20年近く働いたが、やはり重要なポストは与えられない。現在は、親の介護を引き受けなければならなくなり（弟・長男がいるが）、仕事を休職している。結局のところ、女性（男性・息子の場合はその連れ合い）が親の面倒を見ることになるのだろうと思う。私自身、年金受給にはもう少し掛け金が必要だが、高齢となり、再就職の場が見つかるのかどうか現在心配している。まだまだ女性には厳しい社会状況である。夫と同居してきた「主婦」と呼ばれてきた人たちから税金を取るという政府のやり方は性急すぎるのではないかと思う。結婚を早くするように勧められ、そのとおりにしてきた人たちから安易に税金を取るとは理不尽だと思う。一方で、若い人たちには、女性が自立して歩むことができるために公共機関に支援をお願いしたい。日本の女性進出は先進国でありながら、世界的に見ても発展途上である。女性が社会で働くことは、国を豊かにすることであり、そこで生きる人々自身へ幸いが還元されていくことであることを啓発できるのは地域と個人を繋いでいる行政・市であると思うので、男女共同参画や人権推進の働きが重要だ。人間の尊厳、人権意識が個々にないと、これまでなされてきた差別性はなくなるならない。大変忍耐を要しますが、粘り強く取り組まれますようにと思っています。
60歳代	女性	男尊女卑の時代じゃあるまいし、男女性別に関係なく、いろんな視点から見て女性目線から見て男性には見えない細やかな所が見える面もきっとあるので、職業それぞれだが女性も平等に活躍すべき。
60歳代	男性	外資の会社にいたが、マネージャーや役員にも女性は多く、能力的に男女差があるとは思えない。
60歳代	女性	私の職場で、妊娠をしても働けるようになった（特養です）。働くにあたり、書面に表した物もなく、ただ本人の体調に合わせてと言うばかりだが…。仕事柄、回りにくるシワ寄せは大変なものがある。男女平等とうたっているが、妊娠している、できない。でも職場で働ける。少し安易に考えている人もいるのではないだろうか。
60歳代	女性	昔に比べると随分改善され、女性にとっては仕事のしやすい環境になっている。男性が子どもをだっこしたり、料理したりの姿は微笑ましく思うし、時代の移り変わりを感じる。男女の性的な違いはあるのは事実だが、人間としてどう生きたいかが一番大切だと思う。
70歳代	女性	セクハラ、パワハラ等々は昔もあった。働く上では、今よりももっと酷かったかもしれない。私は、仕事への取組みが認められたのかもしれないが、役職にもついた。現場からは産休を取るようといわれたが、子どもは自分の手でと思い退職。いざ社会復帰となると、勤務時間・仕事内容等やはりうまくいかなかった。
16～19歳	女性	女性が社会進出し、大事なポストを任せられたりなどすることは昔に比べると増えている。が、今でも古い考えを持ち女性の社会進出をあまり好ましくないと思っている人もまだまだいる。そのような人たちを減らすために、まだしなければいけないことがあると思った。セクハラは女性が被害者になることが多いと思うが、男性だって被害者になることもある。女性ばかり守り過ぎではないかと思う。
40歳代	女性	男性と同等に働くのは難しい、同様に男性が女性と同じように家事育児をするのは難しいと思う。 育った世代でも大きな差があり、共同参画は難しいと思った。
40歳代	女性	女性ももっと社会で仕事をしやすい環境づくりが足りていない。女性の管理職を増やすと言っているが、実際子育て中の女性は夜間の仕事ができない。子どもを1人家に残して仕事できるわけがない。もっと女性の管理職についても労働条件の見直しが必要。まったく中身がない“女性の管理職を増やす”発言、しっかり現実を見てほしい。
40歳代	女性	昨年からパートに出るようになった。“パート103万”の壁にぶち当たり、働きたいのに働けない、税金や保険などがとられるという現実をみた。自分の仕事を思いきり楽しんで充実した日々がすごせる世の中になってほしい。

(6) ワーク・ライフ・バランス

年齢	性別	内容
70歳代	女性	育児や家庭を大事にできる女性の仕事があれば本当に良いです。

年齢	性別	内容
40歳代	女性	男は共同参画について、非常に賛同すべき事柄であると思っている。自分自身は出産を機に仕事を辞め、現在はパート勤務に就いている。女性が未婚であるか既婚であるか、また子持ちであるかないかは勤務形態に大きく影響がある。家事や育児を折半にしたからといって解決する問題ではないし、幼い子どもにとっての母親のかかわりや、愛情、そばにいることは絶対に必要なことだと思う。各家庭に応じたサポート体制が用意されることを望む。画一化することでの子どもたちへの悪影響がとて心配。（離婚や母子家庭・父子家庭の増加、子どもを産まない自由など）
70歳代	男性	女性の働く場を設けること。しかし、家庭や地域の活動をおろそかにしないこと。
60歳代	女性	仕事をしている女性が、仕事・家事・子育てを頑張っている家庭が多いと思う。家族で話し合っ、男女夫婦で頑張れるよう。女性ばかりがしんどいと思う。まだまだ男は仕事をしていれば感がある。男女同立で楽しい家庭生活や育児をしていける環境をつくるのが大切だ。
40歳代	女性	主人は家事も大切な仕事だと理解してくれている。しばらく仕事がなく家にいる時も、「今は働いていないから」と言う、「家で家族の為に仕事してるやん」と、外で仕事をしていないということを悲観する必要もないし、ちゃんと給料がもらえるくらい家事が大変だと分かってくれているのでとても気が楽で、頼もしい。みんながこう思ってくれと家事と仕事を両立して頑張りすぎている女性も、もっと頑張ろうと思えるのだけど。家族が、お母さんはいちばん頑張っていると分かってくることが一番大切。その理解だけでつらさも少なくなる。会社や社会は「勝手に言うとき」と思っていればいい。悩む必要なし。自分の人生の大切なものを一番大事に考えること。自分が笑っていれば、周りも笑ってくれる。保育所に入れないとガタガタ揉めてイライラしている時間がもったいない。もっと子どもと一緒にいてあげて。仕事のストレスで子どもに当たってしまっは、仕事をする意味がない。

(7) 性と人権

年齢	性別	内容
30歳代	男性	レディースデイや女性専用車両等、男性が受けることができないサービスは男性差別で、行き過ぎたサービスだ。男性の生きづらい世の中にならないようにも配慮してもらいたい。
60歳代	女性	人はそれぞれ個性があるので、最終的には個人自身の人間性が尊重されることが一番大切だと感じた。
60歳代	男性	義務を果たさず権利の主張をしている。何事も他人や行政の責任とせず、自分の責任と行いを考えて生きる事が基本。相手が悪いという事は自分も悪い。スポーツと同じで、男女、黒人、白人、身長等の特性があり、全て同じにするのは同和教育での手をつないでゴールさせるかけっこと同じ。
50歳代	男性	女性の場合セクハラ、マタニティハラスメントなど結構取り上げられるが、男性の場合は小中高大学時代から部活動、クラブなどを通じて先生やコーチ、先輩などから意味のない暴力や裸で校庭一周など小さい頃からハラスメントを受けている。レギュラーになりたいために辛抱し、就職してもパワーハラスメントや、女性からイケメンではないから、金持ちではないからと差別され、行き場がないように思う。
20歳代	女性	川西市は高齢化が進んでいるためか、考え方が古く視野が狭いように感じる。色々な人種を受け入れてくれる寛容な態勢と凝り固まった固定観念を打破してくれる新しい空気が必要だと思う。
50歳代	女性	年代によって、個人（親）の知的レベルで様々な男女・親子関係が存在するので、小さい時から確固たる教育が大切だと思う。男性は女性を、女性は男性を。マジョリティーはマイノリティーを尊重・尊敬して生きる社会を作っていけないといけないと思う。

(8) 男女共同参画政策

年齢	性別	内容
30歳代	女性	以前に住んでいた地域よりも熱心に男女共同参画に取り組まれているという印象を持っている。
70歳代	男性	今までの歴史や文化の良い面を評価し、早急な変化を起こそうとする革命的な計画や活動は必ずしもうまく定着しない結果にならないか、進め方に配慮することが大切である。

年齢	性別	内容
50歳代	男性	なぜ男女共同参画問題なのか。男女共同参画と言えば、男女が協力し合って理想の社会を実現しようという風に聞こえるが、抽象的で分かりにくい。
70歳代	男性	「男女共同参画」という言葉自体これでいいものかと思う。今回初めてこの言葉を聞き、そういうものなのかと知った。
70歳代	男性	もっと活発に活動すべき。
70歳代	男性	川西市がどんなことをしているのか全く不明。
70歳代	男性	参加できるような施策が必要。
80歳以上	男性	1日も早く実施に向かって進めてほしい。
80歳以上	男性	わが国では昔から女性は強かった（特に家庭内では）。それが最近ではどんどん社会に進出され、大変良いことだと思う。変に小難しい「男女共同参画」などと言わずに、黙って「託児所」「保育所」を増やし、女性の社会進出を助ける施策を進めるのがお役所の仕事では。皆さんの更なるご努力を願う。
60歳代	女性	男女共同参画施策について今後も重要と考えているので、多くの声を聴きながら男女がより働きやすい社会となるよう頑張してほしい。
70歳代	女性	男女共同参画施策は基本的には賛成であり、理想ではあるが、人それぞれ人生の中でこうあるべきではなく、自分が納得することであればこの限りではないと思う。
40歳代	女性	「男女共同参画施策」という名前が何が目的で何をしているのかわかりにくい。もしくは、興味をそそられない。また、これから何をしていきたいのか具体的でなく、何を知らしてもらいたいのがよくわからない。オンブズパーソンのように、もっと相談できる所が必要かもしれない。
30歳代	女性	市の活動というものをほとんど知らないと思った。こういった活動を川西市でもされているのか。市民がより良くなるように、宜しく願います。
60歳代	男性	このようなアンケートのみでの判定ではなく、現地現物調査に基づく判断・方策等、現状に合わせた施策を希望する。
40歳代	無回答	男女共同参画施策とは、正直なにを行っているのかわからない。現実的に、女性が働きやすい環境を整備したいのであれば、保育所・ベビーシッター・家事代行などが安価で利用しやすい地域を目標にするべきだと思う。女性管理職の増加を目標にしているのであれば、特に中小企業へ女性管理職の育成・採用に助成金を出す、などに税金を使うべきであると思う。働く側の要望ばかりが目につき、雇用側への対策がないのであれば、非常にお粗末な施策だと言わざるをえない。行きすぎた男女平等は、ただの女性優遇施策になりかねないので現実的な施策を行って頂きたい。
60歳代	女性	毎年、地味でもよい、小規模でもよい、楽しめる特色のある企画をうちだす努力をしてほしい。 地道な活動を続けることで、少しずつ意識がかわっていくことと思う。
60歳代	女性	施策等について、やたら外国語を使っているように思う。漢字を使った方が良くわかるように思うのだが。こんなことを思うのは、高齢だからだろうか。
50歳代	女性	男女共同参画という言葉を広くわかってもらうように、もう少し柔らかいイメージの言葉や愛称のような呼び方を市民から公募して、自分に身近なことなんだと思ってもらった方がよいように思う。
60歳代	女性	私の住んでいる地域では高齢化が進み、私共と同じように年金生活者が増えている。女性は地域での活動を積極的にしている人がいるが、男性は何もせず、ボーっと生活している人を見かける。誘っても参加することもなく、家事も担当してなさそう。男性が積極的に活動できるようにすることで、家族（家庭）が元気になると思う。男性の社会化への取り組みがこれからの（高齢化社会の）重要課題と思う。地域力の強化。

(9) 教室等の開催

年齢	性別	内容
20歳代	女性	男性の家事をすることに対する指導教室を開いてほしい。働きながら子育てする女性に対する男性の理解を深める教室を開いてほしい。やはり家事は妻という意識が強く、夫は少しでも手伝えば「家事をしている」と思っていることが多く、周りの理解を得にくい。特に、男の子しか育てていない母親に上記の考えが多い。共働きの妻にとって、うちの子（夫）が家事をしているなんて...という考えを無くさない限り女性の社会進出はできない。

年齢	性別	内容
80歳以上	男性	川西市の男女共同参画社会施策については具体的に聞く機会がなかった。今回の調査を受けたことから、勉強する必要があると思った。今後何かの方法で教育をお願いしたい。

(10) 情報提供

年齢	性別	内容
60歳代	男性	このアンケートを受け取って初めて男女共同参画の動きが分かるような気がした。今後市内の全世帯に何らかの情報が届いてみんなが発展的な認識を持てるようになればいい。
70歳代	男性	市民目線で具体的に行動すべき。具体的に行動に移したら積極的に発信する。「ホームページに」などはNG。SNS発信は全市民対象にはならない。税金を納めている市民への発信は重要である。
60歳代	女性	市民の意識を高める為、情報提供「広報」やチラシなど配布があがたい。学ぶことができるので引き続きお願いしたい。
16～19歳	男性	もっと多くの人に知ってもらうために情報発信してほしい。まだまだ市民の認知度は低い。
50歳代	女性	私同様に所在地も活動内容も知らない市民が多数いると思う。今の社会が最も求めている課題だと思うので、もっと市民に分かりやすくアピールして頂きたい。今回のアンケートで相談窓口があることを知り、少し安心感が持てた。今後のご活躍に期待する。
80歳以上	男性	健康維持、ボケ防止から色々なことに参加したいと思うが、どこにどんなものがあるのか全く知らない。もっとPR強化して積極的に参加を呼び掛けてほしい。
50歳代	男性	市の広報誌を読めば市が行っている男女共同参画施策について認知度が上がるのだろうが、能勢電車や阪急バスのつり革広告などにも川西市男女共同参画センターの広告などを出せばよいのでは。
60歳代	男性	今回の調査で「男女共同参画」に対する様々な取り組みについて知った。市よりもっと活動の内容を知らしめることが必要だと思う。メディアやインターネット、スマホ等のツールを有効利用できる施策を考えてほしい。
70歳代	男性	男女共同参画ということ自体知らない。もう少し詳しく知りたいのでパンフレット等配ってほしい。
70歳代	男性	男女共同参画のPRが少ない。全く知らなかった。名前も堅い。興味を持てるようにすべき。自治会（地域にはこれしかない）等に活動の場を求めてはどうか。例えば地域で起こった問題に対し自治会等で紹介して興味を持つようにしては。この施策に役所のナンバーを入れては。物事には全て活動があり、その成果が出なければ施策だけでは組織倒れになる。宝塚市はどうしているのか。他市の様子も調査してみてもどうか。
40歳代	男性	政府の施策との関係、川西ならではの特徴をさらにPRしてもらえると、より理解が深まると思う。公報でもさらにPRしてほしい。
20歳代	男性	男女平等参画施策というのが何なのか全く知らなかった。こういった告知などを行っているのかわからないが、もっと考えた方が良いのではないかと。市が作った情報誌のようなものに掲載しているのだろうと思うが、はたしてどれだけの人がそれを目にして読んでいるのか。また、その存在自体を知っている人がどれほどいるのか調べてみればどうだろうか？下手すると、税金の無駄遣いと思っている人も出てくるのでは。
60歳代	男性	どういう活動されているのか伝わってこない。
40歳代	女性	男女共同参画と言うが、あまり知れ渡っていないと思う。広報誌などで特集を組んだり、活動内容や施策についてもっとオープンにしていった方が良いと思う。何事もまず知ることから。そのために何をすべきか考えてほしい。
30歳代	女性	川西市に移住して間もない為、市の取り組みや支援についてほとんど知らない。紹介用にDVDなどレンタルできれば素敵だし、長く住み続けたい気持ちになると思う。色々知りたいと思うのでよろしく。
30歳代	女性	DVの相談場所があるならば、もっとしっかりアピールすべきであると思う。
30歳代	女性	パレット川西ってどこにあるのか。

(11) アンケート

年齢	性別	内容
40歳代	女性	女性は働きにくく、社会参加しにくいと思ってアンケートを作っていないか。施策を企画する方々の頭が古くて固い気が気がする。まずはご自身たちから勉強してほしい。
70歳代	男性	難解な質問が多くあり、正当な回答が困難であった。勝手に理解、解釈しての回答である。
16～19歳	男性	社会人向けの質問が多かったと思うので、学生向けの質問も増やしてみてもどうか。
70歳代	女性	高齢の為、どう答えれば良いか答えにくい問題があった。
30歳代	女性	質問の多くが極端すぎて答えづらかった。程度を表すものにする方が良かった問もあった。少しでも多くの取り組みが実るといい。
60歳代	女性	質問が多すぎて読むのも疲れた。アンケートをもっと少なく。
30歳代	女性	アンケート自体に誘導される質問があるので、結果をどのように利用したいのか疑問に感じる。
70歳代	女性	アンケートを書かせていただき、自分を見つめ直す良い機会になった。いつの間にかむずかしい言葉も増え、知らないことも多くなってきた。もう少し頑張っ て町も家庭も平和であってほしいと思う。時々、思い直すことは必要。
60歳代	男性	年金生活者にはあまり意見の必要性は無いのでは。
70歳代	女性	私自身が勉強不足により、川西市の男女共同参画施策について十分理解できていない為 にわからないことが多かったが、男女共同参画については前向きな気持ちを持っている。
50歳代	女性	男女共同参画施策は大変重要なことであり、川西市が住みよい町になる為に必要な意識 だと、アンケートを答えるにあたりよくわかった。一般のたくさんの人々にこのアン ケートをすることで、今まで気づかなかったことや見過ごして来たことを認識できた と思う。

(12) 行政

年齢	性別	内容
60歳代	女性	私達年代ではなかった夫の家事協力だが、息子達を見ていると教えなくても結婚してアイ ロンがけもしている。ハッとするがこれが普通のこれからの若い人の生活なのだと びっくりしたり、安心したり。自身の若い頃も夫の協力があれば、もっと仕事をして老 後の備蓄に励めていたかも知れないと思う。何はともあれ、社会の政治の改善、若者の 政治参加なくしては、この国はよくなると思う。女性が安心して働くためには、女 性の労働を必要とするならば、保育施設の充実なくしては考えられない。男性の収入 アップ、女性の労働、どれをとっても政治の改革が先決である。

.資料〔調査票〕

川西市男女共同参画に関する市民意識調査

ご協力のお願い

平素は、川西市の市政にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

本市では、男女が性別に関わらず個性と能力を発揮し、いきいきと暮らすことができる社会の実現に向けて、平成25年3月に策定した第3次川西市男女共同参画プランに基づき、さまざまな取り組みを進めています。

今回の調査は、平成29年度にこのプランの見直しをするにあたり、市民の皆さまのお考えをお聞かせいただくために行うものです。満16歳以上の女性1,000人、男性1,000人あわせて2,000人の方を無作為に選ばせていただきました。

この調査票にご記入いただいた内容については、統計的に処理を行い、調査の目的以外に使用することや皆さまのご迷惑になるようなことは一切ございません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。



平成28(2016)年8月

川西市長 大塩 民生

調査票にご記入いただくうえでのご注意

宛名のご本人がご自分のご意見などをありのままにお答えください。

回答は、当てはまる選択肢を選んで、1・2・3・・・の数字に をつけてください。

設問によっては、 をつける個数が決められていたり、回答していただく方が限られていたりするものがありますので、設問の指示に従ってお答えください。

ご記入いただいた調査票は、9月9日(金)までに同封の返信用封筒に入れてご返送ください。切手は不要です。

8月30日(火)に、「ご返送のお願い」のハガキを対象者全員にお送りします。これは、調査票の回収率を上げ、できるだけ多くの方のご意見を施策に反映させるためのものです。無記名での調査のため、それ以前にご返送いただいている方もやむを得ずお送りすることになりますが、予めご了承ください。

本調査に関するお問い合わせ先
川西市 市民生活部 人権推進室
TEL 072-740-1150



男女共同参画についてお聞きします。

問1 あなたは、どのようなときに男女の地位が平等になっていると思いますか。

(あてはまるものすべてに)

1. 家庭生活
2. 学校生活
3. 雇用の機会や職場での賃金・待遇
4. 地域活動の場
5. 法律や制度上
6. 社会通念・習慣・しきたり
7. 政治・経済活動への参加
8. 社会全体

問2 次の「ことがら」や「ことば」を見たり聞いたりしたことがありますか。

(~ のそれぞれについて、1~3の中であてはまるもの1つに)

	よく 知って いる	聞いた ことが ある	知らない
第3次川西市男女共同参画プラン(2013年策定)	1	2	3
川西市男女共同参画推進条例(2015年制定)	1	2	3
育児・介護休業法(1992年施行)	1	2	3
女性活躍推進法(2016年施行)	1	2	3
ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	1	2	3
リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する健康の増進と権利の擁護)	1	2	3
セクシュアル・マイノリティ(性的少数者)	1	2	3
マタニティ・ハラスメント(マタハラ)	1	2	3

ジェンダーって？

社会的・文化的につくられた性差のことだよ。生物学的な性(セックス)とは区別して使われているよ。



問3 あなたは、ジェンダー問題や男女共同参画がどういうものなのかを学んだり、教えられたりしたことがありますか。(どちらか1つに)

1 . ある

2 . ない

問5へお進みください。

▶ [問3で「1 . ある」と答えた方におたずねします。]

問4 それはどこですか。(あてはまるものすべてに)

1 . 家庭で

2 . 小学校で

3 . 中学校で

4 . 高等学校で

5 . 大学で

6 . 職場で

7 . 自主的な学習グループで

8 . 新聞やテレビなどマス・メディアで

9 . 民間のカルチャーセンターで

10 . 公民館などの講座で

11 . 川西市男女共同参画センターが主催する講座で

12 . 県や他市の男女共同参画(女性)センターなどが主催する講座で

13 . その他(具体的に :

)



結婚と家庭生活についてお聞きします。

問5 あなたは結婚・離婚・家庭についてどう思いますか。

(~ のそれぞれについて、1か2に)

	そう思う	そう思わない
人間の幸福は結婚にあるのだから結婚した方がよい	1	2
結婚しても相手に満足できない時は離婚すればよい	1	2
結婚しても夫婦別姓の方がよい	1	2
入籍せずパートナーとして暮らすのがよい	1	2
夫は外で仕事をし、妻は家事・育児など家庭を守るのがよい	1	2

問6 あなたの家庭では、次のようなことを主に誰が担っていますか（未婚の方は親の場合で考えてください）。（～のそれぞれについて、1～4の中であてはまるもの1つに）

	主として夫	夫婦同程度	主として妻	その他
日常の家事（食事のしたく、そうじ、洗濯、ゴミ捨てなど）	1	2	3	4
生活費の確保	1	2	3	4
日常の家計管理	1	2	3	4
子育て	1	2	3	4
高齢者、病人の介護・看護	1	2	3	4
家庭における重要な決定	1	2	3	4



子育てについてお聞きします。

問7 子育てについてあなたはどのように思いますか。（～のそれぞれについて、1か2に）

	そう思う	そう思わない
祖父母、保育士等父母以外の多くの人々が子育てに関わるのがよい	1	2
3歳までは、母親が子育てに専念するべきである	1	2
子育ては、夫も妻も等分に関わるのがよい	1	2
男女とも、経済的自立ができるように育てるのがよい	1	2
男女とも、家事・育児ができるように育てるのがよい	1	2
個性を伸ばし、個人を尊重する育て方がよい	1	2
女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい	1	2



介護についてお聞きします。

問 8 あなたは今、家族の誰かを介護していますか。または介護をしたことがありますか。
(どちらか1つに)

- 1 . している (したことがある)
- 2 . していない (したことがない) 問 11 へお進みください。

▶ [問 8 で 「 1 . している (したことがある) 」 と答えた方におたずねします。]

問 9 介護した相手は誰ですか。(あてはまるものすべてに)

- 1 . 配偶者
- 2 . 親
- 3 . 子
- 4 . 兄弟・姉妹
- 5 . 祖父母
- 6 . 配偶者の親
- 7 . 配偶者の祖父母
- 8 . その他 (具体的に)

▶ [問 8 で 「 1 . している (したことがある) 」 と答えた方におたずねします。]

問 10 介護はどのように行っていますか (または行っていましたか)
(あてはまるもの1つに)

- 1 . 主に自分一人で介護している
- 2 . 主に自分が介護しているが、配偶者、子ども、その他の家族などの協力がある
- 3 . 主に他の人が介護しているのを手伝っている
- 4 . サービスなどを利用しながら介護している
- 5 . その他 (具体的に :)



女性と仕事についてお聞きします。

問 11 一般的に女性が収入をとまなう仕事をもつことについて、あなたはどのように思いますか。
(あてはまるもの1つに)

- 1 . 子どもができて、育児休業をとるなどして仕事はずっと続ける方がよい
- 2 . 結婚や出産で退職または一時離職し、子育てを終えてから再び仕事をもつ方がよい
- 3 . 結婚や出産までは仕事をもつ方がよい
- 4 . 仕事は家計の補助程度の働きでよい
- 5 . 女性は仕事をもたない方がよい
- 6 . その他 (具体的に :)

問12 あなたは、現在の女性は働きやすい状況にあると思いますか。

(あてはまるもの1つに)

1. そう思う 問14へお進みください。
2. そう思わない
3. わからない 問14へお進みください。

▶ [問12で「2. そう思わない」と答えた方におたずねします。]

問13 そう思わない理由は何ですか。(あてはまるもの3つまでに)

1. 働く場が限られているから
2. 能力発揮の場が少ないから
3. 労働条件が整っていないから
4. 保育・介護施設が整備されていないから
5. 昇進・給与等に男女の差別的扱いがあるから
6. 結婚・出産退職の慣行があるから
7. 男は仕事、女は家庭という社会通念があるから
8. 家族の理解、協力が得にくいから
9. その他(具体的に:)

[すべての方におたずねします。]

問14 家庭で育児や介護が必要なとき、共働き夫婦が育児休業や介護休業を取るとしたらどうするのがよいと思いますか。育児休業、介護休業それぞれについてお答えください。

育児休業(あてはまるもの1つに)

1. どちらかといえば夫が取るのがよい
2. どちらかといえば妻が取るのがよい
3. 夫も妻も同じように取るのがよい
4. その他(具体的に:)

介護休業(あてはまるもの1つに)

1. どちらかといえば夫が取るのがよい
2. どちらかといえば妻が取るのがよい
3. 夫も妻も同じように取るのがよい
4. その他(具体的に:)



ワーク・ライフ・バランスについてお聞きします。



ワーク・ライフ・バランスって？

誰もが、やりがいや充実感をもって仕事をするだけでなく、家庭や地域生活なども充実させて、自分が望む人生を送ることだよ。

問15 あなたは「仕事と生活の調和」すなわち「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていますか。(あてはまるもの1つに)

- 1 . 名前も内容も知っている
- 2 . 名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない
- 3 . 名前も内容も知らない
- 4 . わからない

問16 あなたの現実(現状)に最も近いものはどれですか。(あてはまるもの1つに)

- 1 . 「仕事」を優先している
- 2 . 「家庭生活」を優先している
- 3 . 「地域・個人の生活」を優先している
- 4 . 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 5 . 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 6 . 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 7 . 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 8 . わからない

問17 あなたの希望に最も近いものはどれですか。(あてはまるもの1つに)

- 1 . 「仕事」を優先したい
- 2 . 「家庭生活」を優先したい
- 3 . 「地域・個人の生活」を優先したい
- 4 . 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 5 . 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 6 . 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 7 . 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 8 . わからない

問18 あなたは次のような活動をしていますか。(あてはまるものすべてに)

- 1 . 県・市町の審議会・委員会などでの活動
- 2 . 自治会・コミュニティ等の活動
- 3 . P T A活動
- 4 . 子ども会などの青少年育成活動
- 5 . 青年団体・老人団体等の活動
- 6 . 消費者団体・生活協同組合等の消費者活動
- 7 . N P Oやボランティアなどの市民活動
- 8 . その他の社会活動(具体的に:)
- 9 . 活動していない

問19 あなたが参加した活動では、次のようなことがありましたか。

(~ のそれぞれについて、1~4の中であてはまるもの1つに、それ以外の内容については、「 その他」に記入してください。)

	ある	少しある	ない	わからない
行事やイベントの企画は主に男性が決定している	1	2	3	4
代表者は男性から選ばれる	1	2	3	4
女性は責任のある役を引き受けたがらない	1	2	3	4
お茶入れや食事の準備などは女性がしている	1	2	3	4
女性は発言しにくい雰囲気がある	1	2	3	4
名簿上は男性が会員になっているが実際は女性(配偶者)が活動している	1	2	3	4
PTA活動は女性中心、自治会は男性中心であるなど、男性と女性の仕事が分けられている	1	2	3	4
その他(具体的に:)	1	2		

問20 あなたは、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに)

1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす
2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす
3. 夫婦や家族でよく話しあう
4. 当事者(夫婦間)の考えを尊重し、まわりの人が固定的な観念等押しつけない
5. 社会の中で、男性が家事などを行うことに対する評価を高める
6. 労働時間短縮や休暇制度を普及し、仕事以外の時間を多く持てるようにする
7. 男性が家事などに関心を高めるよう情報提供や啓発を行う
8. 男性の家事や子育て、介護等の技能を高める
9. 男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間(ネットワーク)づくりをすすめる
10. 仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける
11. その他(具体的に:)

〔問27で「2.いいえ」と答えた方におたずねします。〕

問29 相談しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに)

1. 誰(どこ)に相談してよいかわからなかったから
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
3. 相談しても無駄だと思ったから
4. 相談したことがわかると、仕返しやもっとひどい暴力を受けると思ったから
5. 相談相手の言動により、不快な思いをさせられると思ったから
6. 自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから
7. 世間体が悪いと思ったから
8. 他人を巻き込みたくなかったから
9. 自分に悪いところがあると思ったから
10. 相談するほどのことではないと思ったから
11. その他(具体的に:)

〔すべての方におたずねします。〕

問30 DV被害を受けたときに相談できる機関や関係者のうち、あなたが知っているものはどれですか。(あてはまるものすべてに)

1. 警察
2. 市役所
3. 川西市男女共同参画センター
4. 兵庫県女性家庭センター(配偶者暴力相談支援センター)
5. 民生児童委員
6. 人権擁護委員
7. 民間支援団体
8. 医師その他医療関係者
9. 教員その他学校関係者
10. その他(具体的に:)



デートDVって?

恋人や交際相手などの間で起こる暴力のこと。恋人から、心ない言葉で傷つけられたり、暴力を受けたりするなどして恐怖を感じることもあるとしたら、それは対等な関係ではないし、望ましい状態ではないことに気づくことが大事なんだよ。

問31 あなたは、「デートDV」をご存じですか。(あてはまるもの1つに)

1. どのような行為か内容までよく知っている
2. 言葉は聞いたことがあり、ある程度知っている
3. 言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない
4. ほとんど知らない

問32 あなたは、デートDVをなくすためには、どうしたらよいと思いますか。

(あてはまるものすべてに)

- 1 . 家庭で、保護者が子どもに対し、暴力がいけないことを教える
- 2 . 家庭で、暴力について話し合う機会をつくる
- 3 . 学校などで、男女が対等な関係であることや、暴力を防止するための教育を行う
- 4 . 地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う
- 5 . メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う
- 6 . 暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、インターネットなど)を取り締まる
- 7 . 身近に安心していつでも相談できる窓口を増やす
- 8 . メールや電話での相談窓口を増やす
- 9 . 学校などに、デートDVの相談窓口をつくる
- 10 . 加害者の暴力を罰せられるような制度や法律をつくる
- 11 . 暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う
- 12 . その他 (具体的に :)
- 13 . わからない

問33 ユネスコによる「性教育国際ガイドライン」では、人間関係、人間の発達、性行動など6つの重要概念を学習目標として示し、子どもの発達段階に応じて教育することを提唱しています。あなたは性教育についてどのように思われますか。

(あてはまるものすべてに)

- 1 . 間違っ性情報があらゆるところで氾濫しているので、できるだけ早い時期に行った方がいい
- 2 . そのような教育は早く行えば行うほど、子どもに悪影響を及ぼすので行わない方がいい
- 3 . 家庭で家族が、子どもの成長に応じて必要なことを教えていくのがよい
- 4 . 学校で教師が、子どもの成長に応じて必要なことを教えていくのがよい
- 5 . 学校では教えない方がいい
- 6 . 保健所や保健センターなどが、積極的に教えていくのがよい
- 7 . 国や自治体などの公共団体が積極的に講座等を開き教えていくのがよい
- 8 . 思春期になれば性に興味や関心を持つことは自然なことなので、あえて教える必要はない
- 9 . その他 (具体的に :)



市の男女共同参画施策についてお聞きします。

問34 あなたは、複合施設「パレットかわにし(1階)」にある川西市男女共同参画センターを利用したことがありますか。または、ご存じですか。(あてはまるもの1つに)

- 1 . 利用したことがある
- 2 . 知っているが利用したことはない
- 3 . 聞いたことがある
- 4 . 知らない

問35 本市には男女共同参画を進めていくための拠点として川西市男女共同参画センターがありますが、あなたは、この男女共同参画センターにどのようなことを希望しますか。
(あてはまるものすべてに)

- 1 . 男女共同参画に関する図書や情報の収集・提供
- 2 . 自主的な活動への助成・支援
- 3 . 講座・学習時の保育支援
- 4 . 「女性の悩みごと相談」などの相談事業の充実
- 5 . セクハラ・DV被害者への相談・支援
- 6 . 男女共同参画に関する講座の充実
- 7 . ボランティア等の人材を育成する講座の充実
- 8 . 就労を支援する講座の充実
- 9 . 起業やNPO設立に関する相談
- 10 . その他(具体的に：)

問36 あなたは、防災・災害対策において、性別に配慮した対応で必要だと思うものがありますか。(あてはまるものすべてに)

- 1 . 避難所の設備(男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗濯干場等)
- 2 . 避難所運営に男女がともに参画し、被災者対応に男女両方の視点が入ること
- 3 . 災害時の救援医療体制(乳幼児、高齢者、障がい者、妊産婦のサポート体制)
- 4 . 公的施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮
- 5 . 被災者に対する相談体制
- 6 . 自治会等の地域における防災訓練に、男女がともに参画し男女両方の視点が入ること
- 7 . 防災に関する会議に女性委員の割合を増やすこと
- 8 . その他(具体的に：)

問37 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障がいとなるものは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに)

- 1 . 現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと
- 2 . 女性自身がリーダーになることを希望しないこと
- 3 . 上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと
- 4 . 長時間労働の改善が十分ではないこと
- 5 . 企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること
- 6 . 保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと
- 7 . 保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと
- 8 . その他(具体的に)
- 9 . 特にない
- 10 . わからない

あなたが同居している家族の構成を教えてください。(は1つ)

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. 単身世帯(一人暮らし) | 2. 1世代世帯(夫婦のみ) |
| 3. 2世代世帯(親と子) | 4. 3世代世帯(親と子と孫等) |
| 5. その他 | |

あなたは、現在、収入をともなう仕事についていますか。産前・産後、育児介護休暇中の人は働いているものとみなします。(どちらか1つに)

1. 仕事をしている 2. 仕事をしていない 付問2へお進みください。

▶ [「1.仕事をしている」と答えた方におたずねします。]

付問1 どのような仕事をしていますか。(あてはまるもの1つに)

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 1. 営業主・会社経営 | 2. 家業手伝い(農林漁業を含む) |
| 3. 自由業者(弁護士・開業医・個人教師等) | 4. 内職など(在宅で受託) |
| 5. 公務員等(私立学校教師含む) | 6. 正社員 |
| 7. 臨時雇用・パート・アルバイト | 8. 派遣社員 |
| 9. その他(具体的に: _____) | |

[「2. 仕事をしていない」と答えた方におたずねします。]

付問2 仕事をしていない理由は何ですか。(あてはまるもの1つに)

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1. 学校に通っているから | 2. 家事・育児・介護に専念したいから |
| 3. 家事・育児・介護を担わざるを得ないから | 4. 経済的に必要としないから |
| 5. 求めているが希望する仕事がないから | 6. 希望する就労時間に合わないから |
| 7. リストラにあったから | 8. 定年・高齢のため |
| 9. 健康や体力に自信がないから | |
| 10. 趣味やボランティア等の活動をしているから | |
| 11. 仕事を持たないほうが、自由に生きられるから | |
| 12. その他(具体的に: _____) | |

[配偶者やパートナーと一緒に暮らしていらっしゃる方におたずねします。]

あなたの配偶者やパートナーは収入を得る仕事をしていますか。(どちらか1つに)

1. 仕事をしている 2. 仕事をしていない

「男女共同参画に関する市民意識調査・結果報告書」

【発行】平成 29 (2017) 年 3 月発行

川西市 市民生活部 人権推進室

兵庫県川西市中央町 12-1 ☎072-740-1150

